

2024年度事業報告

社会福祉法人多摩福社会

2024 年度事業報告

◆ 目 次 ◆

法人本部	p.1
こぐま保育園	p.3
向山保育園	p.12
砧保育園	p.21
上北沢こぐま保育園	p.32
しろくま保育園	p.41
永山小学童クラブ	p.50
貝取学童クラブ	p.59
永山学童クラブ	p.71
貝取小学童クラブ	p.81
貝取小放課後子ども教室	p.89

2024 年度 社会福祉法人多摩福祉会事業報告

1. 中期計画

- 中長期計画の素案は作成したが、理事会への提案には至らなかった。各拠点の財政および人事計画を基に、具体化に取り組む。
- 練馬区立保育所運営委託事業者の公募および世田谷区内での民設民営学童クラブの事業者公募について、委員会および経営会議で検討を行ったが、応募には至らなかった。新規事業を進めるためには、施設長候補となりうる職員の育成に取り組む。
- 向山保育園の民間委託化については、練馬区との協議を進め、今後も民営化に向けた協議を続けていく。
- しろくま保育園で1歳児1年保育（定期利用保育）および一時保育事業を実施した。

2. BCP（事業継続計画）の策定

- BCP 策定に着手することができなかった。

3. 理事会・評議員会

- 2025 年度の改選に向けて、新たに評議員や役員候補者を選定した。
- 理事会は8回、評議員会は4回開催し、必要な審議をおこなった。また、評議員会と理事会の役割を見直すために、定款を変更した。

4. 経営会議等諸委員会

- 経営会議を20回開催し、職員採用、人事異動、処遇改善、各拠点の課題や諸規則の見直しなどを審議・実行した。また、予算および決算、事業計画や事業報告等についても理事会へ提案する議案の審議をおこなった。
- 経営会議内での研修を3回実施した。具体的には、法人本部による50年誌学習会、新瑞福祉会の石井理事長による法人運営に関する講義、石神社労士による改正育児介護休業法に関する研修を実施した。
- 施設長会議および各委員会において、課題別の会議を実施し、経営会議へ必要に応じて審議事項として提案し、論議を行った。

5. 各拠点への援助

- 拠点のみで対応できない課題については、本部と連携し、問題解決に取り組んできた。1月からは顧問弁護士との契約を開始し、法的な対応も適切に行うことができた。

6. 人事管理・職員定着・人事異動・職員採用・施設長人事

- 人事データの整理をおこなった。
- 職員定着のための処遇改善や交流の場を提供し、特に3年目職員との懇談を実施して

職員同士の絆を深めた。

- 職員採用については、リクルート委員会の活動もあり、各拠点が希望する職員数を確保できた。
- 人事異動は、職員のスキルアップや財政見通し、経験年数、職員の希望を踏まえ、各施設長との調整を行い実施した。

7. 研修

- 入職前研修、中堅層研修、法人合研は研修委員会が担当し、新人交流会はリクルート委員会が担当し、それぞれ実施された。研修の過密化に対応するため、研修体系の整備が今後の課題となっている。
- 法人合研や全国保育団体合同研究集会をはじめ、さまざまな場で実践提案を行い、保育の質を深めることができた。また、こぐま保育園を中心に自主的な研究サークルが発足し、実践を学び合う場となった。

8. 異年齢保育実践の出版

- 異年齢保育の実践をまとめた『きもちつながる 異年齢保育』を、編集委員会が取りまとめ出版した。この書籍を今後、実践の場で活用し、保育の質を向上させたい。

9. 対外任務・対外交流・保育・学童情勢・社会問題

- 社会福祉経営全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京民間保育園経営研究懇話会、日本学童保育学会、関係自治体の施設長会議などで役員としての任務を果たした。
- 多摩福祉会、新瑞福祉会、わたり福祉会の3法人合同研修を実施し、施設見学を含めた交流を行った。

10. 地域貢献・災害対応

- 各拠点で、地域の子育て支援事業として「あそぼう会」「子育て広場事業」「一時保育事業」「こども食堂」「学び場」「1歳児1年保育」等、地域のニーズに応じた活動を継続して実施した。
- 各拠点でBCP（事業継続計画）を策定し、災害発生時の対応に備えた。

11. ICT化

- 法人ニュース：広報誌『たまふく』第20号、第21号、第22号を発行。
- 法人ホームページ・SNS：施設ごとに担当者を配置し、定期的に更新を実施することにより、リクルート活動にも貢献した。
- 各施設におけるICT化を進め、業務効率化を図った。

こぐま保育園 2024 年度事業報告

1. 事業内容

(1) 認可定員 211 名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
利用定員	15	30	32	35	38	39	189
4 月空き	6	2		1	1		10
運用定員変更 (11 月)	18						

(利用定員を 1 歳児 2 名、2 歳児 3 名、3 歳児 3 名、4 歳児 1 名減に変更。)

途中退園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
途中退園		2	3	1	2		8

途中入園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
5 月	1	1				1	3
6 月	2		1				3
7 月	3	1					4
8 月			1				1
9 月				1			1
10 月		1					1
11 月	1						1
12 月	2						2
1 月							0
2 月				1	1	1	3
3 月					1		1
合計	9	3	2	2	2	2	20

- (2) 保育年齢 産休明け～就学前
- (3) 保育時間 7:00～19:00
- (4) 延長保育事業 18:01～19:00
- (5) 1～5歳児の異年齢保育
- (6) 障がい児保育
- (7) アレルギー食対応
- (8) 地域子育て支援事業
 - 体験保育 16 家庭 36 名
 - 産前産後育児体験、 7 家庭 12 名
 - 小中高生の育児体験 20 名
 - 実習生受け入れ 11 名
- (9) 多摩市特別保育事業
 - ① 一時・定期利用保育事業
 - イ) 利用定員及び利用数：定期利用 登録総数 6 名
延べ人数 382 名
 - 一時利用 登録総数 32 名
延べ人数 591 名
 - ロ) 保育職員体制：職員 2 名
- (10) 自主地域活動事業
 - ① あそぼう会：定期開催 金曜日 0～3 歳児利用
 - ② 育児講座 実施
 - ③ 世代間交流 収穫祭り 冬まつり 年末年始行事にセンター利用者参加

2. 児童状況

① きょうだい関係

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	合計
世帯数	6	6	7	4	9	6	38

② アレルギー食対応児 11 名

3. 職員状況

- (1) 正職員（在籍）42 名

<正職員配置状況>

職種	園長	副園長	事務長	主任	チーフ	保育士	看護師	栄養士	調理員	育休	合計
人数	1	2	1	0	1	31	1	5	0	0	42

- ① 新規採用者 栄養士 1 名
- ② 産休・育休取得者 3 名
- ③ 病休・休職取得 4 名
- ④ 育休復帰者 3 名
- ⑤ 育児時短取得者 4 名
- ⑥ 短時間正職員 0 名
- ⑦ 法人内異動者 保育士 1 名（4 月～ 学童より）
- ⑧ 退職者 保育士 1 名・看護師 1 名（24 年 12 月末、3 月末）

(2) 有期契約職員等

1) 配置状況

① 有期契約職員

- イ) 年度当初配置数 42 名（4 月入職 3 名）
（うち有資格長時間勤務者 6 名、その他有資格者 8 名、子育て支援員 7 名）
- ロ) 年度途中入職 9 名
- ハ) 退職 10 名（うち 4 名 2024 年 3 月末退職）
- ② 派遣職員 5 名（年度途中派遣 産休・病休代替え）
- ③ 業務委託 7 名（保育実践アドバイザー、事務室補助、駐車場見守り、
剪定業務、花壇整備）

<配置状況>

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちい くま	環境 衛生	事務 室	業務 委託
人員数 4 月	4	4	5	4	5	7	6	2	2	6	5
人員数 年度末 (派遣数)	4 (1)	4	6 (2)	4	4 (1)	7	6	2	2	5 (1)	5

嘱託医 3 名

- ① 小児科医 1 名（松本多絵医師 日本医科大学永山病院小児科医局長）
- ② 産業医 1 名（加藤真医師 横浜市立大学付属市民総合医療センター）

- ③ 歯科医 1 名（足立徹歯科医 あだち歯科クリニック）

(3) 講師等

- ① わらべうた 勝俣希子
② 保育実践アドバイザー 谷まち子

4. 協力関係機関

- (1) 島田療育センター巡回指導 必要回数
(2) 発達支援室巡回 必要回数
(3) 市・健康センター、子ども家庭支援センターへの相談と連携
(4) 都保健所保健指導、児童相談所相談等の援助・協力
(5) 産業医との連携

5. 重点とする取り組み

2024 年度、保育や取り組みの再構築を中心に運営を行ってきました。保護者より『戻す』ではなく『新たに作る』という視点を」との思いが寄せられ、こぐま保育園の大切にしてきたもの、これからも大切にしていきたいものを本質的に捉えながら、子ども・保護者・職員で共有していくことを大切にしてきました。

こうした視点を基に、2024 年度実施事業について以下の通り報告としてまとめます。

(1) 地域要求をもとに定員の適正化への動きを着実に実施します。

定員の適正化については、地域の状況を含めて段階的に進めてきました。2024 年度当初は、0 歳児 15 名の利用定員に対し 9 名、1 歳児 30 名の利用定員に対して 28 名と大きく定員割れをしてスタートしました。

また、年度途中での入園、転園、退園についても「1 - (1)」でも示したように、例年になく動きが多い年度となりました。その要因として、積極的な運用定員の活用、他市転入出が挙げられます。また、潜在的保育需要が明らかになり、その受け皿としての機能を十二分に発揮した結果でもあると考えます。

入園家庭ならびに在園家庭保護者との意見交換では、「入りたいときに入れる保育園」という位置づけがとても貴重かつ望ましいとの思いも示される中、安定的な運営をめざしながら、今後も実現していく必要があると考えます。

(2) 子どもの権利が守られ、主体性・自主性が発揮される保育を実践します。

- ① 子どもの権利をしっかりと捉える

⇒日常的な会議や職員面談内で、実践的に捉える視点の共有やカンファレンス、キャリアアップ研修や法人内研修における学習、総括会議内での学習会など、多くの機会を持つことができました。一方で、子どもの気持ちを本質的に受け止め切れていないのではと振り返る実践もあり、子ども理解、保育の質に関する学習や啓発活動については継続的に取り組んでいきたいと思います。

② 子どもの生理的欲求、内発的欲求にしっかり向き合い捉える

⇒職員全体で「子どもたちが主体性を発揮できる、環境を通した保育とは？」というテーマで論議や研修を進めてきました。それにより、新たに夏時期に移動した合宿の内容を子どもたちと共に作り上げる取り組みや、子どもたちの疑問やひらめきから作り上げる活動の取り組みなど、様々な面で充実させることができました。

③ 子どもが生活の主人公となる日々を取り戻すために

⇒総括会議、責任者会議などでの学習や各おうち会議での共有などを通して、子どもの生活と主体性について今一度学びなおすことができました。同時に、食・睡眠・排泄・着脱・清潔など、それぞれの細かい環境の見直し、実践と振り返りを行いながら、“共に暮らす保育”に取り組むことができました。

④ 想像力豊かに、相手の立場に立った思考をもてるように

⇒「5－(2)②」とも連動させながら、子ども一人ひとりの欲求に目を向け、その理解と共同の作業を子どもたちと共に行うことで積極的に取り組んできました。日々の生活はもちろん、活動一つひとつにおいて、職員がファシリテーターとなりながら子どもたちをつなぎ、相互理解を深めながら折り重ねていく丁寧な保育を実践することで、豊かな保育へとつながったと考えます。

保護者との取り組みとしても、「誰でも懇談会」として、おうちごとの枠組みを超えた懇談の場を設ける、「性」に関する学習会の実施など、学びと共に考える機会の創造を行うことができました。

⑤ 歴史の上に立って保育内容を検討することにより保育内容を発展させます。

⇒新規採用職員研修を拡大開催し、改めて今の異年齢保育やこぐま保育園の保育の成り立ち等を、多摩福祉会 50 年誌を含めた様々な文献をもとに学習を行いました。また同時に、今の時代における保護者理解や保護者支援について総括会議の場で学習を行うことなどを通して、「保護者の生活実態をつかみつつ、歴史的に創造される保育づくり」という視点について考えあう機会を作ることができました。

一方で、「歴史を振り返って検討する視点」を定着させることは容易ではなく、実践が形骸化し、歴史の本質的な側面を捉えきれない場合もあります。職員間でこの課題を共有し、今後の改善点として取り組む必要があると考えます。

(3) 職員の主体性が発揮できる運営を目指します。

- ① 園長交代という大きな転換期を迎え、新しいこぐま保育園の運営スタイルの礎を
⇒園長1年目として試行錯誤ではありましたが、学習と共感を土台としながら、職員と共に成長していく運営スタイルを大切にしてくることができました。
- ② 幹部体制、事務室体制の構築
⇒日頃からの情報共有や意見交換、実践の振り返り等を通して、「幹部に求められるものとは？」というテーマに目を向けながら運営してきました。一方で、ライフワークバランスの変革と、効率性の向上については意識的に取り組んだものの、定着化まではさせることができず今後の課題となりました。
- ③ 保育について話す、考える時間を
⇒保育研という学習要素を盛り込んだ会議の活用、保育実践アドバイザーの取り組み、総括会議全期での保育を通した学習などを通して、保育実践交流と現場の活性化に取り組むことができました。また、自主的な学習機会や交流機会の場も増え、職員の積極的かつ主体的な意識づくりも少しずつ定着し始めることができてきました。
- ④ 職員体制の再構成をおこないます。
⇒正職員人数の変更、有期職員の構成変更など、利用定員と運営・保育をリンクさせながら、「3－(1)および(2)」の通り、具体的変化を作り出すことができました。
- ⑤ 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。
⇒育児短時間勤務制度、短時間正規職員制度など既存の制度の積極的活用と固定給型有期契約職員の力の活用を土台に創意工夫をこらした働きやすい職場づくりに取り組むことができました。
- ⑥ 積極的な人事交流を行います
⇒職員の安定的な体制確保を行うことが難しく、積極的な人事交流を行うことが難しい現状がありました。次年度重点課題とし、改めて法人内他施設との人事交流を図っていきたいと考えます。

(4) 保護者と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。

- ① まずは共有が第一歩
⇒本年度は全ての保育場面や行事において、保護者や地域など多くの方にご参加いただく行事づくりを行うことができました。その中で、職員や園としての思い、同時に保護者の思いや感想を交流させながら保育づくりを行うことができました。その結果、ふゆまつりでは、在園児童の保護者が日本の伝統芸能を披露していただく機会を作ったり、おやじの会が復活したりなど、大きな変化がみられるようになりました。

② 共に作るは共に考える

⇒当初の計画通りの、懇談会や交流会、五者協議会に加え、誰でも懇談会や保護者と職員が共に集まっての学習会実施などに取り組むことができました。

それにより、日々の保育の充実はもちろん、行事や保護者活動の活性化を図ることができ、来年度以降の共に作りあう関係性作りの土台を作ることができたと考えます。

(5) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。

① 子育て世代のよりどころとして

24年度は週1回の地域子育て支援「あそぼうかい」を実施しました。子ども同士の関わりだけでなく大人も一緒に遊ぶことを取り入れることで保護者同士の繋がりも増え、更に児童館との連携も図ることで輪が広がりとくさんの方が参加して下さいました。なかでもお父さんの育休取得者も増えたことによりご両親揃っての参加のご家庭も多かったことが特徴的でもありました。

入所見学と同日に保育所体験を行ったことにより、参加して下さる家庭が増加し、見学のみならず実際に体験をすることでより保育園を知る機会につながっていました。特に、保育所体験で試食していただく際には、在園児のお子さんが食事を楽しむ姿や離乳食への関心の高さが見られました。また、離乳食教室では、実際の調理過程を見学しながら試食し、栄養士や保育士にリアルタイムで質問や相談ができることに対して、参加者から強い需要を感じました。これらの反応を受け、例年よりも回数を増やして実施することができました。

② シニアサークルは月2回土曜日に子育て福祉センターで取り組んでいます。引き続き 2024 年度も保育行事とタイアップして、地域のシニア世代との交流を実施することができました。シニアサークルの方と在園児、職員のみならず、地域の子育て世代の方との交流も図れる取り組みの実施に向けての計画、実践が今後の課題となります。

③ 一時・定期利用保育事業を発展させます。

定期利用 6名、一時保育登録 38名が利用しました。

幼稚園での「満3歳児保育」や2歳児でも通園可能な「プレ保育」の導入が進む中、2歳児の利用者が減少する傾向が見られます。また、「こども誰でも通園制度」では、希望する家庭が利用できない状況が生じており、受け入れの要望が高まっています。このような背景を受けて、7月からは在園児と合同で過ごす異年齢保育室を導入し、保育の質を確保しつつ変革を進めています。そのため、11月頃から満1歳児になった児童の利用希望者が増大しましたが、保育の質を保障しながら需要に合わせて受け入れることができました。異年齢児との関わりの中で今までよりも成長がみられる姿があり、保護者のかたも共感し、入所に

繋がっていくご家庭もありました。

④ だれでも集える実家のような子育て福祉センターづくり

⇒包括的な地域支援事業の仕組みづくりを目指しましたが、本年度内での計画は難しく、次年度以降の重点課題とします。

(6) 新たな課題による財政問題の取り組み

⇒年度当初不安定であった財政面も、運用定員の積極的な活用、修繕費の精査、運営による人材登用の工夫など、多くの努力により収支赤字を解消することができました。一方で、制度上の矛盾による人件費上昇、物価高騰が及ぼす事業費・事務費への影響など、まだまだ安定的な財政運営とは程遠い現状です。

これについては、財政の姿や運営上の課題などを明らかにし、財政の健全性を確保するために取り組んでいく必要性があり、利用定員の適正化や事業の見直し、運用定員の積極的な活用や修繕計画の見直しなど、将来にわたって持続可能で強固な財政基盤の確立に向け、引き続き取り組んでいきます。

また、多摩市はもとより、東京都や国に対し運営や労働実態を積極的に発信し、保育園の運営安定化や保育従事者処遇の改善に向けた財源確保への取り組みをより強化していく必要性があります。

6. 職員研修実績

2024 年度、研修計画の策定に当たっては大きく 4 つの柱を立て、進めました。

以下に立てた柱は、子どもたちから学び、職員自らが学びあい、専門職としての基礎を培い、その土台の上に「楽しく、豊かな保育の創造」を行っていく上で欠かすことのできない要素であると考えます。こうした学びの機会を経て“職員が働きがいのある民主的な職場”作りへとつながっていくと考えます。

1) 園内研修・法人研修

2) 出張研修（状況に応じてオンラインなどにも参加します。）

3) キャリアアップ研修

4) 法人の 50 年・こぐまの 50 年から学び発展するために

➡研修については上記の柱を中心に実践を行ってきました。今年度は見学者の受け入れや、全国的な研修での事例提案の発表なども積極的に行い、実践の発信を通して学びを深めることができました。今後も広い視野をもって保育を創造していけるよう、園見学や研修参加など積極的に行い、新しい風を受け入れながら、学びを積み上げていく事に取り組むことを大切にしていきたいです。

7. 修繕実績

自治体特有の財政的裏付けの乏しさや、様々な制度上の制限等があり、計画通りに修繕等を行うことが難しい現状がありました。当初の予定通り必要最小限の修繕にとどめ、再計画と今後の見通しが立った時点でしっかりと取り組んでいけるよう、当期末資金残高へ積み立てることとしました。

一方で、今後も施設整備積立金の積み立ておよび取崩しや福祉医療機構借入金の検討、拠点間繰入等、法人全体で財政計画の検討を進めていきます。

また、国、東京都及び多摩市に向けて運営費および補助金の拡充や諸制度の見直しを引き続き強力に働きかけていきます。

【修繕実施】 建具修繕・にじの勝手口取り換え工事

向山保育園 2024 年度事業報告

1. 事業内容

(1) 認可定員 120 名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
利用定員	9	19	22	24	25	24	124
4 月空き	4	0	0	1	5	1	11

途中退園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
途中退園	0	1	1	0	1	0	3

途中入園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
5 月	1			1			2
6 月	1					1	2
7 月							0
8 月	2						2
9 月							0
10 月		1			1		2
11 月							0
12 月							0
1 月							0
2 月							0
3 月							0
合計	4	1	0	1	1	1	8

(2) 保育年齢 8 ヶ月～就学前

(3) 保育時間 7:00～20:30

(4) 延長保育事業 7:00～ 7:30
18:30～20:30

(5) 障がい児保育

(6) アレルギー食対応

- (7) 地域子育て支援事業(おひさま広場)
- 体験保育、 7 家庭 14 名
- 産前産後育児体験、 5 家庭 9 名
- 小中高生の育児体験、 11 名
- (8) 実習生受け入れ 10 名
- (9) 休日保育事業
- 保育時間 7:30～18:30
- 定員 1 歳児：3 名(0 歳児クラスの 1 歳は 1 名)
- 2 歳児：3 名
- 3～5 歳児：24 名
- 利用数：延べ 453 名

2. 児童状況

- ① きょうだい関係 15 家庭
- ② アレルギー食対応児 2 名

3. 職員状況

- (1) 正職員（在籍）42 名

<正職員配置状況>

職種	園長	副園長	事務長	主任	チーフ	保育士	看護師	栄養士	調理員	育休	合計
人数	1	2	1	0	0	25	1	4	1	3	38

- ① 新規採用者 栄養士 1 名・保育士 6 名
- ② 産休・育休取得者 3 名
- ③ 病休・休職取得 1 名
- ④ 育休復帰者 3 名
- ⑤ 育児時短取得者 1 名
- ⑥ 短時間正職員 4 名
- ⑦ 異動職員 保育士 1 名(10 月～ しろくま保育園へ)
- ⑧ 退職者 栄養士 1 名(2 月末)

(2) 有期契約職員等

1) 配置状況

① 有期契約職員

- イ) 年度当初配置数 16 名(内有資格者 2 名)
- ロ) 年度途中入職 2 名
- ハ) 退職 1 名 (2 月 17 日死去)

② 業務委託 2 名 (環境衛生業務)

③ シルバー人材センター 3 名(駐輪場警備)

(3) 嘱託医 3 名

① 園医 1 名 (和田万里子医師 小児科医 和田ファミリークリニック)

② 歯科医 1 名 (安藤浩徳医師 歯科医 安藤歯科医院)

③ 産業医 1 名 (田中美緒医師 内科・神経内科医 田中医院)

(4) 講師等

わらべうた 鈴木典子 (コダーイ芸術教育研究所)

4. 協力関係機関

- (1) 練馬区発達支援センター 熊丸高雄 年間 2 ～ 3 回
- (2) 区内療育施設との連携 (月 1, 2 回)
- (3) 子ども家庭支援センター・児童相談所への相談と連携
- (4) 産業医との連携

5. 重点とする取り組み

(1) 子どもたちがその子らしく豊かに育つ保育をしています

① 毎日の保育園生活を豊かにします

⇒計画と実践をテーマに見通しをもったクラス運営をしてきました。その場の感覚で保育をすることも大切ですが、クラスの子の姿から何が必要か考える、準備をする、実践する、実践を語る、振り返るを繰り返してきました。毎日過ごす空間がきれいに保たれ、いつもの大人と安心して関わるができることで、落ち着いて生活ができてきたと感じます。4, 5 歳では子どもたちの“やりたい”から自分たちで生活を作ることが大切にしてきました。その日にやりたいこと、野菜の栽培等の話し合いをしたり、自分が作ったものや経験したことをみんなに紹介したりする機会などを楽しみ行っていました。

② 子ども同士がともに育ちあう保育をしています

⇒3, 4, 5 歳児クラスの異年齢では、各部屋の行き来や、園庭遊びでの自然な交流に加え、異年齢の日を作ってきました。1, 2 歳児クラスと散歩に行く機会を作る等、年齢幅のある異年齢での関わりも積極的にできるようになってきました。その中で、同年齢の中で気持ちも動作も強く出てしまいがちな 5 歳児の子が、気持ちを調整しながら、年下の子と同じ目線に立ちながら関わる姿が見られるなど、新たな気づきが子どもにとっても職員にとっても大きな収穫となりました。

③ 人権を学び実践とつなげていきます

⇒職員会議で 2 回人権についての話をしました。1 回目は人権研修に行ってきた職員からの報告とそこからのグループ討議、2 回目は「保育実践から考える人権」で少人数討議を行いました。自分たちの保育実践から、日ごろの子どもたちとのかかわりや言葉かけなどに関しても改めて考えることができました。互いの保育の中での見合いや声の掛け合いに関しても、職員同士で伝えあいが以前よりできるようになってきました。

④ 関係機関との連携を図ります

⇒療育機関との連携を図り、担当者とやり取りをして日常の保育と療育機関との姿の共有をしてきました。また、子ども家庭センター、児童相談所等と連携して家庭の支援を進めることも例年より多くありました。

(2) 保護者とともにより良い保育園にしていきます

① 保護者と意見を交わしより良い保育園運営をしています。

⇒日常から保護者と話をして関係を作ってきました。保育園運営に関する意見をいただくこともあります。職員一同真摯に答えてきました。保護者アンケートを取った際に、クラスで少し話せば解決するようなことが記載されていました。日頃から関係を作っているつもりですが、まだまだ口頭では伝えにくいこともあるのだと感じました。

② 保護者同士が結びつくことができる場所になります

⇒懇談会をオンライン併用から完全対面に変更して実施しました。クラスにより参加人数にばらつきはありましたが、オンライン併用と同程度の参加となっていました。両親で参加される家庭も増えてきている傾向があります。

父母同士の関わりが増えてくる中で、保育園外でも「一緒にあそびました」「パパ会を開催しました」と結びつきが深くなってきています。他方で、「うちはとくに関わりを持ちたくないです。」と率直に話をする家庭もいっしょに、保護者同士の関わりの持ち方も難しくなっていると感じました。

③ 相談しあえる関係性を深めていきます

⇒年 1 回実施する面談以外にも、保護者から発信がある場合や、気になる姿がある家庭とは個別に面談をして悩みを分かち合ってきました。育児に苦しさを抱える家庭には、地域の福祉の情報提供や、保育園の土曜保育の利用を提案するなど、保育園を中心に身近なつながりを紹介し、再確認してきました。最初は相談等にためらいがあった家庭も繰り返し話す機会を持つ中で、率直に話していただけるようになりました。

(3) 職員一人ひとりが力を発揮し、支えあいながらともに進む職員集団を目指します

① 新しい運営集団での出発

⇒副園長の人数が変わり、業務分担等も見直して 4 月をスタートしました。各自がそれぞれがんばっているものの、運営会議（園長、副園長、事務長）が現場の応援等で成立しないことが多く、運営が滞ることや、意思疎通が十分に取れない場面が頻繁に見受けられました。現場の安定を優先しても、運営が滞ると全体が滞ることを痛感しました。それでも、クラスや職域といった現場の努力、自分たち運営の努力もあり 3 月末まで駆け抜けることができました。

② クラス集団

⇒新しいクラス責任者 2 名を迎え、全体を見てもクラス責任者の経験が浅めの構成でした。それでも運営責任者会議では各自が意見を持ち寄り率直に話をしていました。5 歳を除いたクラスに新人もいましたが、新人への伝えも丁寧に行っており、職員一人ひとりがたくましく育っていることを実感しました。

また、若い責任者を支えるベテランをフリーで配置することができたことも大きかったです。クラス内でも支える立場の人がいますが、担任とは違った視点の中でフォローができるフリー職員のおかげでより安定的な運営ができました。

時にぶつかり合うこともありましたが、どのクラスも 1 年間良い保育が実践できたと感じます。

③ 新入職員とともに育っていきます

⇒しろうま保育園開園に伴い、保育士 6 名、栄養士 1 名が入職しました。新人研修や新入職員で保育を語る機会を作るなど多摩福祉会と向山保育園で大事にしていることを確認してきました。先輩職員たちも、新人職員の話を聞くことはもちろん、自分たちが大切にしていることを積極的に伝えていました。その中で、普段何気なく行っていることの理由を改めて考える機会にもなっていました。新人からの質問に、「いままでやってきたから」と伝える職員もいましたが、一つひとつの関わり、生活への向かい方、準備等の意味を考えることで自分たちの「当たり前」を見直す機会になりました。

④ 様々な働き方の職員、職種の人がそれぞれの力を発揮します

⇒有期契約職員の会議では、必要事項を伝えるだけでなく保育の中の悩みや保育実践の話をしてきました。保育補助で日ごろから悩みを話せている方とそうでない方もいたので、正職員にその状況を返し、日常でもやりとりする機会を設けるようにしました。

⑤ 保育制度を学び、自分たちに必要なことを声に出していきます

⇒4月当初に0歳児クラスで欠員が発生しましたが、職員がそれに対して不安を感じていない様子が見受けられました。そこで、私たちが公設民営という立場にあることの特殊性を職員全体で再確認しました。民営化した時のことを踏まえて自分自身も運営集団としても公定価格や補助金のシステムを学んでいくことが必要と感じます。

また、保育のおかれている立場の理解が職員の中で浸透しきれていないことがあります。良くも悪くも公設民営という現状から楽観的に考えてしまいがちです。職員一人ひとりが情勢に目を向け、学び声を上げていく土壌を作っていくことを努力します。

⑥ たくさん語り合う、職員みんなの個性が活きる職場にしていきます

⇒以前に比べて職員間のコミュニケーションが活発になり、保育に関する話題だけでなく、仕事以外の雑談でも盛り上がるが増えました。とても良い職場環境だと自信を持って言えます。

その中で子育てや介護をする職員、自身の体調に不安がある職員も増えてきています。自分が力を発揮する場と支えてもらう場があり、現状はうまく保たれているかと思えます。少しバランスが崩れると、集团的にも不安定になることが予想されるので、今後も職員との対話を大切に、良いことも課題も分かち合ってみんなで進んでいきたいと思えます。

(4) 多摩福祉会、向山保育園が紡いできた歴史を学び、これからの向山保育園を職員みんなでも語り発展させていきます。

① 法人と向山の歴史から学び考えます

⇒新入職員とは50年誌を使用して多摩福祉会の歴史の話をし、全体では「わたしたちのめざすもの」から、法人として大切にしていることを確認しました。50年誌の歴史の部分に新入職員は驚くことが多かったですが、自分たちがその歴史を繋げていくことを感じたと思います。自分たちが「できる・できない」ではなく、「これからどうしていきたいか」をもっと語っていききたいと感じます。

② 異年齢保育についての学びを深めます

⇒実践に関しては(1)-③の通りです。総括でも3, 4, 5歳児クラスの実践を中心に語り合ってきました。生活単位が異年齢でなく年齢別保育ではありますが、異年齢実践

を話すことで、年齢別での生活の中でも何ができるかの検討や、年齢別でも異年齢でも「一人ひとりの子どもたちの姿をみてその子らしく生活していくことが大切」なのは変わらないという当たり前のことを再確認しました。

他拠点での素晴らしい異年齢の実践があるにもかかわらず、その力を借りることをしてこなかったのが、次年度はそこから学び自分たちの実践につなげていけたらと思います。

③ 向山保育園のこれからを語り合っていきます

⇒運営会議を中心に民営化に向けた話や建て替えに向けた話をしてきました。職員会議の中でも、練馬区との懇談報告から向山保育園をどのようにしていきたいかを話しました。その中で、建て替えはしたいがどのようになっていくか見通しが持てないなど、民営化への不安も出されました。建て替えや異年齢保育の実現に関しては、自分たちの実施した保育を語り、具体化していくことができればと思います。夢を語りながらも、資金面や人員配置の面での現実も見ながら職員と確認し進んでいきます。

(5) 地域の拠点となる保育園を目指して

① 地域の皆さんがあそびに来たくなる保育園を目指します

⇒離乳食講座や園庭開放、行事への参加など、各種プログラムの充実を図り、さらに「保育園に遊びに来ることができる」という情報を積極的にアピールした結果、参加人数が増えました。一方で参加者のいない日もあり、発信方法や地域の方々の要望を踏まえて内容を検討することなどが、まだ課題として残っています。

② 向山保育園を知ってもらうために

⇒おひさま広場の充実と見学の内容と回数を見直し実施をしてきました。見学する方に自施設をどのように紹介するか、保育園選びや子育ての悩みにも寄り添いながら話を聞いてきました。その成果があってかここ2年ほど4月に空きがあった0歳児クラスが2025年度は埋まった状態でスタートすることができました。

③ 地域の保育園や学校との交流

⇒小規模の保育園が多い地域なので、園庭に遊びに来ることや行事への参加を積極的に声かけしました。5つの保育園と新たに繋がりができ、月に数回遊びにきて園児同士が交流しています。

職場体験や実習生の受け入れの他に、卒園児や地域の方で保育士に興味がある中学生、高校生、社会人のボランティアを受け入れてきました。

(6) 法人内の連携

① しろくま保育園との連携

⇒開園 1 年目のしろくま保育園と、職員の応援を中心に連携ができました。子どもの交流はしろくま保育園の年長児が向山保育園に一度遊びに来ることができました。今後は子ども同士の交流を計画的に実施していきたいです。

園長同士での情報共有はよくしてきたと思います。各々の課題と今後の展望を話し、励まし合いながらやってきました。園長同士で話したことを各運営や職員集団の中でどのように実現に向けて話していくかが今後の課題です。

② 法人内の施設での出張研修を行い学びを深めます

⇒今年度は法人内施設に保育や給食の応援に行くことはありましたが、研修として行くことがありませんでした。園外研修の予定とともに、法人内の施設での保育研修を計画建てて実施していきます。

(7) 防災・安全

① 災害や非常時に備え訓練や備蓄内容を見直します

⇒防災担当者会議の担当者を中心に避難訓練内容の検討、園内の備蓄内容の確認を行ってきました。炊き出しでの火おこし訓練と、アルファ米や防災食品を火を使わず調理し実食する訓練などを行い、休日保育等職員の人数が少ない時でも対応できるように確認してきました。

② 非常時は地域の人と助け合えるようにします

⇒災害用の備蓄等の充実をさせてきました。地域の方との交流は挨拶程度で深くはなり切れていませんが、今後も保育園の行事等で声をかけながら、良好な関係でいられたらと思います。

(8) 練馬区との協議を進めていきます

① 民営化に向けた検討をしていきます

⇒土地の件の進捗状況、今後の見通しに関する協議をしました。民営化自体は 5 年以上先になることが確実な為、新たに 5 年契約を結ぶことになりました。建て替えに向けた積み立て実施の件や土地の事等今後も定期的に協議の場を持ち進めていきます。

② 休日保育の内容等について引き続き協議を行っていきます。

休日保育実施園と連携して、保育課と行う連絡会の前に意見を出し合い、実態や課題の共有をして意見にしました。

6. 職員研修

園内外の研修、練馬区の研修、キャリアアップ研修、自主研修とそれぞれが研修に出ていき学びをしてきました。個人としては研修報告や日常の保育実践の中から良い学びができていると感じます。一方で、個々での学びの全体で共有に関しては、人権研修で実施しましたが、それ以外は設けることができませんでした。今後は全体共有の場を作っていきながら、共通の学びとしていくことを実施します。また、園内で保育を語ることは多くありましたが、外部で語る機会は多くありませんでした。自分たちの実践を法人外でも提案したり、他の保育者から意見をもらったりしながら、学びを深めていくことができるようにしていきます。

砧保育園 2024 年度事業報告

1. 事業内容

(1) 認可定員 76 名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
運用定員	6	13	15	16	16	16	82
4 月空き				1			1

途中退園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
途中退園				2			2

途中入園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
5 月				1			1
6 月				1			1
合計				2			2

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7:15～22:15

(4) 延長保育事業 18:16～22:15

(5) 3～5 歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域子育て支援事業

・産前産後育児体験 24 家庭 32 名（保護者のみ）

・保育所体験

① 園庭遊び（水遊び）16 家庭 32 名（保護者・児童）

② 赤ちゃん広場 3 家庭 6 名（保護者・児童）

③ 行事 新春の集い 3 家庭 6 名（保護者・児童）

・職場体験 22 名

(9) 自主地域活動事業

・産前産後育児体験 16 家庭 20 名（保護者のみ）

・保育所体験

- ① 園庭遊び（水遊び） 14 家庭 29 名（保護者・児童）
 ② 赤ちゃん広場 4 家庭 8 名（保護者・児童）
 ③ 行事 夕涼み会 17 家庭 38 名（保護者・児童）
 石狩鍋 2 家庭 4 名（保護者・児童）
 芋ほり遠足 3 家庭 6 名（保護者・児童）
 冬まつり 9 家庭 18 名（保護者・児童）

・職場体験 100 名（児童のみ）

・育児講座

- ① わらべうた 3 家庭 6 名（保護者・児童）
 ② 防災講座 1 家庭 4 名（保護者・児童）
 ③ モグモグ離乳食 4 家庭 8 名（保護者・児童）
 ④ 親子クッキング 7 家庭 14 名（保護者・児童）

・世代間交流

事業所訪問 そよ風 1 回、クローバー 1 回
 来園 クローバー 3 回 13 名

※(8)、(9)ともに延べ人数として

2. 児童状況

① きょうだい関係

	にじ	ひよこ	りす	つき	ほし	たいよう	合計
世帯数	1	7	5				13

② アレルギー食対応児 10 名

3. 職員状況

(1) 正職員（在籍）29 名

<正職員配置状況>

職種	園長	副園長	事務	保育主任	保健 チーフ	保育士	給食主任	栄養士	調理師	育休	合計
人数	1	2	1	2	1	15	1	4	1	1	29

- ① 新規採用者 保育士 2 名
 ② 産休・育休取得者 1 名
 ③ 病休・休職取得 0 名
 ④ 育休復帰者 0 名
 ⑤ 育児時短取得者 1 名

- ⑥ 短時間正職員 2 名
- ⑦ 嘱託再雇用職員 1 名
- ⑧ 法人内異動者 栄養士 1 名（10 月よりしろくま保育園より）
保育士 2 名（4 月よりしろくま保育園へ）
- ⑨ 退職者 0 名

(2) 有期契約職員等

1) 配置状況

① 有期契約職員

イ) 年度当初配置数 11 名（4 月入職 0 名）

（うち有資格者 7 名、子育て支援員 2 名）

ロ) 年度途中入職 11 名

ハ) 退職 6 名（うち 1 名 2024 年 3 月末退職）

② 派遣職員 0 名

③ 業務委託 0 名（日常的に関わる業務に関するもの）

<配置状況>

	にじ	ひよこ	りす	幼児	給食	土日祝	夏期
人員数 4 月	4	5	4	0	0	4	2
人員数 年度末	3	4	3	2	0	5	2

(3) 嘱託医 1 名

① 小児科医 1 名（橋本 倫太郎 医師）

4. 講師等

- ① ウラベイク（造形）
- ② 西山 裕子（わらべうた）
- ③ pilchard astrid（異文化交流）
- ④ 永田 裕美子（言語聴覚士）
- ⑤ 守屋 明德（公認心理師・臨床心理士）

5. 協力関係機関

- (1) げんき・ぶらみんぼーと巡回相談 年間 2～3 回
- (2) 発達支援コーディネーター
- (3) 子ども家庭支援センターへの相談と連携

(4) 世田谷区保健所保健指導、児童相談所相談等の援助・協力

6. 2024 年度 重点課題

(1) 多様な存在との関わりや豊かな体験を通して、最善の保育を追求します。

① 不登校児や祖父母の保育参加、地域商店街や高齢者との交流を積極的行います。

⇒ 不登校児については、学校の長期休暇の際の職場体験にて継続的に受け入れてきました。個人で来園することは難しくても、卒園児同士で安心できる存在と一緒にあれば来られるようです。社会的に孤独になりがちな状況においても、園でのつながりが守っていると捉えられ、今後もそのような関係や環境を保っていきたいと考えています。

一方、祖父母の保育参加については実現できませんでした。職員とは改めて重要性を確認し、2025 年度は実現できるよう新年度説明会や各懇談会、おたよりにて積極的に働きかけを行っています。

また、高齢者の方との交流では、2023 年度から継続しているデイサービス「クローバー」さんとも引き続き交流してきました。お迎え時に地域の高齢者の方に無償ボランティアとして見守りををお願いすることを検討中です。実現すれば、課題となっている安全対策、人件費抑制、地域の方々の生きがいの創出、子どもたちにとって地域の中で顔見知りが増えることであたたかく見守られる関係性の広がりにつながる等の意義があると考えています。尚、地域商店街との交流については(4)にてまとめています。

地域との交流ということでは、最も直接的に保育に関わってくださった方として、近隣住民の田中氏が挙げられます。以前から園庭環境についての相談にのっていただいたり、職員向けの学習会をしていただいたりしていました。2024 年度は生き物について子どもたちが興味を持ったことについてメールで質問させていただいたり、時にはご家庭に訪問させていただいたりもしました。その度にあたたかく応えていただき、お泊り保育の際には蛍を届けてくださいました。年度末には小学生のお子さんも一緒に片道 1 時間程かかる公園まで同行していただき、ザリガニやシジミを捕まえる等の豊かな体験を支えてくださいました。職員のみで保育を考えるのではなく、地域住民の方とともに地域の子を育てるという視点が、さらに保育を豊かなものにしていくと実感しました。

② 0 歳児を含む異年齢保育を深め、発展させます。

⇒ このテーマを年間通して共通認識として進めてきたことで、0 歳児が園内にいることが自然に感じられる状況となりました。特に後半期は毎日のように園庭や 1 歳児保育室に遊びに来ており、その中で自然と異年齢交流が生まれていました。

総括会議の中でも年間テーマとして位置付け、毎回状況を伝えあう中で「じゃあ今度こうしてみようか！」と交流のイメージが広がって計画的に行うこともあったり、反対に自然に生まれる交流の意義も確認しながら、文字通り「子どもにとっての最善」を職

員全体で模索してきた 1 年でした。子どもたちが実際に見せる姿から、一人ひとりに寄り添う保育の追求と異年齢で過ごすことの意義とのつながりが職員の中で確信となり、園全体で一致して協力して進めてこられたと感じています。実現のためには職域を越えて実に緻密な連携が必要であり、職員同士の信頼関係がないと成り立ちません。職員の関係性が保育の質に直結することを改めて実感しました。

③ 日祝保育の 0 歳児受け入れに向けた検討を進めます。

⇒ 2024 年度も毎月のように 0 歳児の受け入れを行いました。しかしながら、2025 年 4 月現在、世田谷区内で日祝保育（休日保育）を実施しているのは砧を含めて 6 園となっています。そのうち、砧だけが「12 か月以上～」となっており、他園では「生後 6 か月～」としている状況があります。他園同様の時期から受け入れ地域貢献したい思いもありつつ、0 歳児経験者が少ない中で職員の不安が大きいことや、日祝保育の利用人数増加に伴い人手確保が難航していることで負担感も増してきていることでなかなか進められていない状況があります。引き続き 0 歳児経験者増加、研修の実施、人手確保等総合的に進めていきたいと考えています。

(2) 子どもを真ん中にして、保護者と園がともに子育ての主体として力を発揮できる運営を目指します。

⇒ 2024 年度新たな取り組みとして、保護者同伴（希望家庭のみ）での卒園遠足を実施しました。目的としては、子どもたちにとって多様な大人と関わる機会の創出、多様な意欲に応えられる人的環境保障、保護者も童心に返って子どもと共感できる体験、安全性の向上や職員負担軽減等が挙げられます。行先は諏訪北公園で自然環境の中で遊ぶことが主で、お母さんたちが悲鳴を上げながら崖から降りつつも一人ではチャレンジできないことを支えてくださっていたり、お父さんたちが元気いっぱい要求に応えてくださっていたり、職員だけでは成しえなかった有意義な体験ができました。寄せられた感想からも、砧が大切にしていることを実感していただけたことが伝わってきました。「保育の主体」となって関わっていただくことによって園への信頼を深められた実践となりました。

また、「バザーがあるといい」という声も聞こえてきているため、きぬた祭り（旧夕涼み会）の中に父母会ブースとして位置づけられないかと父母協議会にて検討中です。

(3) 職員一人ひとりが自分らしく安心して働き続けられる環境を整え、働き続けたいと感じられる職場を職員とともに作っていきます。

① 『わたしたちのめざすもの』を土台に、より具体的な園目標の検討を進めます。

⇒ 職員会議にて、一人ひとり「大切にしたいこと」を提案しあい検討しました。意見を擦りあわせ、最終的に「やり取りを通して紡ぎあい、心が動く瞬間を見つけよう！」と

いう内容で確認しあいました。検討当初は『わたしたちのめざすもの』のようにいくつか柱を立てていくイメージでいましたが、論議の中で「子ども、職員、保護者、地域、社会と分けて考えるのではなく、全てがつながっていることとしてまとめた表現の方がいいのではないか」と意見が出され、上記のような内容となりました。結果として園全体が共通の方向に向かうための分かりやすい指針となったと感じています。

また、目標が形骸化しないよう各セッションで検討し、日誌に入れたり月のまとめの会議で振り返ることを位置づけました。それにより、「日々の大変さに流されてしまいそうな時にもこの目標を意識することで立ち返ることができた」という声が多く聞かれています。先人たちが決めたものの意義を理解し守ることも大切ですが、自分たちで思考し決定したものを実現することの方が職員自身主体的になれ、意欲が湧いてきます。法人の土台である『わたしたちのめざすもの』につながる内容なのかどうかを意識しながら、職員の思いを実現できる運営に努めていきたいと考えています。

- ② 職員が安心して自分の思いを語り、子どもにとっての最善を誠実に希求できる職員集団作りを目指します。

⇒ 構成人数が多い会議では意見があまり出されない状況が続いていました。その反面、少人数に分かれた途端に話し出すという姿もあります。運営責任者会議の論議で「間違ったことを言ったらどうしよう」「どう思われるか」という不安や緊張感が要因であることを共通認識とし、そのように思わせない工夫を検討しました。具体的には、総括会議において「どのような意見に対してもその人なりの思いがあり、まずは批判せず受け止める」という約束の元で話しあうことや、地べたでできるだけ小さく丸くなって物理的な距離を近づけて話すことで心理的距離も近づけること等を意識して行いました。その結果、大変いい雰囲気でリラックスして話すことができ、充実した総括会議となりました。ただ、「心理的安全性」がある状態というのは本来気を遣わず伝えるべきことは伝えあえ、その上で信頼関係が形成されることなので、そのような状態を目指していきたいと考えています。

また、職員会議が報告の場となっているという課題に対し、朝礼を行うようにしたことで報告事項を減らし議論の時間を捻出することができました。その中で園目標について話あったり、保育の中で考えあいたいことについてエピソード記録を通して論議したりする時間を確保することができ、職員としても一定「話せた」という実感が持てる場にシフトできたと感じています。とは言え十分な時間を確保するまでは至らず、今後も引き続き努力が求められます。

- ③ 「ネガティブな退職ゼロ」を目標に、安心して働き続けられる園運営に努めます。

⇒ 2024年度は退職者がおらず、目標を達成することができました。結果からこのように報告することは簡単なのですが、その裏に幹部職員中心に職員同士が本当に丁寧にそれぞれの思いを汲み取り紡いでくれた努力があったからこそその成果でした。人

間はストレスを感じると「闘争」か「逃走」のどちらかのモードになると言われており、その中での問題解決や職員同士の橋渡しはかなり難しいものです。幹部職員自身が役割を意識し、責任を持って向きあってくれたことに感謝の念が絶えません。

また、2025 年度は職員がやりたいことを考えて実現する中で楽しみながら意欲的に業務向かえるようにという目的で、「やりたいこと検討委員会」を立ち上げました。今後も貴重な担い手が安心して意欲を持って働き続けられるよう努めていきます。

④ 職員同士が支えあえるためにも、余白のある日常を生み出せるよう努めます。

⇒ 長年課題となっている会議の多さを解決すべく、職員とともに考えあってきましたが、なかなか思うようには進まない状況が続いています。2025 年度は全員出勤日の土曜に諸々の会議や活動をまとめることで、日常に余白を生み出すよう検討しています。長時間設定が基本となっていた運営会議については時間を短縮することができました。

また、有休消化率向上も含めた日々の余白を生み出し、職員がゆとりを持って働き続けられる環境作りを目指してきました。しかし、配慮が必要なケースが増加している中で現場の負担感も増し、保育自体に余白を感じられない心理状態があり、「休むと大変にさせてしまうのではないか」と有休消化も進みづらい状況となっています。労働環境の物理的な改善と同時に、適切な関りや保育内容を学びあうことで保育状況が安定する視点も踏まえて「安心して休める」状態を目指していく必要性も強く感じています。

⑤ 運営体制の充実を行い園がより安定することで、若い幹部職員がじっくりと現場に耳を傾けられ、職員全体の成長支援につながるような運営を目指します。

⇒ 2024 年度は副園長 2 名体制となったことに加え、保健チーフにも事務室内業務を分担することにより、課題となっていた管理者の働き方が改善されています。また、幼児主任も数年ぶりに交代する等、若い幹部職員が増えることでより運営と現場の信頼関係が強まっているように感じています。

また、幹部職員が積極的に職員と交流したり学習したり研修に参加する姿から、現場職員も触発されています。園長面談でも「もっと学びたい」「保育が楽しい」と語る職員が増えていたり、中堅層研修に参加した責任者が会議の中で手を挙げ、「自分の役割を意識するようになったので、積極的に意見を言おうと思います」と複数の職員が主体的に発言する姿もありました。幹部職員が日々誠実に自分の役割と向きあい、職員と向きあうことが、職員一人ひとりの成長支援につながっています。

⑥ 他施設からの日祝保育応援により、より働きやすい職場環境と整えるとともに、法人内の風通しの良さにつなげます。

⇒ 2024 年度も引き続き上北沢こぐま保育園より日祝保育応援を送っていただきました。頻度としては、給食、保育ともに月 1 程度となりました。日祝保育パートが確保できない状況の中で大きな支援となったことはもちろん、法人内職員同士が交流する機会ともな

り、法人内の風通しの良さにつながられたのではないかと考えています。

2025 年度については保育のみの応援となります。また、上北沢こぐま保育園の職員から「法人全体で分担できないか」という意見も上がっているということで、今後検討していきます。

（４）地域との関わりを広げることで、信頼しあい支えあう関係作りを目指します。

① 自治会に参加し、地域との信頼関係を築きます。

⇒ 2024 年度は自治会への参加を検討しましたが、役員の方とお話ししたところ自治会自体が衰退しており、あまり活動ができていないという状況を伺いました。そのような状況について、地域園長会で共有したところ、「自治会よりも商店会とつながった方が良い」というアドバイスをいただきました。商店会に所属されている方と話したところ、避難訓練や地域のお祭りで連携できるのではないかとご提案があり、職員とともに検討を進めていきたいと考えています。

また、地域商店街との交流という点では、お泊り保育の食材購入や栽培用の苗や季節の花を購入する等は保育に位置づいています。2023 年度は夕涼み会で「八百万キッチン」さんに焼き鳥を販売していただいたり、工作用の段ボールをふらっともらいに行かせていただいたりと、より園児にとっても職員にとっても身近な存在に感じられるようになっています。加えて、地域で就労継続支援 B 型を行っている「わくわく祖師谷」さんとの交流を始めました。具体的には、お迎えの時間帯に通路部分にて障がい者の方が作ったパンやクッキー、グッズ等の訪問販売を行うというものです。目的は、地域とのつながりの拡大、地域で暮らす障がい者の方の賃金保障、家庭の食支援、地域資源の認知、子どもにとってのちょっとしたお楽しみ等が挙げられます。2024 年度は 2 回実施し、継続的に行っていくことを確認しています。今後は商店会とのつながりを持つことで、その他の地域商店の方々とも親密な関係を築いていきたいと考えています。

祖師谷地区子育て支援者懇談会では、活動内容や悩みを出し合いながら、今必要な子育て支援は何かを考えあうことができました。子どもが減ってきている今、利用者を取りあう関係性ではなく、今後も協力しあい子育て家庭を支えられるよう連携をとっていこうと考えています。

② 地域貢献について、具体的に事業検討を進めます。

⇒ 一つ目は、「認可保育所等の余裕スペースを活用した放課後児童健全育成の実施」（以下「園内学童」と表記）についてです。結論としては、空間がなく実施困難となりました。砧はホールが独立しておらず、幼児用の食堂兼会議スペースとして活用しているため、学童児がホールで過ごすとなると現実的に運営が困難となります。また、「職場体験」として学童児を平日夕方も含めて長期休暇でも広く受け入れてきており、ここ数年で定着してきています。そのため、「園内学童」を実施することで利用児が固定化され、受け入れ

可能なキャパシティが狭まり、不登校児の受け入れ等を含めて柔軟な対応が難しくなってしまうのではないかという懸念もありました。事業化することの意義も感じつつ、本来に必要な支援の形が狭まってしまう可能性もあるため慎重な判断が必要だということとなり断念しました。

二つ目は子ども食堂の実施についてです。情報収集を行う中で、保育所等で子ども食堂を実施する場合、業務時間外で本来の事業に支障を及ぼさない範囲でとされており、職員だけで行うのか、地域のボランティアの方と一緒にを行うのかどうか検討が必要です。また、検討を進める中で新たに「困っている人を支援することを目的とすると居心地が悪くなってしまうこともある」という視点を得ました。そこで、まちづくりの視座に立ち、「全世代対象に居心地のいい誰でも利用しやすいゆるい居場所」を作る方が有意義ではないかと考え直しました。そのような場が地域に作れないかと「祖師谷まちづくりセンター」のセンター長に相談したところ共感していただき、今後具体化に向けて検討を進めることとなっています。

③ 地域事業「きぬたん」をより充実させていきます。

⇒ 地域子育て支援コーディネーターの方から「食へのニーズが高い」とアドバイスをいただき、園庭遊びと合わせて在園児と一緒に給食を食べる給食体験や、親子で簡単にできるクッキングや行事での試食を行う等実施してきました。

普段よりもたくさん食べる姿を見て、参加された保護者の方が給食職員へ調理方法を聞くことや、食事への悩みを直接相談できる場ができました。また、親子クッキングでは家庭内で経験させられたらという思いがありつつも、準備や片付けが大変でできないという方が多く、親子で楽しむ場があり良い経験になったとお話されていました。食の活動を増やしたことで、地域活動のリピーターの方が増え、在園児や職員と関係もでき、「園に来るのが楽しみ」「幼稚園に入園させたいという気持ちがより強まった」とお話しいただき、入園にもつながりました。

(5) 保育制度の課題について学習し、要求を明確にすることで行動へつなげます。

⇒ 「子どもたちにもう一人保育士を！」実行委員会の活動について職員と共有するとともに、園だよりで触れたりおたよりを掲示したりすることで保護者にも運動の成果を伝えるよう努めてきました。

また、メーデーや11月の保育大集会への参加呼びかけを意識的に行うことで、少しずつではあるものの参加する職員が増えてきています。ただ、砧内労働組合の存続が危ぶまれる状況があり、園が主体となって運動の意義を伝えていく必要性が強まっています。今後も現在社会から求められているものと、それが実現可能な制度となっていないことへの矛盾を明らかにしながら、子どもや保護者、職員、地域の子育て世帯にとって真に意義のある制度を求めていける職員集団でありたいと考えています。

(6) 園児確保も視野に入れつつ、環境整備を進めます。

⇒ 2024 年度は念願のテラス改修、雨除けカーテン改修、そして世田谷区による照明器具の LED 化が実施されました。子どもが生活する場として相応しい安全で快い環境としてはもちろん、保護者や地域の方にとってもより魅力的に映る環境を整備できました。安定経営につながるという視点からも、引き続き適切な環境整備に努めていきます。

7. 職員研修実績

⇒ 『わたしたちのめざすもの』を土台に園目標を検討し、会議の中でも意識的に言葉に出すよう努めました。その中で、職員間で「安心できるためには」と考えあう姿勢が浸透していったと感じています。

また、視野を広げるために外部への研修を積極的に位置付け計画しました。しかし、現場の体制が安定しきらなかつたり有休消化が進まなかつたりと、研修で抜けるというところまで至りませんでした。その反省をもとに、2025 年度は早々に日程を計画しています。

その他、職員から希望が出されたものとして、あんどうりす氏を招いた防災研修や多摩クリニックより講師を招いた摂食指導研修を実施しました。実地的な知識やツールを学べて、大変有意義な機会となりました。

(1) 園内研修

- ① 全員研修－応急救護、防災、不審者対応、保育総括、荒馬、ドル平、法人や園の歴史、『わたしたちのめざすもの』
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、その他適宜必要な内容を追加
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、法人や園の歴史他
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家と共に検討します。

⇒ その他、防災研修、摂食指導研修を実施しました。

(2) 専門機関の巡回支援など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

⇒ 2024 年度はげんきの研修は実施せず、公認心理士による研修を重点としました。その他、ぷらみんぽーとによる巡回訪問を実施しました。

(3) 出張研修

世田谷区、全国会議、経営懇関連、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加を検討します。

処遇改善Ⅱの支給対象者については、必須項目を網羅できるよう積極的に位置付けます。

⇒ 各団体の研修について、積極的に参加しました。また、社会福祉経営全国会議主催の管理職養成学校や研修にも参加しました。キャリアアップ研修についても必要な分野について計画的に受講し、積極的に進めることができました。

（４） 見学研修

異年齢保育実践をより深めるため、法人内施設の保育を見学し、研修を行います。

⇒ 職員から希望が出されず、実施に至りませんでした。

（５） 法人研修

法人合研、新入職員研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みます。

⇒ 各自担当を中心に積極的に取り組みました。

（６） 自主研修

① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人研修計画をたて、目標をもって主体的に研修を行っていけるようにします。

② 学ぶことが喜びとなる経験を共有できるよう、自主学習会の開催を促します。

⇒ ①については計画通りに取り組みました。②については、砧内では行わず、こぐま保育園で開催されている「異年齢保育研究会」への参加を働きかけた結果、複数名の参加につながりました。

上北沢こぐま保育園 2024 年度事業報告

1. 事業内容

(1) 認可定員 90 名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	10	16	16	16	16	16	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7 時 15 分～20 時 15 分

(4) 延長保育 18 時 15 分～20 時 15 分（児童状況報告参照）

(5) 1 歳児～5 歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育（児童状況報告参照）

(7) アレルギー食対応（児童状況報告参照）

(8) 地域活動事業（地域食堂、体験保育、産前産後体験、ボランティア及び実習生の受け入れ等）

	実施状況
体験保育	4 回実施、44 名が参加
産前産後体験	5 回実施、17 名が参加
職場体験	22 回実施、46 名が参加
実習生	3 大学より 3 名受け入れ
インターン	受け入れなし
地域食堂	4 月～2 月に 11 回実施。都度 50 食を園前にて配布し年間 182 家庭の利用があった。近隣施設、東社協、児童館と連携

2. 児童状況報告

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	アレルギー児	延長保育 30 分延べ	延長保育 1H 以上延べ
4	89	17	1		3	34	23
5	89		1		3	39	31
6	89		1		3	41	27
7	89		1		3	39	27
8	88		1	1	3	39	26
9	88		1		3	38	26
10	88		1		3	39	30
11	89	1	1		3	66	48

月	在籍児童数	新入園児	管外児童	退園児	アレルギー児	延長保育 30分延べ	延長保育 1H以上延べ
12	89		1		3	98	78
1	89		1		3	74	46
2	88		1	1	3	83	60
3	88		1		3	77	59

3. 職員状況

(1) 正職員 *主任 4名（保育士3名・栄養士1名）

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1	1	1	1	20	4	1	29

(2) 正職員状況

- *新規採用者 保育士2名（4月～新卒既卒各1名）・保育士1名（9月～）
- *法人内異動者 栄養士1名（4月～ こぐま保育園より）
保育士2名（4月～ しろくま保育園へ）
- *育児時短取得者 保育士2名
- *短時間正職員 看護師1名
- *産休育児休業取得者 保育士2名（4月4日、4月8日復帰）
保育士1名（10月9日より産休）
栄養士2名（11月22日、12月3日より産休）
- *退職者 保育士2名（12月末1名・3月末1名）

(3) 有期契約職員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	13	13	14	14	15	16	15	15	15	16	16	17

- ・ 正職員の産休病休に対応するため、有期契約職員の採用を積極的に行い保育の充実を図ることができました。
- ・ 採用に関しては、多くの時間を割いたにもかかわらず辞退される傾向にあります。採用につながったケースは、就職向けの見学者、元実習生、保育士スカウト（求人サイト）などです。

(4) 嘱託医

- *小児科医 山角聡美 （三宅小児科）
- *歯科医 世田谷区指定の歯科医 （上北沢みどりの歯科医院）

(5) 業務委託

- * 保育システム 株式会社コドモン
株式会社 hugmo (呼吸観察)
- * 写真撮影 黒田雄一
- * ゴミ処理 藤ビルメンテナンス
- * セキュリティ 株式会社ザ・トーカイ

(6) 講師

- * 言語聴覚士 永田裕美子
- * 保育アドバイザー 谷まち子

4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—最大7名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	23	21	17	28	25	23	20	24	28	26	24	27	286
延べ	95	106	97	112	124	121	126	128	124	117	124	112	1386

- ・ 子どもの実際の姿を見ながら面談を行い、家庭状況を踏まえて受け入れ保育を進め、安心して保育を利用開始できるよう努めました。また、ひろば利用者からの相談を受けて利用につながるケースも多くありました。
- ・ 利用児と異年齢児がともに生活・遊ぶ中で互いに学び合う環境づくりを行い、職員間で話し合いを重ねながら、利用児を異年齢クラスで受け入れる取り組みを行いました。子どもたちの状況や、保育の中で大切にしていることを保護者へ伝え、個別面談等を通して丁寧な関係づくりに取り組むことで子ども達の姿も変化していきました。
- ・ 緊急一時保育の相談（出産・入院等）も多く、柔軟な対応を図り受け入れを行ってきました。又、全園父母懇談会を通し、園の保育や事業について丁寧に伝えました。
- ・ 地域での評判やきょうだい利用が広がり、初年度からの取り組みが地域に周知されてきたことを実感しています。利用家庭からは感謝の声も寄せられ、地域における保育園の役割の大切さを改めて感じています。

(2) 定期利用保育（定員：7名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	33
2歳児	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47
3歳児	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

- ・ 新規利用以外にも、昨年度から継続で利用する家庭などがありました。特に1歳児の需要が高い傾向にあり、区内1歳児の待機児童数の影響がみられましたが、長時間利用者

は減少傾向です。また、一時預かりから定期利用希望も多くみられました。

- ・ 3歳児は年度途中で入園や転居が決まり入れ替わりがありました。その際には、現場とともに定員数を検討し、保育需要に応じて定員枠の調整を行いました。
- ・ 次年度入所申請に向けて、各家庭に丁寧な声掛けを行いました。1～2歳児の枠は今年度同様に需要に合わせ、3歳児枠は定期利用家庭の入所申請の動きをみて検討しました。
- ・ 外国人家庭や配慮を必要とする家庭の受け入れがありました。各家庭の状況を踏まえ、保育園での姿を共有して日々声をかけることで、子どもの思いや保護者の思いを聞いて寄り添ってきました。又、保護者の方からも相談や悩みを話してくれるようになりました。

(3) おでかけひろば事業 週3日(火・水・金) 5時間(10時～15時)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	78	33	29	48	34	52	88	45	81	97	97	106	788

- ・ 地域の家庭の現状は家庭のみの子育てから園との関りをもつ家庭が増えてきました。家庭状況を聞きながら、子どもの立場から家族とともに過ごす時間が持つことが出来るよう、子育て力の支援を考え、関わりを持ってきました。救急救命講座や離乳食相談などは子育て力の底上げに直接貢献する活動となりました。利用者の中には園児との交流を希望される方もおり、園庭や公園で交流を行いました。
- ・ 事業そのものに対する認知度は依然として低いままとなっています。口コミで来所してくださる方もいるものの、平均利用者は2～3組と周知に課題がありました。専用のLINEを運用し月1回予定表を公開するとともに、周辺団体と協力することで来所に繋げてきました。
- ・ 今年も地域の児童館主催の「すくすくメッセ」に参加しました。又、地域の情報交換の会議にも参加してきました。そこで得た情報を今後に活かし展開することが課題です。他園の食堂やひろばの様子を見学させてもらい、当園の各事業展開に刺激を受けました。

(4) 緊急保育 定員1名～2名

地域のコーディネーターや相談機関からの紹介で緊急保育につながるケースと、一時保育からの利用がありました。又、相談を受け、緊急保育を検討するとともに一時保育へつながるケースも複数ありました。地域の方の需要が高い事業であることを実感し、直接的な関わりの重要性を改めて感じています。

(5) 子どもの学び場運営スタートアップ事業 1年生～4年生対象

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	26	24	27	24 23	11 13	12	17	13	11 7	13	11	10	242

- ・ 「こぐまのまなびば」は毎月10～20名前後の小学生が利用しています。6月からは軽食の提供も開始し子どもたちからも保護者からも好評でした。
- ・ 身体を動かして遊びたい姿も多くみられるため、子どもたちの実態にあわせた内容検討が必要でした。園児と過ごすことで落ち着いて関わる姿もみられるため、今後も積極的に交流をしていきたいと考えます。
- ・ 年度当初2名の5年生が来てくれていましたが、習い事等があり継続した来所にはつながりませんでした。年度当初の来所数の多さには新年度に対する不安もあることが推測されます。新しい生活に慣れていく事で後期は自身の生活を安定し過ごす事に繋がっていると感じています。将来的には中高大生のボランティアへとつながっていく事を期待しています。
- ・ 2024年度末をもって「子どもの学び場運営スタートアップ事業」による補助が終了となるため、「世田谷区子ども基金」を活用してより地域の小学生が安心できる居場所作りに努め、安定的な運営を行っていききたいと考えます。

5. 2024年度重点課題

(1) 職員集団の関係性から広がっていく、園運営を目指していきます。

- ・ 園運営を職員とともにを行うことを課題としてきました。各種会議では職員がどう感じているかを重点におき、時間をかけ話し合いを行ってきました。運営会議では「現場はどうか?」、「現場に聞いてみよう!」等、現場と一緒に考えていく時間を増やしてきました。一方、一部の職員から運営への不満が出ており、園全体で考え合う機会を得て、方法論というよりは運営陣の参加を多くの場で求めていることに気が付くことができました。
- ・ 主任をメンターに据え若手と組んで会議参加を行ってきました。一緒に伴走することで不安がどこにあるのか読み取りやすく、その場で解決していく機会も増えました。定期的な面談以外にも職員から面談の申し入れがある等、定着し運用できています。
- ・ 不適切保育や子どもの人権等には会議で触れてきましたが、現場の思いが先行してしまい、個々の家庭や園児に寄り添い考え合う事が不十分で、保護者からご意見を頂く事もありました。職員それぞれが個々の問題とせず園全体で考えあう機会を設け、一人ひとりに寄り添う事は具体的にどういうことなのか考えあい、学び合う時間を設けてきました。また、運営側が現場とともに一緒に考えあう時間を作りながら、保護者や子どもの

思いに寄り添っていけるよう努力しています。

- ・ 保育事務の見直しを行い、重複していた書類を整理することで事務の軽減につなげることができました。若手職員の担当受け持ち数を減らした事で当該職員には利点がありましたが、全体的に事務時間を取り合う工夫も必要となり、土曜保育出勤チーム、各おうちのやりくりで時間内に行う意識を持ってきました。しかし、保育現場の事務は減りません。働きやすい環境を求めるためにも、配置基準の改善に向けて、現場理解を得られるよう保護者代表者の会、園だよりでも発信してきました。

(2) 職員が他の職員とともに保育を作り合い、子どもを真ん中に集団で考えられるようになります。

- ・ 子ども主体の保育をどのクラスも意識しながら取り組む姿がみられます。経験年数の差から職員同士の意見のすり合わせに時間を要することも多くありましたが、クラス会議の時間や小集団での話し合いの場を意識的に増やした事で、子どもの姿から保育内容を話し合う事ができるようになってきました。しかし、日常の伝えあいが不足して起こる事象も見受けられたため、情報の差別化を減らし共有を効率化するためコドモン新機能「せんせいトーク」の活用を始めました。この機能を活用しつつ、職員間での直接的なやりとりも大事にしてきました。
- ・ 子どもたちの「やりたい」という思いからスタートする保育実践が増え、子どもたちが主体的に遊ぶ姿が見られています。職員個々の特性を活かしながら、子どもと活動を楽しみ、興味を広げる事が課題と考えています。第三者の視点を取り入れるため保育アドバイザーの協力を得て、クラス集団の中で自分たちの保育を振り返って考え合い、実践につなぐことができました。
- ・ 大人が答えを用意して対峙している面も見られ課題と感じています。子どもたちの育っている力を信じ、必要な支援や材料、環境を整えながら保育実践を深められるようになる事が課題です。余裕をもって保育に当たれるよう現場体制を整え、保育に返っていくきっかけとなるような言葉がけや対話を増やしてきました。今後も現場とともに考え合っていきます。
- ・ 責任者にクラス意見を集約し、園全体の会議へ意見や課題をあげていく力がついてきました。課題を自クラスの様子とともに他クラスや運営陣と考え、風通しの良い関係へとつながっていけるよう皆で力を合わせているところです。
- ・ 月に一度、セクションごとに開催する有期契約職員会議では、子どもや保護者の理解を深めるとともに、子どもへの関わり方を一致させることで、保育集団の質を維持することができました。また、園長面談も計画的に実施し、正職員とは異なる視点から貴重な意見をいただき、園運営に反映させることができました。

(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。

- ・ 担任が継続的な声かけや援助を行うことで、子どもたちが生活行為に積極的に取り組む姿が見られました。子どもたちの成長を保護者とともに見守り、食事の移行についても連携を取りながら進めていきました。やりとりを重ねていく中で、安心して自らの意見を伝え、相手の言葉を受け入れようとする姿も見られました。
- ・ グループ活動を通して、異年齢での関わりが自然に広がり、子ども同士で声をかけ合う姿も見られました。遊びの中では子どもたちの発案から活動が発展していきました。また、5歳児の当番活動により役割意識や見通しを持つ力が育ったことで、下の年齢の子どもたちへ良い影響も見られました。
- ・ 給食職員と保育職員が密に連携し、栽培活動や喫食量・配膳量についても一緒に考えて取り組みました。子どもたちの食材や献立への興味が高まり、子どもたちから給食への関わりも増えました。好みや量を把握したこともあり残菜量は減少しました。
- ・ 手作り遊具を保護者と一緒に作ることで、家庭と園で手作りの良さを共有できました。環境配慮にも意識を向け、扱うものを選択しました。
- ・ 晴れた日には外遊びを基本とし、散歩などの活動を取り入れて体を十分に動かしてきました。幼児の遊びに触発されて乳児の遊びも広がり、一緒に遊ぶ姿も見られました。運動経験の不足から顔の怪我が目立つ傾向にあったため、遊びの中で体幹を育ててきました。
- ・ 配慮が必要な子どもたちについては、保護者と園での姿を共有し、面談を重ねてきました。療育へ継続的に通うことで、状況を見て行動する姿などが見られるようになっていきました。

(4) 子どもの豊かな育ちを真ん中にし、保護者と連携しあっていく関係を目指します。

- ・ 細目な声かけや丁寧にノートを記載してきた職員の努力が実り、「安心して預けることができる」という声を保護者からいただいています。一部の園児が行き渋る姿があり転園等につながってしまったケースもありましたが、繰り返し面談を実施し、園全体で受け入れ方を工夫して改善に向けて協力できた事は、今後活かしていける点であると考えています。
- ・ 今年度も保護者代表の会とともに行事運営等を行う事ができました。会議も活発に開催し園状況を相談できる関係性です。保護者同士がつながり合うコミュニティサイトも代表者が中心となり運用し、園以外での交流も活発に開催されています。
- ・ 家庭状況をよくつかみ現場間で共有を増やす事ができました。日々のやり取りは増えていますが、それでも引継ぎ漏れの発生、伝え方や、もう少し家庭状況を理解していたら防げた事象もありました。引継ぎに関してはコドモンの「せんせいトーク」を導入しカバーすることができましたが、送迎時の会話を積極的に行う機会となるよう底上げが必

要となっています。

- ・ 年齢別懇談会の要望が保護者から毎年出されています。また、学年の呼び名がある事やその意味等、保護者が理解したがつているという事も知りました。年齢別の育ちのおさえや保護者同士の関係性も大事にしていく事で、私たちが大事にしている保育理解へつながってきていることを実感しました。

(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。

- ・ 各お便りや掲示を使用し SNS や HP を宣伝するとともに地域向け行事のお誘い等を見える化し、園の様子や行事等が幅広く伝わるように取り組んできました。
- ・ 地域食堂「こぐましょくどう」の認知度が上がり、用意した 50 食がすべて提供できるようになってきました。中には生活が困窮していると思われる方も一定数います。時間前から並んで待つ方もおられ早々に配布終了という月も多く、配布の仕方の工夫も検討してきました。利用者の中には園が困ったら声をかけてと言って下さる方や、定期的な寄附やお米を提供して下さる方もおり関係の広がりを感じます。引き続き地域の方に向け、開かれた場となるよう応えていきます。
- ・ 地域の幼保小中の交流活動である「みどりのまなびや」に参加し、これまで行ってきた交流だけではなく、近隣小学校、保育園、幼稚園との交流がうまれました。
- ・ 園内や周辺環境整備に卒園児の保護者が複数参加してくださいました。又、園行事へ参加して下さり、在園児保護者との交流も深まっています。保護者代表者の会からの繋がりを広げ、卒園後も繋がっていける体制が出来てきました。

(6) 保護者が安心して預ける事ができ、職員も働きやすい環境を整えていきます。

- ・ 保護者との関係作りでは日々の声掛け、早急な面談対応を心がけてきました。職員が園児の姿を伝えながら関係作りを行う事で、保護者からの面談の申し入れも増えてきました。今後は伝え方や相手の思いに寄り添う事を重点としていきます。
- ・ 補助金を利用し、園児の安全のため全保育室に見守りカメラ設置を行いました。監視の目ではなく、事故検証や地域安全に役立っています。職員や保護者と話し合いの元合意できたことは大きいと感じています。今後は日々の対話を主としながら機器も活用していきます。
- ・ 地域事業の充実、園長会を通し隣組の関係作りを深め地域から必要とされる園へ成長しました。大規模災害を想定しポータブル電源装置を事業毎に購入し一定の電源は確保できました。今後は空調や冷蔵庫等の維持のため非常用自家発電設備設置にむけて準備を行います。
- ・ 1 年遅れていた園庭築山の改修工事を行う事ができました。戸外に関しては木製遊具の破損や劣化により危険も多い為、樹脂製や擬木製品を使用した仕様も検討しながら園児が安全に利用できるように環境を整えていくことが課題となります。

6. 職員研修実績

- ・ 園内研修の内容を細かく計画し実施してきました。定期的に研修や実践を行い職員育成に力をいれてきました。クラス内で多角的に語り合う場や、研修やメンターとの語り合いを通して互いに認め合う姿も増えてきました。引き続き研修を通して自分たちの保育を振り返るとともに、継続への意欲を挙げていきたいと考えます。
- ・ 毎月の職員会議の中で学んできた研修を発表する場を設けてきました。各自の振り返りにより理解が深まり、発表をすることで表現力を培うことができました。また、時間をかけて語り合うことで子ども理解や保護者への理解、職員同士の理解が深まりました。次の実践を豊かに展開することへとつながるよう継続していきたいと考えます。
- ・ 同じ研究会の中で誘い合い研修へ参加する事が増え、お互いに学びを共有する姿がありました。次年度も自主研修への参加を促し、豊かな実践へつなげていけるよう支援します。
- ・ 砧保育園の休日保育応援、しろくま保育園への見学交流や他法人への見学を複数実施してきました。他施設を知り、自施設の保育をより豊かに展開しようとする力がついてきました。又、他施設から応援を得る中で、普段気づかない部分に対する指摘をしてもらい、より良い環境整備への意識を高めるきっかけとなりました。

しろくま保育園 2024 年度事業報告

1. 事業内容

(1) 認可定員 102 名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	9	15	16	20	20	22	102
4 月空き	0	0	0	5	18	18	41

途中退園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
途中退園				1	1		2

途中入園児

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
5 月							0
6 月				1			1
7 月				1			1
8 月							0
9 月				1			1
10 月						1	1
11 月							0
12 月							0
1 月							0
2 月							0
3 月							0
合計	0	0	0	3	0	1	4

(2) 保育年齢 産休明け（5 月）～就学前

(3) 保育時間 7:00～20:30

(4) 延長保育事業 7:00～7:30、18:30～20:30

(5) 3～5 歳児の異年齢保育

(6) 障がい児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域子育て支援事業

体験保育	11 家庭 23 名
産前産後育児体験	6 家庭 6 名
小中高生の育児体験	15 名
実習生受け入れ	0 名

(9) 特別保育事業

① 一時預かり事業

イ) 利用定員及び利用数：一時利用 登録総数 18 名
延べ人数 204 名

ロ) 保育職員体制：常勤 1 名・非常勤職員 1 名

ハ) 2024 年 7 月開始

② 1 歳児 1 年保育事業

イ) 利用定員及び利用数：定員 5 名、4 月に 5 名入園し退園なし
延べ人数 1,029 名

ロ) 保育職員体制：常勤 1 名・非常勤職員 1 名

(6 月～非常勤 2 名、10 月～非常勤 3 名)

ハ) 2024 年 4 月開始

③ 短期特例保育事業

イ) 利用定員及び利用数：定員 1 名程度、利用 6 名
延べ人数 34 名

ロ) 2024 年 4 月開始

(10) 練馬区民設子育てのひろば事業

イ) 利用定員及び利用数：定員 10 家庭程度、延べ利用人数 784 名

ロ) 職員体制：非常勤職員 3 名

ハ) 2024 年 10 月開始

2. 児童状況

① きょうだい関係

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
世帯数		3	1	5		3	12

② アレルギー食対応児 2 名

3. 職員状況

(1) 正職員（在籍）25 名

< 正職員配置状況 >

職種	園長	副園長	事務員	主任	チーフ	保育士	看護師	栄養士	調理員	育休	合計
人数	1	2	1	0	0	16	1	4	0	0	25

① 新規採用者 11 名 保育士 8 名（新卒 5 名・既卒 3 名）

事務員 1 名（既卒）

栄養士 2 名（新卒）

② 産休・育休取得者 0 名

③ 病休・休職取得 1 名

④ 育休復帰者 0 名

⑤ 育児時短取得者 3 名

⑥ 短時間正職員 0 名

⑦ 法人内異動者 保育士 10 名

（4 月～こぐま保育園より 2 名 向山保育園より 4 名 砧保育園より 2 名 上北沢こぐま保育園より 2 名）

栄養士 3 名

（4 月～向山保育園より 2 名・10 月～向山保育園より 1 名）

看護師 1 名（4 月～向山保育園より）

栄養士 1 名（10 月～砧保育園へ異動）

⑧ 退職者 保育士 1 名（3 月末）

(2) 有期契約職員等

1) 配置状況

① 有期契約職員

イ) 年度当初配置数 13 名（4 月入職 13 名）

（うち有資格者 3 名）

ロ) 年度途中入職 15 名

ハ) 退職 11 名（うち 4 名夏季のみ、3 名 2025 年 3 月末退職）

② 派遣職員 無

③ 業務委託 無

<配置状況>

	0 歳児	1 歳 1 年	一時 保育	ひろば	1 歳児	2 歳児	3～5 歳児	給食室	事務室	土曜
人員数 4 月	4	1	0	0	3	3	2	1	0	0
人員数 年度末 (派遣数)	3 0	2 0	1 0	3 0	4 0	2 0	3 0	2 0	0 0	1 0

(3) 嘱託医 2 名

- ① 小児科医 1 名（浅村 信二医師 浅村こどもクリニック）
- ② 歯科医 1 名（安齋 聡歯科医 齋藤歯科医院）

(4) 講師等

- ① わらべうた 鈴木典子

4. 協力関係機関

- (1) 練馬区障害児巡回指導 年 2 回
- (2) 練馬区立子ども家庭支援センター
巡回 年 2 回、相談および連携
- (3) 児童相談所相談等の援助・協力

5. 重点とする取り組み

しろくま保育園が開園し、新入園児 61 名を受け入れてスタートしました。1 年目はすべての新しい環境を受け入れ、一步ずつ安心できる場になっていくことを目標に運営してまいりました。そして開園後、1 歳児 1 年保育事業の開始、短期特例保育利用家庭の受け入れ、一時預かり事業の開始、さらに練馬区民設子育てのひろば事業運営事業者に採択され、地域の子育て家庭への支援を保育園の役割として捉え、全職員の力を合わせて努めてまいりました。上記の取組を以下の通り報告としてまとめます。

(1) 子どもたちが安心してしろくま保育園であそび、生活していけるように

・開園初年度は入園する子ども全員が新入園児です。新しい環境を受け入れていく人数が多い環境の中で 4 月を迎えました。どの子も慣れてくるまでは泣いたり試し行動をしたりと安心できるために一生懸命教えてくれました。一人ひとりが安心できるようになっていくために、子どもの思いに丁寧に応えることを心がけました。0～2 歳児が年齢別保育だったことで、それぞれの年齢特有の姿に対してより働きかけやすい環境だったと思います。泣いて、抱っこされ、徐々に遊んだり食べたり眠ったりすることが

できるようになっていき、友だちを気にかけてたり助けたり、支えられたりといった関係が作られていきました。自分のことを受け入れてもらったことで友だちの気持ちに気づいたり、性格や好きなことを知って感じたりしながら共に暮らし関わりを重ねて1年間を過ごすことができました。

- ・異年齢クラスは3歳児15名、4歳児2名、5歳児4名でスタートしました。異年齢の中で5歳児が米を研いだり話し合いをしたり、5歳児だけの行事「どんどんお楽しみ会」や「卒園遠足」を楽しんだり、5歳児の関係づくりにおいて同年齢集団としての関わりも意識的に行ってきました。日々の生活やあそびの中でもやはり5歳児が力を発揮する機会が多くあり、4歳児、3歳児にとって目標になったり刺激になったりして、自分もやってみたいという希望に繋がって生活していました。4、5歳児の人数が少ない異年齢集団でしたが、それぞれの持ち味を活かして十二分に力を発揮していました。
- ・1歳児保育室の隣に異年齢保育室を配置したことで、きょうだい関係やきょうだい同士の関わりに刺激を受けてきょうだいのように関わりたいという思いが芽生えていました。0歳児室の隣に1歳児1年保育・一時保育室があり、また吹き抜けでのつながりが年齢の枠を超えた関わりをたくさん生み出してくれました。

(2) 保護者がしろうま保育園に慣れ、安心して子育てができるように

- ・保護者の思いや家庭状況を把握し、丁寧に応えていく姿勢を大事にしてきました。子どもが豊かに育ってほしいと願う保護者の思いと私たち職員の思いが重なるように努めました。開園当初は子どもの泣きや職員の不慣れな対応、園の保育方針を十分に伝えきれていない状況の中で、不安な気持ちになってしまった保護者もありました。率直な保護者の思いを話していただき、改善できることを検討し、全園児の受け入れ期を全職員で受け入れていくこと、また保育園で大切にしていることや子どもや保育の状況を保護者に伝え、互いにすれ違った思いにならないよう努めました。子どもたちがいきいきと生活するようになり、多くの保護者の方に理解していただけるようになりました。
- ・行事では子どもの姿を通して成長を感じることができました。子どもと一緒に楽しむことも保護者と一緒に体験しました。子どもそれぞれに違った姿を見せられますが、その日を迎えるまでの姿を共有してきました。
- ・懇談会、個人面談、保育参加を通してクラスの保育や子どもの様子を伝えてきました。すべての方に参加していただくことはできませんでしたが、欠席した方に懇談会の様子やスライドショーを見てもらう等、実施したことを共有してきました。また連絡帳や通信、送迎時の関わり等子どもの様子を伝える機会を大切にしました。
- ・階段下のくつろぎ空間に絵本を整備し、お迎え後に保護者と子どもがゆっくり関わられる場所を作りました。給食展示がそばにあるので、展示を見て話す姿がよく見られました。なかなか帰路に着けないことにもつながっていましたが、ゆっくりと

過ごすことができる場としてとても好評でした。

- ・ 子どもの健康状態を丁寧に把握するため、受け入れ時の引継ぎ、看護師の視診、昼の担任間の引継ぎなどを丁寧に行いました。また、毎月の0歳児健診、年2回の全園児健診、年1回の歯科検診にて医師とともに子どもの健康を守ってきました。保護者とのやり取りや子どもの様子を把握して、子どもの「いつも」を保護者と共有していきました。

(3) 職員が団結して、しらくま保育園の保育をつくっていきます

- ・ 異動職員、採用職員それぞれが初めて一緒に保育をしました。打ち合わせを重ねに重ねて開園を迎え、日々の保育を通して意思疎通の機会を大切にしてきました。保育方法が異動者それぞれの保育経験からしらくま保育園での子どもや環境に合わせて考えられ、迷ったり困ったりすることをたくさん経験しながら保育を作った1年間でした。職員一人ひとりの良さが保育園運営や保育内容に発揮されるよう、各種会議での職員の意見を大切にしてきました。年4回の保育総括会議では、各期の視点に沿ってそれぞれのクラスでまとめ、報告や討議を通して保育を確認し合って進むことができました。まだ自身が所属するクラスのことでは手が届かない状態もありましたが、行事担当や園全体の役割を通して自分が所属するクラスだけでなく園全体を知って考えることができました。全体が少し見え、互いに助け合って悩み合える職員関係を作ってくれたと思います。職員同士の思いを伝えあうことでそれぞれの子どもにとらえ方や保育の考え方を知り、互いの思いを尊重し合いながら協力して保育に向かうことができました。
- ・ 開園初年度の保育を創ることは本当に大変なことでしたが、多摩福祉会の実践経験を持ち寄り、新入職員の経験が加わって、新しい保育の創造に職員集団としてチャレンジしてきました。子ども、保護者、職員同士の関わりを通して笑い、楽しみ、悩み、泣いて、様々な経験を保育に注ぎこんでくれたと思います。

(4) 谷原保育園との交流を行います

- ・ 谷原保育園との交流は6月頃からスタートしました。初めは谷原保育園の地域交流の日に何うように設定してきましたが、後半期からは自然に遊びに行かせていただくようになりました。谷原保育園出身の子もそうでない子も、谷原保育園でのあそびや関わりを楽しむことができました。谷原保育園での歯科医による歯科講話に年長児を招いていただき、年長児同士の交流も行えました。しらくま保育園にも谷原保育園3歳児クラスを中心に来園していただきました。

(5) 地域住民にしらくま保育園を知っていただく機会をつくり積極的に発信していきます

- ・ 一時預かり事業、民設子育てのひろば事業を開園初年度にスタートすることがで

きました。多くの方に利用していただき、感謝の言葉もいただきました。

- ・ 一時預かり事業、短期特例保育事業では0歳児も受け入れてきましたが、他年齢の生活時間との違いから日課の保障に苦慮しました。また利用が継続的でない場合には、保育園に慣れることが難しい中での保育になることがありました。1歳児以上の利用児は在園児との交流を十分に行えるように、園庭や保育室でともに過ごす時間を多く取ってきました。利用が安定してくると、見通しをもって遊び生活する姿が見られ、保護者の方の安心につながっていったと感じています。
- ・ 民設子育てのひろば事業は10月からスタートしました。保育園内にひろばを設置することが練馬区内では初めてとのことで、練馬区担当課の方と丁寧に打ち合わせながら進めていきました。有期契約職員3名とともに地域への宣伝やひろば運営に力を尽くし、利用者が日に日に増えていきました。谷原保育園でも地域向けの取り組みを行っており、しろくまひろばと併用しながら利用する家庭が多く、家庭毎の需要に応えられていると感じています。3月末にはひろばに地域ボランティアを受け入れることができました。
- ・ 1歳児1年保育では、年度内に認可保育園に転園できる家庭がなく、認可保育園1歳児枠の不足を感じました。1年間ではありますが、安定して通うことができ、懇談会や保育参加、個人面談等も在園児と同様に実施することができました。翌年4月に認可保育園に入園できた家庭が5家庭中2家庭しかなく、保育の継続性という観点からも認可保育園2歳児枠の拡大や1歳児1年保育実施園での2歳児1年保育実施等の必要性があると考えています。

(6) 向山保育園との連携をはかり、互いの保育を高めていきます

- ・ 向山保育園職員との職員交流では、給食職員の調理交流研修、向山保育園中本園長によるしろくま保育園職員向けの保育講座の実施、法人合研をしろくま保育園で受講する等を行いました。練馬の保育をともに作っていく仲間として、顔を合わせる機会を意識的に作ってきました。また、向山保育園職員に来園してもらってしろくま保育園での保育交流研修や園長、事務長による財政検討会議、給食合同会議も行いました。
- ・ 園児の交流では、年長児が電車を利用して向山保育園に行き、年長児同士の交流をしました。打ち解けるまでに時間はかからず、向山保育園の遊具を紹介してもらったり、一緒にお店屋さんごっこをして遊んだり、楽しむ姿が多く見られました。

(7) 子どもが生活しやすい環境をつくっていきます

- ・ 開園後、子どもたちの施設の使い方を見ながら壊れたり利用しづらいところを確認しながら、改修や修繕をこまめに行ってきました。園庭の大型遊具の整備は検討を進めていきました。実施まではできなかったため、次年度以降の課題になりました。

た。

- ・ 園児の欠員の関係で空き保育室がありました。午睡から早く起きてしまった子や雨の日の活動場所、懇談会の開催等に活かして保育を行うことができました。2026年度にはすべての保育室を使用する予定のため、どのように保育を行っていくかを検討していきます。

(8) 予算の見通し

- ・ 1年目の状況を踏まえて5か年収支計画を立てています。職員の経験年数が蓄積されていく中で保育内容が充実していくので、当面は職員配置を厚くして子どもを丁寧に保育していく必要があります。人件費が多くかかってしまいますが、子どもが安心して生活できるよう配置しながら、基準等を考慮した保育体制づくりを引き続き検討していきます。

6. 職員研修実績

法人内施設から異動した職員、採用された職員がしろくま保育園で出会い、新たな保育実践を共同して積極的に挑戦していけるよう、「わたしたちのめざすもの」から多摩福祉会の理念を学び保育に活かしていきました。

(1) 園内研修（職員会議、総括会議）

保育総括

受け入れ期の様子・夏季保育での遊び・事例エピソード（「わたしたちのめざすもの」に照らした保育実践）・年間まとめ

職員会議

保育雑誌ちいさいなかまの読み合わせ（新入園・子ども理解・一時保育・保育情勢・子どもとの話し合い・保育の在り方）

子どもの権利・人権と保育研修

虐待予防研修（コドモン配信）と討議

食中毒対応訓練研修

(2) 園内研修（テーマ研修）

応急救護（光が丘消防署員）

わらべうた(講師・年4回・全保育士対象)、ドル平実技(講師・職員6名参加)

(3) 法人内研修

・ 法人合研、中堅層研修、新人研修、専門部会

・ 法人内施設交流研修

(4) 出張研修

・ 行政研修

幼保小連携 管理職研修 1 名、年長担任研修 1 名

子育て支援員研修 1 名

子育てひろば基礎研修 2 名

- ・キャリアアップ研修

- ・各団体主催研修

障がい児保育研修 1 名、乳児保育研修 1 名、全国経営懇夏季セミナー1 名、東京
経営懇宿泊研修 1 名

(5) 自主研修

- ・保育体制維持のため、書籍での学習が多かった

永山小学童クラブ 2024 年度事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：70 名
- (2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学校 1 年生～6 年生）
但し、5、6 年生は特別支援学級在籍児のみ
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2024 年 4 月 1 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	28 名	25 名	14 名	2 名	1 名	0 名	70 名

- ・途中退所児童：6 月、8 月、9 月、12 月、1 月に各 1 名退所
- ・途中入所児童：7 月、9 月、10 月、1 月、3 月に各 1 名入所

(5) 在籍児状況

- * 要配慮児 15 名
- * アレルギー児 3 名（内 2 名エビペン所持）
- * モアサービス利用者 17 名（途中 2 名退所）

2. 職員状況

(1) 正職員（2024 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	3 名	4 名

- * 異動者 1 名（貝取小学童クラブより異動）
- * 産休者 1 名（10 月より産休・育休取得）
- * 施設長 1 名（1 月より交代）
- * 退職者 2 名（施設長 12 月 31 日、支援員 3 月 31 日退職）

(2) 有期契約職員

勤務時間	6h× 週 5 日	6h× 週 4 日	4.5h× 週 4 日	4h× 週 4 日	4.5h× 週 5 日	学生	計
人数	2 名	1 名	3 名	1 名	1 名	4 名	12 名

- * 無期転換職員 4 名
- * 固定給職員 1 名（7 月より）
- * 有期契約職員 2 名入職（8 月、3 月） 学生 4 名入職（1 月 1 名、2 月 1 名、3 月 2 名）
1 名産休（3 月より）、1 名異動（3 月より貝取小学童クラブへ）

3. 2024 年度に取り組んだこと

（1） 育成について

① 子どもたちとの関係

〈職員の交代〉

2024 年度は施設長が代わり、グループ担当の正職員 1 名、有期契約職員 3 名も代わるという、大きな変化の年であった。10 月より正職員が 1 名産休に入る事になり、7 月に貝取小学童クラブより正職員 1 名が異動してきた。産休に入る職員のグループは、今まで一緒にグループを担当してきた有期職員が 1 日 7 時間勤務の固定給職員となり、グループをまとめていった。1 月に施設長が交代することも予定していたため、貝取小学童クラブから来た職員は現施設長が担当していた永 1・さくらグループを引き継いで担当した。

〈子どもたちとの関係作り〉

子どもたちは新しい職員が来ることに興味津々の様子だった。ロッカーに登ってみたり、壁によじ登ってみたり、室内を走り回ってみたりと、不安な気持ちを行動で表しているようだった。子どもたちとの関わりを考え、いろいろな場面で子どもたちの力を借りた。特に 3 年生には、日々の育成での進行や外遊びでのまとめ役、プランター係や壁面工作係、安全教室でのロールプレイ、「おみせやさん」などの出店で協力をお願いした。昨年までの行事や係のやり方をよく知っている子どもたちは自分たちで意見を出し、話し合いを重ね、実行に移していった。子どもたちの考えたことが実行されていくにつれ、少しずつではあるが全体的に落ち着いた様子をみせてきた。保護者の方々にも子どもたちが「おみせやさん」の店員さんとして働く姿を見てもらい、子どもたちの大きな自信となった。3 年生遠足ではケンカをしたけれど、皆で一緒に行った経験はとても貴重なものだったと自分たちで振り返りをしていた。ケンカをしたり、悩んだり、大人に相談したりしながら、確実に成長した姿を見せていた。子どもたちの意見を聞くことで、大人もその心を理解し子どもが中心となる育成を行う事ができたと感じる。

② アレルギー対応と食育

複数のアレルギーを持つ児童がいたためおやつには担当職員を配置し、誤食が無

いように気を付けた。同じおやつが続いてしまう事を避けるため、生協などで新しい素材も検討し、その都度保護者と確認しながらバリエーションを増やしてきた。原材料をしっかりと確認し、発注時、納品時、提供時の確認を徹底した。

7月の学校最終日はカレーライス、12月の学校最終日、3月の学校最終日には豚汁を作って昼食会を行った。その他、スープ餃子やおでん等季節に合わせて子どもたちからリクエストを聞き、手作りのおやつを提供した。学年によって登所の時間が変わってしまう時はレストランおやつを実施した。いつもは一斉のおやつと違い、時間に幅を持たせて、好きな時間に好きな人と食べに来ることができた。おやつを提供できる場所が限られてしまうため、次に食べる人が気持ちよく使えるように、テーブルをきれいにしたり、ゴミを拾ったりするなど約束を決めた。ゴミが散らかっていたり、なかなか場所が空かない時もお互いに譲り合ったり他の人の事を考えたりする良い機会となった。

プランター栽培では、きゅうりやミニトマトなどを夏休みの昼食時に提供して好評だった。大根は豚汁に入れて楽しんだ。

③ 安心安全教室及び災害対応

お留守番教室は3年生の協力を得て、5月に実施した。自分たちでどのように学童クラブから家に帰るか、良い学びの機会となった。

10月には多摩市道路交通課の職員による交通安全教室を行い、自転車の乗り方や交通ルールなどについて学んだ。

災害については、日本の各地で様々な災害が起こっていることもあり、関心を持つ子どもたちが多かった。避難訓練は、災害から身を守る方法や、異なった事例を考えて毎月実施した。インフルエンザやリンゴ病など感染症の報告がよく聞かれたため、手洗いうがいの実施を強化した。大流行になった疾病は無かったが、今後も気をつけていきたい。

④ 永山学童クラブとの協力

年度の初めに、永山学童クラブとお互いの職員体制のフォローと子どもたちの交流を目的に、土曜日の育成を合同で行うことを検討、実施した。どちらも平日の職員体制の確保については、一定の効果があったと思われる。また、土曜日に遊び相手が増えたことで、子ども同士の遊びが展開しやすかったことも挙げられる。校庭で一緒に遊ぶ姿もよく見ることができた。また校庭で合同の避難訓練を実施し同じように意識を高めることができた。

⑤ 法人4学童クラブとの合同行事

今年度は4学童クラブでたまふくカップを実施することを常勤会議において決定

した。職員の話し合いにより、カロムの大会を行う事となった。永山小学童クラブでは予選会を行い、5名の出場者を決めた。貝取学童クラブはインフルエンザ流行のため不参加だったが貝取小学童クラブを会場にして3学童クラブで試合を行った。試合の当日は、緊張して真剣な表情を見せていた5名の子どもたちだが、全勝で優勝しとても喜んでいて。試合の後は自由に対戦し、おやつと一緒に食べ、交流をする事ができた。カロムをしている時もお互いにアドバイスをしたり、笑いあったり楽しそうな様子が伺えた。今後も交流を続けていきたいと感じた良い経験だった。

⑥ 保護者との連携

〈保護者会・その他〉

保護者会は基本対面とした。春は47世帯が参加し、夏はYouTubeで「夏休みの過ごし方について」を配信した。3年生保護者会は3年生遠足の前に遠足の説明、お留守番のやり方、困っていることについて、グループに分かれて話し合いをし、活発に意見交換することができた。

10月には冬時間降所についてのアンケートを行った。日が暮れるのが早くなるため、降所時間を早めていきたいという考え方についても保護者の理解を得ることができ、安全な降所に繋がった。

〈個人面談〉

春は、1年生全員と2年以上の希望者、秋は2年生以上全員と1年生の希望者を対象におこなった。春は35世帯、秋は53世帯の面談を行った。学童クラブでの様子をお伝えし、学校や家での様子・困りごとなどを聞くことができた。3年生のある児童は、面談で自分の悪いところを言われるから母に来て欲しくないとロッカーに閉じこもってしまったが、職員が話をし、急遽その子自身も面談に加わることにした。普段の学童クラブでの様子やがんばっていること、これからがんばりたい事を母に伝えたと、その子も安心して帰宅していった。子どもや、親の気持ちに寄り添って実施したことにより、とても意義のある関係作りができたと感じた。

〈父母会〉

父母会と永山学童クラブとの共催で親子学習会を行った。帝京大学の尹先生によりアンガーマネジメントについての講演を実施した。子ども向けと保護者向けの両方の講義をしていただいた。子どもにとってもすぐに実行できる事が多く、参考になったという意見が多かった。

9月に父母会共催でおみせやさんを実施した。保護者からも2店舗出店してもらい、行事担当の保護者だけでなく10名以上のボランティアの保護者の協力を得ることができた。食事をするスペースを設けたこともあり、保護者同士が子どもを交えて、楽しく歓談していた。

4. 環境

- ・ 玄関周りを片付け、広く明るいイメージとなった。畳のスツールを置いたことにより、子どもたちが座っておしゃべりをしたり、本をよんだりしていた。うるさい事が苦手な子どもは避難場所として、息抜きができる場所になっていたようだ。季節の花や飾りを置いて、四季を感じられる優しい部屋作りを心掛けた。
- ・ その時々季節を感じられるように壁面工作をして飾った。2・3年生を中心に何をしたら良いかを考えて、居心地の良い環境作りをした。
- ・ おもちゃの棚は雑然とする事が多かったため、実物の写真を貼ってわかり易く、片付けがしやすいように工夫をした。

5. 地域との連携

- ・ 青少協の行事は例年参加しているが、今年は地域運動会には参加できなかった。どんど焼きは日曜日に行われたため、学童クラブとしての参加はできなかったが、自分の小学校の行事として、学童クラブ在籍児もたくさん参加していた。
- ・ こぐま保育園との交流会も実施した。1年生が中心となり、こぐま保育園の園児を迎えに行き永山小学校の校庭で一緒に遊んだ。ドロケイや鬼ごっこを企画し、みんなで楽しんだ。
- ・ 永山駅近くのおだ学園保育園の年長児 12 名が学童クラブに遊びに来た。雨だったため室内遊びだったが、上級生がおもちゃの使い方や、塗り絵、折り紙など率先して保育園児に教える姿が見られた。他法人ではあるが、年長児の情報共有をする中で、交流を持ちたいとの保育園の職員からの申し出で実現した。今後もいろいろな形での交流を続けていきたいと感じた。

6. 職員について

- ・ 新しく有期契約職員が入ったり、異動になったりと、目まぐるしい 1 年だった。有期契約職員についても担当のグループを決めていたが、配慮児はグループだけでカバーすることは難しかったため、グループを越えて担当することも多かった。月案会議では、子どもの登所時間が遅い日を選び、午前・午後の時間を使い綿密に話し合いを実施した。お互いの情報を共有するために、月案会議だけでなく、日々の育成前のミーティングでも情報を伝える事が多かった。活発に意見が出て、育成に役立っていた。夕方の時間を使い、育成の記録を記入し情報の収集に役立てた。
- ・ 職員との面談を行い、普段の育成で思う事、大変な事、人間関係で困っている事など吸い上げを行った。率直な意見を聞くことができ、参考になる意見も多かった。

- ・ 職員の研修も積極的に参加した。学んだ事は月案会議で、発表したり、報告をしたりして、全員で学びを深めた。

7. その他

- ・ 学校の敷地内にある事もあり適宜情報の交換を行った。夏には全学年について先生方と詳しく情報の共有をした。保護者との関わりも共通認識を持って臨むことが出来た。
- ・ 3 月に島田療育センターの巡回相談を実施した。児童 2 名の行動について事例研究を行った。的確なアドバイスをもらう事ができ、今後の育成に役に立つ話を聞くことができた。

2024年度 永山小学童クラブ 月ごとの様子		
	あそびや育成の概要	行事
4月	1年生が28名入所し、総勢70名でのスタートとなった。同じ保育園出身の子同士で遊んでいることが多かったが、外遊びの時間には、野球やサッカー、ドッジボールなど上級生と一緒に遊んでいる子も数人いた。また、雲梯や登り棒では手に豆を作りながら遊んでいた。 夕方の延長利用やモアサービス利用の子が多く、日によっては延長時に30名を超える日もあった。	・避難訓練：10日・11日 10日は1年生のみ、11日は全学年一斉。 ・誕生会：26日
5月	1年生も学童クラブでの生活に慣れてきた。上級生は1年生の様子を気かけ、遊びに誘っていた。 外遊びでは野球、サッカー、ブランコでよく遊んでいた。雲梯や登り棒をコツコツ練習して、上達していく姿があった。 プランター係を中心に、苗の購入及びプランターの整備を実施した。皆で苗の成長を楽しみにし、水やりを行っていた。 多くの1年生がコマ遊びに参加し、コマ検定に臨んでいた。どの子も上手になるのがうれしくてたまらないようで毎日熱心に取り組んでいた。	・引き渡し訓練：8日 多摩市全体の避難訓練と引き渡し訓練を行った。 ・お留守番講座：22日 帰り道の確認を行った。 ・誕生会：17日、31日
6月	1年生も5時間授業が始まった。急に暑くなったためか夕方に疲れてしまう様子が見られた。宿題が増えてきて、取り組みに時間がかかる子もいた。 外ではサッカー、野球、ブランコ、雲梯などで遊んでいた。暑さによって、固定遊具や走らない遊びのみを実施したこともあった。 コマでは1年生が検定に臨んでいた。中々昇級はしないものの、熱心に練習し、少しずつ成長していた。 室内遊びでは、工作や、折り紙をする子が多く、できた作品をカレンダーや自分のグループに飾って楽しむ姿も見られた。 七夕に向けて、飾りを作ったり、短冊に願いを書いていた。	・工作：12日～ 2,3年生の工作係が準備し、紙コップで万華鏡を作った。 ・誕生会：14日 ・歯磨き教室：19日 歯科衛生士から話を聞いた。 ・親子学習会：29日 永山学童クラブ、父母会共催で実施。講師を招き、アンガーマネージメントについて学習した。永山小学童クラブでは親子合わせて96名の参加。
7月	空梅雨のためたくさん外で遊ぶことができた。暑いときは、固定遊具と、キャッチボールやサッカーのPK戦などに限定して遊んだ。 雨の日は学校の体育館を借りて、ドッジボール、大縄跳び、バスケットボールを楽しんだ。 夏休みになってからは、暑い日が続き、室内で遊ぶことが多かった。ミサンガ作りや、輪ゴムでプレスレットやヘアバンド等を作って楽しんだ。カロムを熱心に練習する子が多かった。	・誕生会：12日、26日 ・昼食会と映画会：19日 カレーライスと唐揚げ ・大掃除：24日 ・避難訓練：26日 大地震を想定して実施。
8月	暑い日が続き、室内で遊ぶことが多かった。うちわ、ゴム編み、アイロンビーズなどの製作を行った。自分で色の組み合わせを考えたり、可愛い形を考えたり、友だちと話をしながら楽しむ様子があった。 水遊びや虫捕り等、夏ならではの遊びを楽しんだ。 登所人数はお盆の時期に減ったが、19日には53名が登所し、その後もあまり減ることはなかった。 台風や急な大雨、発雷などがあり怖がる子がいた。30日には台風の影響で小学校が休校になり登所人数は8人だった。	・水遊び：1日～9日 毎日20人程度参加。 ・避難訓練：21日 地震を想定。 ・虫捕り大会：23日 10ペア20名が参加。
9月	残暑のため外遊びでは、気温を測り、熱中症指数を確認して遊ぶようにした。指数が高い時には、鬼ごっこなど走り回る遊びはしないように伝え、その日の状況に合わせて遊んだ。 初めて父母会と合同で行ったおみせやさんでは3年生中心に準備を進めていた。店舗によって、必要な物を作成したり、試食をしたりと準備を進めていた。体育館を使用しておみせやさんのため、使う場所の確認やサイズ感について子ども達と一緒に確認した。	・避難訓練：11日 不審者対応訓練を実施。 ・親子交流会：28日 子どもたちは4店舗、父母会が2店舗出して実施。総勢180名の参加だった。
10月	過ごしやすい気候になり、外遊びでは鬼ごっこやサッカーなど遊びの幅が広がってきた。小学校の運動会があり子どもたちは応援歌やダンスで使用するメロディを口ずさんでいた。 11月末の3年生遠足に向けて会議をすることや今後の流れなどを3年生に伝えた。 次年度の学童クラブの申請を踏まえ、個人面談を1年生は希望制・2年生以上は必須で実施した。面談を通して学童クラブでの子ども達の様子や学校や家庭での様子など保護者と共有をした。	・個人面談：2日～11月上旬 ・映画会：18日 ・お留守番教室：28日 ・交通安全教室：30日 道路交通課の職員により開催。 ・ハロウィン：31日

2024年度 永山小学童クラブ 月ごとの様子		
	あそびや育成の概要	行事
11月	気温が下がり、乾燥するようになった。子どもたちは元気に校庭で鬼ごっこや野球、バスケットボールなどで遊んでいたが、一方で体調不良により休む子も増えた。 3年生は11月末の遠足に向けて、グループごとにルートやルールなどを決めた。並び順で友だちと意見が食い違い、言い合いになるグループもあったが、自分たちで気持ちに折り合いをつけて話を進めることができていた。 2回目の誕生会をグループごとに行ったところ、誕生会の対象ではない子どもたちも積極的に参加していた。	・誕生会：8日・22日 ・避難訓練：13日 火災を想定して実施。 ・3年生遠足：30日 16名全員で多摩動物公園へ行った。
12月	3年生から「お楽しみ会委員」を募り4名集まった。委員の話し合いでドロケイをすることに決まり、ルールを周知するため、委員を筆頭にドロケイをしていた。段々と参加者が増え、お楽しみ会後もドロケイがブームのようになっていた。 またクリスマスプレゼントとしてパズルやボードゲームを購入すると早速楽しそうに遊んでいた。特に立体パズルが人気となり古い立体パズルにも挑戦する子がいた。 法人内学童クラブで行ったカロム大会では優勝した。 大掃除は2年生が中心となって、協力して隅々まできれいにしていた。	・クリスマス工作：4日～13日 ダンボールとマカロニでクリスマスリースを作った。 ・お楽しみ会：18日 ・昼食会：25日 子どもたちにアンケートを取り牛丼を食べた。 ・たまふくカップ(カロム)：26日 予選会を行い上位5名が参加した。 ・大掃除：27日
1月	校庭遊びでは鬼ごっこが流行していた。ドロケイだけでなく、増え鬼もよくやっていた。こぐま保育園児も校庭で遊んでおり、一緒に鬼ごっこをする姿もみられた。室内では3年生を中心にカロムをして遊んでいる子が多かった。 事前告知をせずに避難訓練を行ったが、子どもたちは瞬時に頭を守り、真剣に取り組んでいる様子がみられた。「びっくりした」「少し怖かった」という声が上がった。	・避難訓練：21日 地震を想定して告知なしで実施。
2月	風の為砂埃が舞ったりや花粉の飛散が始まったりして、室内で遊ぶ子が少し増えた。また乾燥のためグラウンドも滑りやすく、転んで擦り傷を作る子が増えた。 3年生は卒クラブに向けて会議をすることが増えた。お留守番ノートの作成やお祝い会の出し物についてなど話し合い、やる気に満ち溢れている様子だった。 骨折する事故があったが、すぐに本人の訴えがなく、職員の確認が遅れた。重大事故とはならなかったが、子どもたちには少しでも痛みがあるようなら必ず室内で職員に話すように伝えた。	・節分：3日 自分の治したいところを紙に書き願いを込めて投げた。 ・合同避難訓練：13日 永山学童クラブと合同で実施。 ・こぐま保育園との交流：18日日、20日 5歳児を保育園へ迎えに行き、校庭で一緒に遊んだ。
3月	寒さに負けず元気に外遊びをする子が多かった。ドロケイやサッカー、野球をして楽しんでいた。1年生を中心に保育園の子どもたちと交流し、やさしくお世話をしていた。 進級お祝い会では2年生が中心となって司会進行など準備を進め、クイズや出し物をして会を盛り上げていた。 進級お祝い会が終わった後は、2年生がグループのリーダーとなった。1年生も積極的に手伝い、進んで進行をしていた。 永山学童クラブより、カロムの対戦をしたいと申し出があった。12月の大会後、練習を重ねていた子どもたちが参加した。1年生も参加し、良い経験となった。 同じ法人の砧保育園に2,3年生6名が訪問し、コマの披露した。散歩や、掃除も一緒にした。電車で出かけ、小さい子の世話をするなど、いろいろな経験ができた。	・おだ学園保育園と交流：5日 年長児12名が遊びに来た。 ・進級お祝い会：12日 ・こぐま保育園と交流：13日 年長児と校庭でドロケイをした。 ・昼食会：24日 3年生のリクエストで豚汁を作った。 ・砧保育園訪問：26日

2024年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

正職員

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
1	正職員	防火管理者講習	消防庁	立川防災センター	5月27日・28日	防火防災に関する法令、消防計画等について
2	正職員	全体研修	多摩市児童青少年課	多摩市立教育センター	6月25日	災害時対応
3	正職員	中級研修	多摩市児童青少年課	市内学童クラブ	6月～	学担基礎編について
4	正職員	管理職研修	東社協	ZOOM	6月27・28日	管理職としての在り方
5	正職員 (有期職員)	たま研	多摩福祉会	法人内学童クラブ	7月～ 全3回	職員による自主的な研修
6	正職員	全体研修	多摩市児童青少年課	多摩市立教育センター	7月11日	発達の見立て
7	正職員	救急救命講習	多摩市	豊ヶ丘児童館	9月5日	救命講習・AED講習
8	正職員	全体研修	多摩市児童青少年課	ベルブ永山	10月16日	応急処置
9	正職員	アレルギー対応体制強化	東京都福祉保健財団	ZOOM	11月8日	食物アレルギーによる事故を防ぐために保育施設の管理者が行うこと
10	全職員	法人合研	法人研修委員会	こぐま保育園 しろくま保育園	11月9日	私たちが学びつづける理由
11	正職員	基礎研修	多摩市	法人内学童クラブ	11月20・25・ 28日	多摩市学童クラブ育成支援要領について
12	正職員	衛生推進者講習	厚生労働省	きゅりあん大井町	12月17日	衛生推進者に必要な知識を学ぶ
13	正職員	ぜん息・食物アレルギー 緊急時対応研修	東京都福祉保健財団	ベルサール秋葉原	12月20日	アナフィラキシーの基礎知識と緊急時対応の実際
14	正職員	放課後児童支援員資質向上研修	東京都	戸山サンライズ	1月20日	放課後児童支援員の資質向上のための研修
15	正職員	課内研修	児童青少年課	ベルブ永山	1月24日	子ども家庭支援センターについて
16	正職員	課内研修	児童青少年課	ベルブ永山	2月21日	応用行動分析について
17	全職員	島田巡回相談	島田療育センター	永山小学童クラブ	3月5日	2名の要配慮児の事例をあげながら育成について学ぶ

貝取学童クラブ 2024 年度事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：70 名
- (2) 育成年齢：6 歳～10 歳（小学校 1 年生～4 年生）
8 月一時入所は 6 年生まで
特別支援学校、特別支援学級に通う 5、6 年生は申請可、
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2024 年 4 月 1 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	18 名	19 名	16 名	9 名	0 名	0 名	62 名

- (5) 在籍児状況
 - ・ 学区外小学校 4 校からの利用者 8 名　うち、他学童の待機児童 4 名
 - ・ 要配慮児童 2024 年 4 月 1 日現在 8 名（個別加配：3 名　通常加配：5 名）
※ただし、年度途中に入退所、待機施設への異動、通級への変更等により人数の変動があった。年度末には 11 名（個別加配 3 名、通常加配 8 名）であった。
 - ・ 年度途中入所児童
7 月：1 名　8 月：1 名　9 月：1 名　3 月：1 名
 - ・ 年度途中退所児童（他施設への移動児童を含む）
10 月：4 名　11 月：2 名　12 月：2 名　1 月：2 名
※退所児童の多くは秋以降 4 年生が主だった。
 - ・ モアサービス利用　6 名（年度途中利用 2 名、辞退 5 名）
 - ・ アレルギー児童　2 名（うち 1 名抗アレルギー薬所持）
 - ・ 8 月一時入所児童　6 名

2. 職員状況

- (1) 正職員　4 名

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	3 名	4 名

※支援員のうち 1 名は、短時間正職員として勤務

(2) 有期契約職員 7 名

勤務時間	4 h × 週 4 日	4.5 h × 週 4 日	5 h × 週 3 日 7 h × 週 1 日	5.5 h × 週 3 日	5 h × 週 3 日	計
人数	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名 (事務員)	7 名

※ 年度途中 7 月から大学生アルバイト 1 名を雇用 3.5H×週 3 日ほど勤務

3. 2024 年度取り組んだこと

(1) 子どもたちが主体的な活動を大切にすることについて

- ① グループ内の活動や施設全体でおこなう行事において、子どもたちとの話し合いを大切にしてきた。そして、子どもたちがやってみたいと思うことをどのようにしたらできるかについては、職員間でもよく話し合いを重ねて実践してきた。施設内にとどまらず、ドッジボール大会で負けてしまった永山学童クラブの子どもがリベンジを申し込んできた際も双方の施設の職員で日程を調整し実現したこともあった。このような取り組みが子どもたちの達成感につながり自信をもって次の活動に取り組む原動力となっていた。
- ② 工作期間に関わらず、子どもたちが工作や折り紙をできる限り自由にできるようにした。作り方を教え合ったり作った物を使って遊んだりすることで交友関係が広がる様子が見られた。また、子ども同士で得意なことを認め合う機会にもなっていた。

(2) 卒クラブ後の子どもたちの生活を考えることについて

- ① 今年度も子どもたちに卒クラブ後の居場所の一つとして児童館を知ってもらうことや地域で子どもたち同士のつながりを持つことを目的として、前年度からおこなっている児童館との共催行事「のびのびドッチボール大会」を行った。昨年同様に貝取小学童クラブと貝取小放課後子ども教室の子どもたちや児童館と協力し、それぞれの施設を利用している児童に参加を呼び掛けた。各学校や各施設の予定などで実施日時の調整や試合時間に課題があったが、子どもたちにはこの行事が早くも定着してきた。子どもたちからは、楽しんだ様子で来年度も参加したいという発言があった。前年度はこの大会後児童館の利用者数が増えたということもあり、児童館とは今後もドッジボール大会をはじめ共催行事を考えていきたい。
- ② 子どもたちの様子で対人関係が上手くいかない事例を学校と共有することがあった。そこで、卒クラブ後の友だち関係を見据えて 3 年生ひとりひとりに施設長面談をおこない、友だちについての悩みや課題を聞き取り一緒に考える機会を設けた。また、そこで出てきた課題は職員や学校の担任とも共有し子どもたちの関係

作りを支援することにつなげた。

- ③ 不審者情報も多いことや、卒クラブに向けて子どもたちが自分の身を守ることができるようにと考えて、外部から講師を呼び交通安全教室をおこなったり、施設独自で防犯教室やお留守番講座を実施したりした。また、学校や家庭により放課後の過ごし方などのルールが違うことを理解するように子どもたちだけでなく、保護者にも3年生保護者会などを通じて確認した。

(3) 保護者理解と保護者とともに子どもの成長の支援に努めたことについて

- ① 子ども同士のトラブルがあった時に保護者同士の関係が悪くならないように双方の間に入って状況の理解とお互いの子育ての悩みを分かち合えるように話し合いをおこなうことが何回かあった。その都度、丁寧に時間をかけ、じっくりと双方の想いを聞き取り伝え合えるようにした。その結果、大きくこじれた事例はなく、中には、暴力を振るわれた側の保護者で（暴力行為は許したわけではないが）手を出してしまった子どもの保護者の子育ての大変さを理解して困ったときに協力しようと言ってくださった方もいた。
- ② 家庭において様々な問題が起きた時に学校と連携したり関連機関につないだりして子どもの保護や保護者の状況を汲み取って支援することに努めた。
- ③ 面談だけでなく折をみて保護者にお子さんの成長の様子や課題を伝え、子どもの成長とともに喜び、保護者や子どもの相談に応じる姿勢を大切にしてきた。結果、市の利用者アンケートでは、学童クラブでの様子が分かりやすいこと、および、職員に気軽に話しかけ相談に応じてもらうことについて高い評価を得ることができた。

(4) 職場環境を整えることについて

- ① 事務作業については、昨年度より工夫をしたホワイトボードに各自の取り組んでいることや全体で取り組むことを書いて見える化したことで協力しながら作業を終えることができていた。
- ② 事務連絡において複数校から登所する子どもの登所時間や出欠の確認の遅れや漏れがあった。再発防止のためにホワイトボードを使用した確認方法を考え、それを複数の職員で確認するようにした。
- ③ 職員会議などにおいて、どの職員も日頃の育成や行事で気づいたことを発言し意見を交換しながら協力して取り組むことのできる職員集団ができていく。この点是有期契約職員からも意見や相談がしやすいとの発言があった。
- ④ 新人職員と2年目職員と子育て中のベテラン職員という職員体制において、保護者対応や怪我や子ども同士のトラブル時、また、行事の準備の対応に時間外労働となることが多く、2024年度の最大の課題となっていた。次年度は、職員の経験もできたところで多少はトラブル対応もスムーズにできると思われるが、更に事務作業

の効率化や次項にも記しているように行事の内容や取り組み方を工夫して時間外労働を減らすように努めなくてはならない。併せて、有休の取得も推進したい。

(5) 育成や行事の取り組みについて

- ① 発達支援について様々な勉強をしてきた職員が入職し、その職員の知識が要配慮児童をはじめ児童の育成方法や環境整備に活かされ、他の職員にも勉強となっている。しかし、ひとりひとりの児童の様子を観察し分析した上で育成方法を考えるには事務作業や行事の準備におわれて十分な時間が取れないという課題があった。次年度は時間外労働の問題とともにどのように必要な時間を設けるかを考えていきたい。
- ② 行事について どの行事にも個々に目的をしっかりと設定して子どもの意見を尊重しながら主体的な活動ができるようにした。子どもたちも楽しみながら参加していることも多かった。しかし、小さなものも含めて行事が多く、日頃の育成の上にあるはずの行事ではなくなり、時々、行事の準備等のために育成がおろそかになり子どもの様子を見るべきところを見ていないこともあった。また、残業にもつながることもあった。年度末に職員間で行事について本来の目的を確認し、内容と準備や実施時期を見直した。

(6) その他

多摩市より貝取学童クラブの施設が児童館となる計画があり、それに伴い、令和8年度に学童クラブが豊ヶ丘小学校の校舎内に移転することが示された。法人から市に対して利用者への説明をすることや他の学童クラブと同水準の環境を整えてもらうことなどの要望を伝えた。今後も法人の経営会議で検討しながら市に対して子どもと保護者が安心して過ごせる施設となるように働きかけていく。

4. 子どものようす（詳細は別紙参照）

- ① 2024年度も職員の異動に伴い新しい職員に担当が代わってしまったグループがあり子どもたちの様子が心配されたが、その職員が丁寧に育成に取り組んだのですぐに子どもたちは慣れて良い関係を築く様子が見られた。
- ② 新入所児に昨年度から在籍していた児童が様々な学童クラブの約束事や一日の流れを教えたり遊びを通じて友だち関係を構築したりする様子が見られた。
- ③ ドッジボールやドロケイなどのルールや勝敗を巡って子どもたちが揉めることが日常よく起こっている。その都度職員が間に入って話を整理することもあった。一方で、経験を積んでいくうちにそれぞれの成長にあわせて子どもたち自身が問題を解決し、どうしたら楽しく遊べるかを考える姿勢が見られるようになっていた。
- ④ 行事等で子どもたちのやりたいことを尊重するようにし主体的な活動を大事にし

てきた。

秋の親子交流会「おみせやさん」で店を担当する３年生の中にひとりだけ他の子とは異なる店をやりたいと意見を曲げず職員が悩んだことがあった。その子どもに「４年生に協力をお願いしたらどうか」と促したところ、相談を受けた上級生が快く手伝ってくれた。結果、その子のやりたいお店が実現できた。その後の店ごとの反省会で、手伝ってくれた４年生から「ひとりではできないことがあるよ」との発言があり、その言葉を受けたその３年生からは自然に「手伝ってくれてありがとう」という言葉が出ていた。大人だけの力ではできないことも子どもの力でできること、育ち合うことがわかる事例だった。

他のお店では、学校や学童に行くことが難しい子どもたちもやりたいことを目標に頑張る姿があった。ただ、「頑張らないと」と思い過ぎてしまう児童も中にはおり、その気持ちを調整できるようにすることなど課題もみられた。

- ⑤ 学校や放課後の時間に在籍児童と卒クラブした児童を含めた子どもたちの中でいじめがあった。学校や保護者とその情報を共有し連携して対応した。また、３年生の卒クラブ遠足においても班やロマンスカーの席決めの際にどうしてもひとりになってしまう子どもが出て話し合いを何度も重ねることがあった。このようなことを受けて同じようなことが今後起こらないよう、互いの心や体を大切にする「こころと体の講座」を学年に合わせておこなったり、子どもたちとともに友だち関係などの課題を考え合う学年会議などをおこなったりした。

5. グループ担当制について

- ① 今年度も１つのグループで担当する正職員が異動し新人職員が担当することになった。昨年度同様に以前から関わる有期契約職員が新入職員を支え、協力しながら育成に関わった。
- ② 職員間でそれぞれのグループの子どもの様子や取り組みについて共有し相談しながら育成にあたっていた。
- ③ 各グループでの取り組みについて、それぞれのグループで職員が子どもの様子をよく見て考えながら育成に取り組んでいた。成果もそれぞれ出ているが、今後も課題を検討しながら引き続き少人数での育成で子どもたちの成長の支援等をおこなっていく。各グループの取り組みの詳細は以下の通り。
 - 新人職員が担当することになった「オレンジグループ」では、職員が子どもの意見をよく聞きながら当番の回し方を決めたり、子どもたちがそれぞれ過ごしやすい座席の工夫をしたりしていた。子どもの状況を分析しどのように育成するかを丁寧に考え有期職員と協力しながら育成にあたっていた。
 - 他学区の待機児童を含む「リアルグループ」では、ベテラン職員が学校の異な

る子どもたちが互いに協力し合いながら生活や遊びを通じてつながり合えるように努めた。また、おとなの手伝いがなくとも子どもだけでグループの運営ができるよう、上級生の子どもにリーダーとしての役割やおやつや帰りの会の進行を任せることが多かった。その中で「〇〇をやってみたい」と子どもたちに自主的に行動しようという気持ちが育ってきている。

- 正職員 2 年目の職員が引き続き担当する「イーグルスグループ」では、子どもたちの中で頻繁に起きるトラブルや課題について、有期職員と共に考えたペープサート（人形劇）で子どもたちにわかりやすく示し、子どもたちと一緒に考える試みをおこなった。また、声の大きさメーターを作成したり、子どもによってはトークンを取り入れたりと細やかな育成をおこなったことで子どもたちが少しずつ自分で考えながら行動できるようになっている。

6. 保護者との関係

- ① 定期的な面談以外でも家庭状況や卒クラブした兄弟児童を含む子育てや不登校気味の児童のことなど日頃から保護者の様々な相談や悩みに細やかに応じた結果、前述したように多摩市の利用者アンケートにおいて保護者の気持ちに寄り添う姿勢に高評価を得ていた。
- ② 父母会とは共催行事をおこなったり役員同士の引き継ぎをうまくできるように協力したりした。
- ③ 日々の様子は連絡帳やお迎え時に直接伝えたり、保護者会や行事の折にスライドで見せたりしてお子さんの様子や学童クラブの活動の理解に努めた。

7. 環境・衛生面について

- ① おもちゃの片づけについて課題があった。職員間でどのようにしたら子どもたちが片付けやすいか話し合いを重ね、時間帯により使用できるものに印を付けたりおもちゃのしまう場所に写真を貼るなど工夫した。次年度も子どもたちの様子を検証し引き続き環境の整備を考えていく。
- ② 子どもが怪我をした状況によって、職員に共有し危険個所の改善やその箇所へ子どもが立ち入らないよう表示をするなど再発防止に努めた。
- ③ 庭の樹木の伐採、剪定について市と相談して少しずつ進めているがまだ十分ではないので引き続き危険のないように市にお願いを続けていく。
- ④ 感染症の情報を学校等の機関と共有し子どもたちには手洗い等の呼びかけをおこなった。
- ⑤ 学区外の小学校から登所する児童が熱中症になった。学校や保護者と共有し子

もに水分補給の促しや具合が悪くなった時の対応を確認した。

8. 関係機関や地域との関係

- ① 学校や児童館と子どもたちや家庭状況を共有し、それぞれの機関において子どもたちや保護者の支援に努めた。殊に学校の先生方とは、前述した卒クラブした児童を含めた子どものいじめや家庭で起きた様々な問題において協力して子どもたちや保護者の心のケアや支援に努めた。
- ② 児童館との共催行事のドッジボール大会が、早くも子どもたちに根付いてきた。また、昨年度在籍していた児童にも学童クラブの職員と久しぶりに接し近況を伝える機会にもなっていた。
- ③ 子ども家庭センターとは、必要に応じて家庭状況を細かく共有し家庭や子どもの支援をおこなってきた。
- ④ 法人内の学童クラブの職員間で企画し、遊びを通じて交流を行った。そのうち、カラム大会については残念ながら体調不良者が多く出てしまい今回は参加を見送った。
- ⑤ 多摩市社会福祉協議会地域福祉推進課まちづくり担当の方からのお誘いで、「ネットワーク貝取・豊ヶ丘きずな」の活動における地域の子どもの理解というテーマのディスカッションにパネラーとして参加した。豊ヶ丘児童館館長、貝取小学学童クラブ施設長とともに施設の現状や子どもと保護者と接する中で感じることや課題、地域に求めることについて話をした。これをきっかけに今後も地域の方と子どもたちや保護者が繋がり、お互いを理解しながら助け合える関係の構築に関わるとよいと考えている。

9. 育成計画について

- ① 多摩市の支援目標と法人の「子どもを真ん中に」という姿勢などをもとに具体的な支援目標や計画を考え、保護者会などの機会に説明をし保護者に理解を得た。
- ② 年単位や月単位、あるいは、学年ごとの育成目標や計画は大きく変えず、継続的に子どもたちの成長を促すようにしている。その中でも昨年度の事業報告で課題とした「月目標を子どもたちにも理解できるようにする」点については、グループ内で子どもたちが目標を書いて掲示するなど工夫をした。また、年度末には子どもたちが各自でがんばったことや新しい学年で目標としたいことを書き、それをみんなの見えるところに貼り出した。
- ③ 月案会議において、全職員で育成目標を確認しながら行事や日々の育成の課題、要配慮児童の目標や育成方法について検討した。

- ④ 行事について、子どもたちの意見を尊重し行うことはできた。しかし、前述したようにそれぞれの目標と日々の育成との関係などを照らし合わせて職員がじっくりと考え振り返ったりするには余裕がなく、まだ不十分な点が多かった。次年度は行事の取り組み方を課題としたい。
- ⑤ 避難訓練、防犯訓練等を毎月行ってきた。総合防災訓練は年に2回、多摩市全学童クラブでおこなう引き渡し訓練と施設独自の貝取交流センターへの避難訓練をおこなった。防犯訓練の一環として、地域の不審者情報が多く寄せられた際には、急遽、防犯教室をおこない不審者への対応を子どもたちに伝えた。具体的な不審者侵入の訓練については、子どもの中に過敏に恐怖を感じる子どももいたため実演的な訓練はおこなわず不審者が来た時の合言葉と逃げる方向などを確認するにとどめた。

10. 職場環境、職員の資質向上等について

- ① 有期契約職員を含めた日々の打ち合わせや職員会議等では、互いの意見を述べ合いやすい環境は整っている。また、昨年度末に正職員間で課題とされていた、行事や育成に関しての共有についても、正職員全員がお互いに意見を述べ、その意見を尊重しながら考え合うということができてきた。
- ② 「引き継ぎノート」を使用し、有期契約職員を含め全職員が休んだ日の出来事や情報を把握し育成の姿勢や方法などを共有するシステムが定着した。一方で、日々の記録を個々の児童の台帳にどのようにまとめるかについてはまだ課題が多く、全職員で検討を続けている。
- ③ 先の項目でも記したが、2024年度は正職員の時間外労働が一番の課題であった。止むを得ない保護者対応が多かったこともあったが、時間外労働を減らすことを考えないとならない。互いの仕事の進捗状況がわかる工夫と職員間の協力についてはできてきたが、年度末に職員で検討した行事の在り方や事務仕事の効率化などを実践し働き方を変えていきたい。
- ④ 日頃、施設長に意見や相談をしやすいうように努めているが、個々の職員の面談に前年度ほど充分時間を取っておこなうことができなかった。次年度は面談の時期を考えて職員の状況を細やかに把握するよう時間を確保する。
- ⑤ 研修の案内や業務上知っておいてほしいことの表示をして職員に周知した。また、各々の職員は様々な学びの姿勢を持っていた。しかし、前年度に比べ外部の研修を受講する機会が少なかった。受講研修の詳細は別紙参照。
- ⑥ 正職員一名が保育士資格を、もう一名が特別支援教育士(S.E.N.S)を取得した。

	子どもたち・遊びの様子	行事	
4月	はじめは緊張していた新入所の子どもたちであったが、一か月が経過してそれぞれが楽しめる遊びを見つけている。外遊びでは、野球やドッジボール、ドローケイ、ホッピングなどが人気だった。友達の輪も広がってきたことで「ドッジボールやろ〜」の掛け声に学年関係なく沢山の子どもが集まって遊ぶ様子が見られる。また、3年生がドッジボールに参加した子ども全体に声をかけながらチーム決を進めたり、そこに4年生がアドバイスを送りながらチームのバランスを考えたりと上級生の子どもたちがリーダーとして活躍する場面もみられた。 室内遊びでは、ポケモンカードやサッカー盤、迷路ボールが人気であり、特に「迷路ボール」では、子どもたちがホワイトボードに順番を書き「次はだれの番？」と子ども同士で声を掛けあい仲良く使えるように工夫していた。 生活の場面では、昨年からの在籍している子どもが、困っている子に対し、優しく手助けする姿が見られており、グループ内でも率先して係などの仕事を行うことで、新入生たちの良い見本となっている。	10日(水) 避難訓練 地震発生時の身の守り方として「ダンゴムシのポーズ」をとり、身を守る練習を行った。また、発災時はロッカーや窓ガラスから離れること、机の下に頭や身体を入れて身の安全を確保することを伝えた。 17日(水) 新入生歓迎会 実行委員会の子どもたちの進行で、新入所の子が自己紹介を行い、その後、グループ対抗のドッジボールとリレーを行った。ドッジボールでは、普段、消極的な子たちも率先してボールを投げる姿が見られた。リレーでは「がんばれ!」「もうちょっとだ!」と仲間を温かく応援する様子もあった。 24日(水) 誕生会 4月に誕生日を迎える6名のお祝いをグループでおこない、おやつにパフェを食べた。 26日(金) 第一回保護者会 54世帯中47世帯の参加があった。当日は父母会総会も開催され、今年度の役員決めも行われた。	
5月	新年度の生活に戸惑っていた上級生たちも、5月に入り「〇〇やろうぜー!やる人!」と大きな声で音頭を取り、みんな元気いっぱい遊んでいた。学童クラブで流行っている遊びは迷路ボール、ドッジボール、ドローケイ。雨で園庭に出られない日は2、3年生が中心となり、工作で迷路ボールなどを作って遊んでいた。上手にできた大作は「他の子どもにも遊んでみてほしいな」「こんな難しいのできる子いるかな?」と作った子たちから「みんなで遊んでほしい」と意見が出たため「子どもの手作りおもちゃコーナー」を設置した。その結果、手作りの迷路ボールは大人気となり、子どもたちが遊んでいる。 ドッジボール、ドローケイなどの集団遊びは子どもたちが自分たちでルールを考えて遊んでいる。意見が衝突しケンカになり、場合によって職員が話を整理することもあるが、子どもたち同士で話し合い、解決していけるよう促している。話し合いの中では上級生たちがリーダーとなって意見を出し合っており、その姿は頼もしい。	8日(水) 避難訓練、引き渡し訓練 避難訓練では「地震です」の声と共に子どもたちはダンゴムシのポーズで身を守っていた。その後、外での整列・点呼を素早く行い、引き渡し訓練時も職員の話を聞き、静かに迎えを待っていた。子どもだけでなく職員も災害時を想定して取り組めたことで、訓練の大事さを再確認できる機会となった。 22日(水) 誕生会 対象児童が7人だった。 おやつはフルーツサンドを食べて、掃りの会で誕生会を行った。とても好評のおやつだった。 22日(水) 心とからだの講座 子どもたちが自分の体を大事にすること、相手の体や気持ちも大事にすることを自分たちで考えるきっかけとして心とからだの講座を行った。 2部制で行い、1部では全体でNHKで放送されている番組「アイラブミー」から「なんでパンツをはいてるんだろう?」「くすぐられるのが、じつはキライ?」の2話を見た。 2部では各学年に分かれ、ビデオの内容を振り返り日常生活に置き換え、学年にあった内容を話した。	
6月	ドッジボールの中で小さなトラブルが相次いだ。考え方や楽しみ方の違いから「最近のドッジボール、楽しくないんだ」と子どもから話があった。職員が間に入り話をしどのようなことが楽しくないのか、どのようにすれば楽しくなるのか子どもたちの考えを整理した。以降「みんなで楽しく遊ぶ」ことを目標に言動を考えながらドッジボールを行っている。 工作をする子が多かった。作ったものを使い戦いごっこをする子が多く、中でも上級生が下級生に頼まれたものを作ることで良い関係が出来てきており、みんなで楽しそうに過ごす姿がよく見られた。 登所中の不審者への対応で2回110番通報をした。2回とも別件での通報で不審者情報が多かったため、防犯安全教室を行った。 在籍児を含め学校でいじめの問題が起きた。今後同様のことが起きないように抑止のために3年生を対象に施設長との個人面談を行った。子ども同士の関わり合いやそれぞれの思いを聞き、どうすれば友だちとの関係がうまくいかアドバイスした。あわせて職員と内容を共有し、子どもたちが適切なコミュニケーションをとれるよう支援につなげることにした。	8日(土) 親子交流会 初めて豊ヶ丘小学校体育館を借りて「運動会」をテーマに親子交流会を行った。在籍児、保護者、兄弟を含め139名の参加で玉入れ、綱引き、借り人競争、ドッジボールを楽しんだ。 初めての催しだったので開催後アンケートを取った。普段の子どもの様子を見てもらおうと共に、地域の保護者同士の交流の場となり良かったという意見が多く出た。アンケート結果を来年度の行事計画の際に活かしていきたい。 12日(水) 防犯安全教室 不審者情報が相次いだため防犯安全教室を実施した。「防犯クイズ」を行った後、防犯の標語である「いかのおすし!」について説明した。また、最近学童クラブ後遊びに行く子が多いため、遊びに行く際は「だれと」「どこで」「何をして遊ぶか」「何時に帰るか」をお家の人に伝えてから出かけよう声掛けを行った。 26日(水) 誕生会 6月生まれの子の誕生会を行った。おやつにプリンアラモードを提供した。	
7月	7月に入り、新しいおもちゃを出した。 壊れて遊ぶことができなかった迷路ボールを新たに準備したことで、子どもたちは遊ぶ順番を決めながら楽しんでいた。その他、新しい人生ゲームやカードゲームも登場したため、ルールを確認しながら遊ぶ様子が見られた。暑さ指数が高く、外に出ることができない日が多かったが、夕方、少しだけ暑さが落ち着いた時間帯に虫取りや外でのコマ遊びを行った。 保護者の方から譲り受けたカトムシの飼育を始めた。 夕方の時間帯に希望者がゼリーの交換や霧吹きなど世話をを行った。 グリーンカーテンとしてゴーヤを育てている。 子どもたちが水やりの役割を交代で担っている。 7/22から夏休み育成が始まり、翌週の7/30には今年度初の水遊びを行った。水鉄砲やじょうろを使って全身から水を浴びて楽しむ様子が見られた。	10日(水) 避難訓練 地震を想定してダンゴムシのポーズで身を守り、その後、火災が発生した場合の避難経路を確認した。ハンカチで口をおさえる、姿勢を低くして外に逃げるといった基本の確認を行った。 17日(水) 誕生会 7月生まれの子の誕生会を行った。対象の児童は5名であった。おやつにピザとポテトチップス、ジュースを提供した。 19日(金) 昼食会 小学校の終業式で児童の登所が早い日であった。学童クラブで昼食を準備し、コロッケカレーを提供した。 22日(月)~夏休み育成開始 23日(火)~夏の工作週間 夏工作としてオープン粘土を使った工作を行った。小皿や箸置き、置物などそれぞれが思い思いの作品を作った。	当月入所 1名

	子どもたち・遊びの様子	行事	
8月	熱中症指数が高く外に出れない日が続いた。室内では、プラバン、ビーズやミサンガを使ったアクセサリー作り、広告誌を使った工作など、時間をかけ物づくりを楽しむ子が多かった。その中で片付けが出来ず、棚やロッカーが整頓できない・紛失物が出るなどが相次いだ。「使ったものを元の場所に戻す」「おもちゃや備品は学童クラブの物、他の人が気持ちよく使えるよう雑な扱いほしない」ということを全体で話し、児童全員で紛失したおもちゃを探し、棚やロッカーの整頓を行った。以降は子どもの方から「ここにおもちゃが落ちていたよ。」「これ、片づけておくれ。」「自主的に片付けを行う子が増えた。 暑さが落ち着いた日には数回、水遊びを行った。着衣で水鉄砲で水を掛け合ったり、水風船を投げ合ったりした。洋服が絞れるくらいびしょぬれになりとても楽しそうな姿が見られた。	2日(金) 交通安全教室 自転車の乗り方と交通ルールについて講義してもらった。 8日(木) 避難訓練 朝延長の職員が少ない時間の地震を想定し、訓練を行った。 20日(火) ポケモンカード大会 『対戦する上でのマナー知ること』『あまり関わったことない子どもたちの交流の機会になること』を目的とし、17名の児童が参加した。 21日(水) 誕生会 唐揚げ・たこ焼き・餃子・ウィンナー・チョコクラッカーをバイキング形式で食べる誕生会を行った。初めての形式に子どもたちは嬉しそうな様子だった。 23日(木) 夏休み映画会 有志の実行委員で企画・運営を行った。子どもたちで意見を出し合い、チケットを作成する、半券をおやつと交換する、おやつのお宝クイズを2種類のフレイバーから選べる等参加者に楽しんでもらえるよう工夫をしていた。	8月 一時入所 6名 当月入所 1名
9月	月初めは残暑が厳しく外遊びを控えていたが、後半ようやく暑さが落ち着きはじめ、庭で遊べる日が多くなった。 子どもたちは「やったー！外でドッジボールできる！」「虫をさがすぞ！」など外でしか出来ない遊びを楽しんでいた。外遊びが久々なこともあり、職員から「準備体操をしてね」と声をかけると2、3年生が率先して「いち、に、さん、し」と大きな声で他の子どもたちをまとめながら体操をしており、とても頼もしい様子が見られた。 室内では工作やカラムが流行っており、カラムは子ども同士で時間を決めて順番に遊んでいた。工作では剣を作る子どもが多く、細長い剣、太い剣、組み合わせて剣にも銃にもなるなど想像力豊かな作品が作られていた。 3、4年生はおみせやさんの準備を行っており、各店舗のルール決めやポスター作りなど意見を出し合い、子ども同士話し合いながら進めていた。ときには意見の食い違いや遊びたいという気持ちから集中できない様子も見られたが、子どもたちは投げ出すことなく最後まで準備を行っていた。	11日(水) 総合防災訓練 地震と火災を想定した訓練を行い、貝取交流センターまで避難をした。子どもは総勢44名、職員8名の参加だった。 18日(水) 誕生会 9月生まれの子の誕生会を行った。おやつにハンバーガーを提供した。	当月入所 1名
10月	5日(土)に親子交流会としておみせやさんを行った。打ち合わせや準備の段階から3年生は話し合いを続け、協力し合いながら頑張る様子を見せていた。当日は各店舗で大勢のお客に対応することができていた。 日常の様子としてはドッジボールやドロケイが人気で、いつも多くの子どもたちが集まって盛り上がりを見せている。来月1月に行われる「のびのびドッジボール大会」の告知も行われ、まもなくエントリー期間、練習期間に入ることによって子どもたちの気持ちも高まってきている様子である。室内遊びでは、お絵描きやうつし絵、塗り絵などのほか、ビタグラスという磁石でパーツがくっつくおもちゃが人気となっている。雨で外に出られない日にはビーズ工作のエリアや椅子取りゲームのエリアを設けて遊びを展開した。 また、保護者の方や地域の方からおもちゃの寄付いただき、ポケモンカード、ベイブレード、シルバニアファミリーが加わった。ポケモンカードは対戦が始まるとあちこちの机で盛り上がりを見せていた。ベイブレードはやりたい子が多くいたことから、ホワイトボードに名前を書き順番待ちをしながらバトルを行った。シルバニアファミリーは新しく加わった人形を見て「可愛い～」「これはうちにもあるよ！」と話しながらごっこ遊びを楽しんでいた。	5日(土) おみせやさん 射的屋、スーパー緑日、ポテト屋、おばけやしき、父母会店舗のフルーツポンチ屋の5店舗を出店し、総勢164人の参加があった。雨により室内での開催となったが、父母会役員や保護者ボランティアの協力も得られ、盛況に終えることができた。 10日(木) 避難訓練 育成中に地震が発生したことを想定し訓練を行った。室内で行った講評では「家から学校」「学校から学童」「家から学童」など道中で地震に遭った場合どのように対応するかという話をした。壁や看板など危険なものからは離れ、その場所から学校が近ければ学校へ、学童が近ければ学童に行き、大人に助けを求めると確認した。 23日(水) 誕生会 10月生まれの子どもたちをお祝いする誕生会を行った。おやつにはパンケーキを提供した。バナナやアイスクリーム、生クリーム、フルーツの缶詰などをトッピングし、チョコレートシロップまたはメープルシロップの好きな方をかけることができるようにした。	当月末 退所4名
11月	11月は天気のいい日が多く、園庭に出て遊べる日が多かった。子どもたちは元気いっぱい缶蹴りやドロケイなどの遊びで園庭を走り回っていた。缶蹴りでは職員の呼びかけから子どもたちがルールを考え、お互いに意見を出し合って遊んでいる。子ども同士、意見が衝突することもあるが、お互いの意見を知ることで相手の気持ちを知り、話し合う姿がある。 1月に児童館共催行事のドッジボール大会があり、昨年も学童クラブとして参加したことから、子どもたちはドッジボールの練習を頑張る様子が見られた。 室内での遊びは保護者の方や地域の方から寄付のあったポケモンカードやベイブレードで遊ぶ子どもが多く、ポケモンカードは新しいカードが、子どもたちに好評。ベイブレードは子ども同士取り合いにならないよう自分たちで順番をホワイトボードに書いて順番を守って遊んでいる。 その他にも学童クラブ内の壁面装飾作成のお手伝い、ピアノ演奏など子どもたちは学童クラブでの生活を楽しむ様子があった。	11日(月) 避難訓練(不審者対応) 施設に不審者が入ってきたことを想定した訓練を行った。不審者が施設内に入った段階で伝えられる合言葉の確認などを行った。 20日(水) 誕生会 11月生まれの子どもたちをお祝いする誕生会を行った。おやつでは誕生日の子どもの子どもが希望したバウムとポテトチップスを提供した。	当月末 退所2名

	子どもたち・遊びの様子	行事	
12月	外遊びではドッジボールや大縄跳び、ホッピングなどをして遊ぶ児童が多かった。特にドッジボールは1月の大会に向けてのエントリーやメンバーの発表があったことからモチベーション高く取り組んでいた。 一方、室内ではアスレチックランドゲームやベイベレードなどが人気を見せていた。時にトラブルが発生することもあったが、ホワイトボードに順番を書いたり、話し合いをしてお互いの気持ちを確かめ合いながら遊びを進めていた。 また、12月は行事が数多くあったことから、それぞれの行事に関わる学年は準備で忙しく過ごした一か月であった。3年生は、遠足に向けて会議を繰り返し行い、班決め、ロマンスカーの席決めに時間をかけながら話し合いを進めた。「仲の良い友達と一緒に良い」「ルートはこのように回りたい」など様々な思いがある中で葛藤を繰り返し、折り合いをつける練習をしながら当日を迎えた。	14日(土) 3年生遠足 今年度の3年生遠足として「新江ノ島水族館」を訪れた。当日は班ごとに水槽やイルカショー、クラゲショーなどを回っていたが、普段あまり関わりを持っていなかった子であっても声をかけあいながら懸命に班をまとめようとする姿も見られた。遠足後は各班で話し合いを行い、良かった点のほか、お金の管理や友達とのコミュニケーションなど、それぞれの課題についても振り返りを行った。 18日(水) 誕生会 12月生まれの子どもたちをお祝いする誕生会を行った。 25日(水) 昼食会 のりたまふりかけのかかったご飯のほか、唐揚げ、ウインナー、ポテト、ブロッコリー、たまごスープを提供し、子どもたちは満足そうな表情を見せていた。 25日(水) おたのしみ会 2年生の有志で実行委員を募り、運営を行った。3択クイズの出題を行い、おやつにはシュークリームを食べた。	当月末 退所 2名
1月	年度末から続いていた感染症の対策として子どもたちには手洗いの徹底や、こまめな水分補給を呼びかけた。月の中頃には感染症の報告も減り、徐々に落ち着きを見せている。 年始はドッジボール大会に向けて懸命に練習に励む児童が多かった。大会開催後も、変わらずドッジボールに参加する児童は多く、今まで参加していなかった児童も一緒に楽しんでいる姿が見られている。また、その中で以前はなかった暴言や煽り行為などが目立ってきている為、職員が話をすることが増えた。 庭での遊びの中で、ドッジボール、野球、フリスビー、バドミントン、缶蹴り、鬼ごっこ遊びが乱立することが度々あり、職員が場所を成約したり、遊びをまとめることが多くあった。 レストランおやつを再開した。こどもたちは「好きな時間に食べれるの?」「グループじゃない子と食べても良いの?」と普段との違いに嬉しそうな様子だった。	7日(火) 第二回 のびのびドッジボール大会 児童館共催のドッジボール大会を行った。大会に向け毎日子どもたちは優勝に向かって懸命にドッジボールに取り組む姿が見られていた。結果は5位となったが、上級生相手に健闘していた。今年度は試合終了後に「フリー試合」という自由にドッジボールを楽しむ時間を設けた。在籍児や卒クラブ生、学年や学校を越え楽しそうに遊んでいる子どもたちの姿があった。今年度参加児童は去年度より引き続き参加している児童が多く、顔見知りが増えたことと前年度よりも交流の深い大会となった。子どもたちからも「来年は絶対に勝ちたい!」「次はライバルになって帰ってくるからな」と次年度開催を楽しみにしている声が多く見られた。 18日(土) 冬時間降所終了 22日(水) 誕生会 30日(水) お留守番講座 学年ごとにわかれ、放課後の生活について子どもたちと話をし、お留守番ノートに沿って、放課後の生活を想像したり、各家庭のルールを発表し家庭での考え方の違いを確認した。	当月末 退所 2名
2月	今月も、庭では沢山の子どもたちが元気に遊んでいた。中でも5日の永山学童クラブとのドッジボール交流会にむけて一生懸命ドッジボールの練習をしている子が多かった。また、交流会後には普段参加していなかった子も積極的にドッジボールに参加するようになった。 遊びは3年生を中心に良い声掛けが増え、トラブルが起きると子ども同士で話し合い、遊びを展開している。またドローケイでは2年生を中心に進めていることが多く、一生懸命音頭を取り、人数や力量に合わせたチーム分けを考えている姿が見られている。その中で1年生がタスキやタイマーの準備をする等、次年度に向けて「みんなで楽しく遊ぶにはどうすべきか」ということを考える子が増えてきている。	3日(月)～ 工作週間 オリジナルのクリアファイル制作を行った。子どもたちは好きなイラストを油性ペンでなぞり、細かいところまで一生懸命描き込みをしていた。 5日(水) 永山学童クラブとのドッジボール交流会 選抜メンバーでの試合・混合試合・フリー試合と様々な形でドッジボールを行い交流をした。選抜以外の子どもも、フリー試合に参加しており、大いに盛り上がりつつあった。大人を介さずとも自然と自己紹介や、ボールの譲り合いなど交流している姿があり子どもたちからは「また一緒に遊びたい!」という声があがった。 13日(木) 避難訓練 地震を想定した訓練を行った。 19日(水) 誕生会 誕生会としておやつ「ハニーバタートースト」の提供を行った。初めて提供したおやつだったが子どもたちからは概ね好評だった。	
3月	年度末となり、子どもたちは自分たちで遊びを考え、実行する様子が見られた。ドッジボールやドローケイでチームの強さのバランスを考えたり、参加する子全員が楽しめる方法を子ども同士で話し合っていた。3月の最終日には卒クラブする子どもたちのやりたい遊びとして、職員を含め全員でドローケイとドッジボールを行った。3月は多くの行事があり、行事に向けてリハーサルや準備をしっかりと行う様子が見られた。 各グループでは段々と活動の中心が3年生から2年生へと変わった。また、子どもたちが4月になったら新しく入所した子たちに対して「ドッジボールの投げ方を教えてあげたい!」「困っていたら助ける!」などとの思いを話し張り切る様子が見られた。	1日(土) 卒クラブ式 3年生15名。保護者、来賓、職員を含めて54名の参加。 第一部では卒クラブ証書授与と子どもたちから4年生になったら頑張りたいことの宣言を行った。第二部との間に大人対子どもでドッジボールを行い、普段大勢の大人たちと遊ぶことない子どもたちは生き生きとした表情でドッジボールを楽しんでいた。第二部では父母会が用意したハンバーガーを友だちや保護者と話しながら食事をし、学童クラブで作成した3年間を振り返るスライドショーを鑑賞した。 12日(水) 進級お祝い会 3月12日(水) 各自、今年度頑張ったことを振り返り次年度の目標を考えて書いた。それを出来る子は発表した。その後はクイズ等を楽しみ、おやつは自由席で食べた。 24日(月) 父母会主催昼食会 父母会主催で昼食会を行った。コロッケカレーを父母と職員で作製、総勢47名の子どもが参加し美味しく食べた。 26日(水) こころから講座 進級に向けて学年ごとに分かれて講座を行った。子どもたちに職員から投げかけ、自分たちの課題を見つめて今後どのように取り組んでいくか話し合った。	当月入所 1名

正職員						
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
1	正職員	学担	多摩市	教育センター	6月25日	防災
2	正職員	たま研	学童クラブ職員	永山小学童クラブ	7月2日	法人の歩みについて 講師：法人堀内理事
3	正職員	学担	多摩市	教育センター	7月11日	発達見立て
4	施設長	課内研修	多摩市	zoom	7月12日	施設長向け 施設の安全管理について
5	施設長	経営会議一日研修	多摩福祉会	法人本部	7月13日	職員が活き活きと働き続けられる施設と法人の運営について 講師：新瑞福社会石井由紀理事長
6	正職員	普通救命講習	多摩市	豊ヶ丘児童館	9月6日	心肺蘇生法・AEDの使用法他
7	正職員	課内研修	多摩市	ベルブ永山	9月13日	性について
8	正職員	島田療育センター1.2年目研修	多摩市	多摩市役所西会議室	9月20日	OTの視点による課題分析
9	正職員	中堅層研修	法人研修委員会	砧保育園	9月21日	しろくま園長・上北沢園長・学童統括施設長からの話を受けてのちシンポジウム形式の研修
10	正職員	課内研修	多摩市	zoom	10月4日	職員向け 施設安全管理について
11	全職員	島田巡回相談	多摩市	貝取学童クラブ	10月8日	児童の行動分析と支援方法
12	正職員	学担	多摩市	ベルブ永山	10月16日	応急処置
13	正職員	たま研	学童クラブ職員	貝取学童クラブ	10月22日	支援要領についての学習
14	正職員	法人合研	法人研修委員会	各施設	11月9日	全体会：私たちが学び続ける理由-法人合研10年の歩み～分科会：食・関わり/保護者・地域/遊びと休息
15	正職員	全国学童保育研修集会	全国学童保育連協協議会	岡山・zoom	11月16・17日	全体会：子どもも大人も育つ学童保育 参加分科会：子どもの放課後地域生活を考える/困難を抱える家庭を支える学童保育
16	正職員（新人）	基礎研修	法人学童クラブ	永山小学童クラブ	11月20日	一日の流れ
17	正職員（新人）	基礎研修	法人学童クラブ	永山学童クラブ	11月25日	個人情報の取り扱い・余暇支援
18	正職員（新人）	基礎研修	法人学童クラブ	貝取小学童クラブ	11月28日	保護者対応
19	正職員	たま研	法人学童クラブ職員	永山小学童クラブ	12月3日	支援要領についての学習
20	正職員	アレルギー研修	東京都	ベルサール秋葉原	12月20日	アレルギーについて アナフィラキシーの対応他
21	正職員	性教育研修	こぐま保育園	こぐま保育園	12月20日	こぐま保育園園医による 性教育
22	施設長	改正育児休業法の学習	法人	法人本部	1月17日	改正育児・介護休業法についての学習
23	正職員	中堅層研修	法人研修委員会	向山保育園	1月18日	職員集団作り
24	正職員	学担	多摩市	ベルブ永山	1月24日	子ども家庭支援センター
25	正職員	学担	多摩市	ベルブ永山	2月22日	島田療育センター 応用行動分析
26	施設長	東京都放課後子ども総合 プランスタッフ研修	東京都	zoom	3月30日	地域・学校における子供・保護者への声掛け、メンタルケア活動～対応に悩む事例への関わりについて～

2024 年度 永山学童クラブ事業報告

1. 児童状況

(1) 定員：70 名

(2) 育成年齢：6 歳～12 歳（小学 1 年生～ 6 年生）

および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は 5、6 年生まで対象

(3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00

(4) 学年別状況：(2024 年 4 月 1 日現在) 在籍数 48 名

1 年生：12 名 2 年生：2 名 3 年生：21 名 4 年生：13

※3 月末 38 名在籍。年度途中の入所が 1 年生から 4 年生合計 3 名、退所
が 1 年生から 4 年生合計 13 名いた。

(5) 在籍児状況(2024 年 4 月 1 日現在)

* 要配慮児：7 名（個別加配 3 通常加配 4）

※ 3 月末 要配慮児 7 名(個別加配 2 通常加配 5)

* モア利用者：月利用申請者 5 名（要配慮児 0 名）

一時利用 月平均 1.6 名利用

* 夏一時利用：12 名（うち要配慮児 3 名 個別加配 2 名通常加配 1 名）

内訳：1 年生：3 名 3 年生：1 名 4 年生：4 名 5 年生：2 名 6 年生：2 名
計 12 名

2. 職員状況

(1) 正職員(2024 年 4 月当初 3 名)

職種	施設長	正職員	計
人数	1 名	3 名	4 名

※正職員 1 名 7 月貝取小学童クラブへ異動

7 月～10 月 1 名育休

12 月～3 月 1 名病休

(2) ①有期契約職員(2024 年 4 月当初 5 名)

勤務時間	5 時間× 週 5 日	4 時間× 週 5 日	5 時間× 週 4	4 時間× 週 2	4 時間× 週 1	計
人数	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	5 名

②有期契約職員状況

※中途採用者 5月より週3×4時間 週2×4時間 1名採用

※途中退職 1名

※夏休み対応 2名 採用

(3) 職員研修(別紙参加研修一覧 参照)

3. 2024年度の課題についての取り組み

① グループ制における育成について

- ・ 2023年度より準備してきたグループ育成を本格実施した。グループ名を子どもたちと設定し『ベテルギウス』『きたながやま』となりグループでの意識を持てるようにした。グループとして活動するのは集合の 때가主ではあるが子ども達は自分の居場所という意識が強くなり、時間が経つにつれてグループの意識が強くなっているように感じられた。一方でおやつ配膳や全体への話を一斉で行うこともありグループ制の特徴は生かせないこともあり今後の課題だと感じた。

② 子ども達の主体的な活動について

- ・ 遊びについては子どもたちがやりたいと思える遊びができる環境作りを行った。いままで使っていた遊具の見直しを行い場面ごとや子どもたちの成長に合わせた遊具の設定を行った。タブレットでインターネットを使い、ダンスや工作に取り組める環境を作った。ダンスが盛んになったことで行事の際にダンスを披露したいという子が増え、積極的に取り組む子が増えた。
- ・ 行事の際には子どもたちと話し合いで出来た意見を参考にて行うようにした。2月に行った貝取学童クラブとのドッチボール交流や3月末に行ったカロム交流は子ども達から出た意見により行うことを決めた。

③ 「食」に関する活動やお留守番講座など卒クラブ後の生活にむけての活動について

- ・ 日常のおやつで週に2回を目標に手作り感のあるおやつを提供するようにした。ホットプレートを使って調理するものや手作業で盛り付ける物については子どもたちにも手伝いとして体験できるように取り組んだ。おやつの準備や手伝いも生活の一部として定着した。
- ・ 例年行っているテラスのプランターでは「とうがらし」「ゴーヤ」「えだまめ」「さつまいも」を栽培した。とうがらしが豊作だったのでおやつでペペロンチーノを作った際に辛い油として希望者に提供した。さつまいもは子どもたちと話し、さつまいもご飯で提供したところ好評だった。
- ・ おやつで初めて食べる物や食べず嫌いなものに対してできるだけチャレンジ

できるように声をかけるように取り組んだ。初めての物を出来るだけ食べてみようとするキッカケ作りになった。食わず嫌いを克服する機会にもなった。

- ・ 「お留守番講座」を行い、『あんしんノート』を家庭と協力し作成してもらい、鍵の持ち方や放課後や休日の遊びに行っていていい時間や場所などを確認した。子どもたちでも話し合い各家庭のやり方を尊重し、相手の子にもルールがあるということを話し合った。
- ・ 夏の一時入所の子が多くいた。長期間子どもが一人で一日を家で過ごすことへの不安が主な利用理由だった。また、夏休みを終えると退所する4年生が多かった。今後も4年生の受け入れが多くなることを見越して4年生での課題について検討していく必要があるように感じた。

④ 適切なコミュニケーションが取れるように考えることについて

- ・ 育成の中で相手の気持ちを考えられるようにする対応を第一に行った。特定の子への必要以上の声掛けや注意からのトラブルが多くあったので相手視点での気持ちを考えるように話をしたところトラブルが減った。
- ・ 昨年同様子どもたちのやりとりの中で、些細なことでも『煽り』だと訴え対応することが多かった。『煽り』という言葉ではなく具体的な内容を引き出すことで対応するようにした。少しずつ子ども達の言葉が具体的になってきた。
- ・ 2023 年度行った親子学習会を継続して行い『アンガーマネジメント』をテーマとした。保護者が子どもに対して怒ってしまうことに罪悪感を感じてしまうことや、子ども自身が課題と感じている子が多いとのことでのテーマ設定だった。

⑤ 全職員が共通認識をもって育成にあたることについて

- ・ 文章に残る共有方法として職員ノートを使った。昨年度は定着に時間がかかったが職員が継続していたため問題なく運用することができた。
- ・ 毎月行っている職員会議にて、配慮児や気になる子どものエピソードや課題について共有した。経験の長い有期職員から環境設定や遊具の選定を行いたいと意見で出てくるようになり会議の存在が定着してきたように感じた。その反面、新しく入ってきた職員からの意見が出るのが少なく、正職員と経験の長い有期職員だけで話しているような実態になっていることが今後の課題である。

⑥ 職員の研修受講と資質向上について

(詳細は、別紙参加研修一覧を参照)

- ・ 参加した研修が多摩市内、法人内にとどまっております外に出での研修に参加することができなかった。

⑦ 保護者、学校、地域、専門機関と常に連携をはかり協力しながら子ども達を育ててくことについて

- ・ 学校とは課題のある子や家庭支援が必要な子について日ごろから情報交換をするようにした。関係機関を紹介する際にも学校と足並みをそろえることで話しが進展することがあり、日ごろからの連携が活かされた。
- ・ 子ども家庭支援センターや児童相談所との連絡を密にするようにした。それぞれの家庭で抱えている課題について関係機関と情報共有するようにした。
- ・ 青少年問題協議会やエリア全体会、子育て拠点会議などに出来る限り出席し学童クラブでの子どもたちの様子や活動を伝え理解をしてもらうように努めた。

4. 子どもたちの様子

- ・ 新入所1年生12名、施設異動が3年生3名、4年生5名いた。新入所児は3・4年生が受け入れ段階から丁寧に声掛け世話をしてくれたおかげですぐに生活に慣れることができた。施設異動で入所した子たちが高学年であることもあり遊びを通して施設に慣れていく様子が見られた。
- ・ 3年生を中心に積極的に1年生の面倒を見ている子が多い一方、特定の3年生が同学年だけでの遊びや活動が多くあまり他学年と関わりを持とうとしなかった。前年度同性の下級生がいないことから年下との関わりが薄かったことが要因だと考えられた。そこで遊びの中に1年生を意図して混ぜることで次第に関わりができるようにした。
- ・ 行事の際には子ども達のアイディアを積極的に取り入れた。「親子交流会」での全体遊びや「おみせやさん」の出店するブースの商品や食べ物、「お楽しみ会」「進級お祝い会」での出し物に関して子どもたちがやりたいといったものを取り組み行った。「お楽しみ会」と「進級お祝い会」ではダンスを披露したいという子が多かったのが特徴だった。出し物では『研究発表』や『カロムの技披露』など独自の発想から出てくる物もあり子ども達のやりたいことができる風潮ができてきたように感じる。
- ・ 法人4学童カロム大会では日ごろからカロムをやっている子だけでなく多くの子がカロムに興味を持つ機会になった。代表選手を決めるために希望者全員と総当たり戦を行うなど施設内での盛り上がりを感じることができた。大会自体は2位という結果を得ることができ楽しめる行事になった。当日体調不良で参加できなかった子が優勝した永山小学童クラブに再戦を依頼し、カロム交流会を行うなど活動の意欲につながった。
- ・ 2022年に行った4学童ドッチボール大会に当時1年生として参加した子から、またドッチボール大会をしたいとの声があったため、貝取学童クラブとドッチボール交流会を行った。2ヶ月ほど子ども達で練習をして臨んだが惜しく

も敗北してしまった。練習の中でただ自分が投げるだけでなく上手い人にパスを出す、ジャンプボールは高く飛べる人を選出するなどを子ども達に伝え、集団生活の中でも合理的判断力が高まったように感じる場面が見られた。

- ・ 子どもの外遊びでの事故が例年より少なかった。2023 年末から取り組んだ準備体操後に 50 メートルほど走る習慣をつけた影響だと思われる。

5. 家庭との連絡について

- ・ 学期に 1 回ごと、年に 3 回学童クラブでの子どもたちの様子を見てもらうことを目的に父母会共催の行事を行った。「親子交流会」ではしっぽ取りやドッチボールを親子で楽しみ、最後には保護者が作ったカレーをみんなで食べた。「おみせやさん」では土曜日に開催し保護者の方も参加してもらえる形をとった。時間の設定を 11 時～13 時とお昼の時間に設定したことから軽食としたラーメンを提供できるブースを設定した。昼食会やおやつで提供している物を準備し日ごろ子ども達が食べている物を味わってもらった。「進級お祝い会」では父母会から頂いた意見を元に卒クラブ証書授与の時間短縮や室内の密度の解消を課題として取り組み、例年行っている内容を踏襲しながら課題をクリアすることができた。父母会内でも行事のあり方に様々な意見が出ている中で、学童クラブでできることを検討していきたい。

6. そのほかの関係機関、法人他施設との交流について

- ・ 多摩市内の中学校職場体験を計 1 校の受け入れをした。学童クラブ内の作業を体験してもらうと共に育成時間も子どもたちと遊ぶようにした。例年に比べて参加校が少なかった。学童クラブの認知を広げるためにも今後も多くの体験希望者を受け入れていきたい。
- ・ 市内のボランティアセンターから夏のボランティアを市内の教員 2 名、高校生 2 名計 4 名受け入れた。教員の方は 1 年目研修での参加で、高校生は自主的な地域貢献としての参加だった。
- ・ こぐま保育園との交流会を行った。例年行っていた子どもがブースを開く形式ではなく、自由な遊びをする形式で行った。年下の子との関わりに慣れていない子もおり戸惑う姿も見られたが日ごろ行っている遊びを教えることで関わりが持てるようになる子がいた。
- ・ 児童館が例年行っている『とも～る祭り』に学童クラブのブースを出展した。当日は過去に在籍した職員や卒クラブした高校生の協力を得ることができた。同じ建物内の施設として今後も積極的に協力をしていきたい。
- ・ 9 月に行った『お店やさん』ではゲストとして永山小学校の先生を招待した。

3名ほど参加があり学校とは違う子どもたちの姿を見てもらうことができた。

7. その他

- ・ 年度初めはエリアフリー職員を配置していたが、途中で職員の異動があり配置できなくなった。年度途中で育休・病体に入る職員がおり正職員が少ない体制になってしまったため、日によっては他の学童クラブから職員の応援をもらいながらの育成であった。他施設の職員と協力することで4学童クラブ一体となつての運営ができたように感じた。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	新年度が始まり、1年生が12名の新入所、他学童クラブから9名が異動し、総勢48名でスタートした。 1年生は初め緊張した様子であったが、上級生に優しく受け入れられ、笑顔で過ごすことができていた。 外遊びでは、1年生も交えて中当てやドロケイ、砂場あそび、ホッピングをして楽しそうに遊んでいた。 お部屋では、プラレールやおままごと、段ボール工作、カラムなどをして学年隔てなく楽しそうに遊んでいた。片付けをしないで次の遊びに行ってしまう傾向にあったため、帰りの会などでどう片付けをしたらよいかを話をした。片付けに取り組む姿は見られるが、終わらないままいなくなってしまうことが多く、課題として残っている。	4/12日 避難訓練 地震の時の身の安全を守る方法と、避難経路をパワーポイントを使って子どもたちに説明した。 4/17日 新入生歓迎会 4月から永山学童クラブに在籍となった児童を歓迎する会を子どもたちと主催した。会の司会役など全体に関わる運営係、新入生にプレゼントの「くす玉」を制作したプレゼント係、全体遊び「じゃんけん列車」と「〇×クイズ」を進行した遊び係の3つに分かれ、3月から会を計画・準備していた。 会の準備に全員が関わることで、同じ学童クラブで過ごす仲間を迎え入れる雰囲気作りに繋がった。 4/24日 誕生日会 4月生まれの児童の誕生日を祝い、みんなでパフェを食べた。 4/26日 春の保護者会 職員・法人の紹介、年間計画、学童クラブからの連絡事項の他、カギの持ち方について保護者に話をした。地域別の懇談会で保護者同士の自己紹介と降所ルートを確認した。全42世帯中24世帯の参加があった。	退所 4年生 2名
5月	外遊びでは第二公園や永山小学校の校庭でサッカーや鬼ごっこ、ドロケイ、砂場遊びなどをしていた。第二公園ではスズメバチが公園内の木に飛んでいる姿がみられた。子どもたちには発見した場合、近づかない、刺激しないことを伝えた。 室内では主に1、2年生がダンボール工作でお化け屋敷の小道具を作ったり、剣を作ったりして遊んでいた。しかし1年生は片付けの習慣が身についておらず、片付けをせず他の遊びをしたり、ほかの子どもに片付けを任せたりしていたことが多いため、片付けの仕方や子ども同士でのやりとりを促している。今後も継続して声掛けをしていく。 また、父母会の寄贈品でタブレットを導入した。その使い方についてはまだ検討中だが、時間を決め音楽を聞いたり、工作、ダンスの動画などを見れるようにしており、子どもたちは楽しんでいる様子だった。	5/8(水) 引き渡し訓練 16時頃から児童館と合同で地震・火事の発災を想定した避難訓練を行った。17児から引き渡し訓練を開始した。室内では災害時向けの絵本の読み聞かせを行い、その後は勉強・本読みをして保護者の迎えを待って過ごした。電車の遅延で1家庭だけ19時以降にお迎えに来た。 5/15(水) 歯科指導 健康センターから歯科衛生士の方に来ていただき、1年生と2年生以上に分かれて話をきいた。1年生は第一大臼歯について学び、それ以上の学年は食料に含まれる砂糖の量について学んだ。 5/22(水) 誕生日会 5月の誕生日の子どもたち6名をお祝いした。その日のおやつはホットビスケットにアイスクリームをのせるおやつで、子どもたちも嬉しそうに食べていた。	
6月	外遊びでは第二公園や永山小学校の校庭でサッカーや鬼ごっこ、ドロケイ、砂場遊びなどをしていた。第二公園ではスズメバチが公園内の木に飛んでいる姿がみられた。子どもたちには発見した場合、近づかない、刺激しないことを伝えた。 室内では主に1、2年生がダンボール工作でお化け屋敷の小道具を作ったり、剣を作ったりして遊んでいた。しかし1年生は片付けの習慣が身についておらず、片付けをせず他の遊びをしたり、ほかの子どもに片付けを任せたりしていたことが多いため、片付けの仕方や子ども同士でのやりとりを促している。今後も継続	6/8(土) 親子交流会 永山小学校の体育館を借り、しっぽとり、ドッチボール、人探しゲームの3つのゲームを職員含め合計117名が参加し、開催した。昨年と同様にカレー作りを行い、お昼に食べた。 6/12(水) 安心安全教室 1年生と2～4年生で分けて話をした。1年生は学校から学童クラブまでの帰り方を話し、それ以上の学年は防犯対策や遊びに行く時の約束を話した。 6/17(月)～個人面談 1年生と4年生、希望者を対象で個人面談を行った。 6/19(水) お誕生会 6月生まれの子のお祝いをした。 6/29(土) 親子学習会(永山小学童クラブ・父母会共催) 専門家の方を招いてアンガーマネジメントについて親子学習会を行った。永山からは保護者18名、在籍23名、兄弟関係が3名の合計44名の出席だった。	入所 1年生 1名
7月	7月に入り雨天と猛暑のため室内で遊ぶことが多かった。職員で遊具を見直したこともあり卓球やボードゲーム、カードゲームを楽しんでいた。外に出て遊ぶことが出来る日にはサッカーやドッチボールといった遊びだけでなく、水を使った砂場遊びや虫捕りといった季節を感じられる遊びも多く見られた。 生活グループを出席状況を見て一部変更したが、グループ内で上級生が全体をまとめる役割を行っているため混乱なくスムーズに変更することができた。 夏休みに入ると一日の流れを一つ一つ確認しながら過ごしたため、子どもたちはスムーズに夏休みの流れに沿って過ごすことができた。1日過ごすため子ども間での関係が煮詰まりトラブルになる場面もあるが職員が間に入り対応することで解決することがあった。トラブルになる前段階で子どもたちで解決できるよう気を付けていきたい。	7/11日(木) 避難訓練 発災した際の、逃げ方や身の守り方を確認した。 7/19日(金) 昼食会 昼食会では、子どもたちに事前に食べたいメニュー案を出してもらい、一番投票の多かった焼きおにぎりと豚汁、たくあん、枝豆を提供した。枝豆は学童クラブのテラスで収穫したものを蒸して出した。子どもたちからはとても好評で焼きおにぎりと豚汁はおかわりする子が多かった。 7/22日(月) 映画会 映画会では3年生と事前に話し合いを行って映画の内容を決めた。また司会進行と当日のジュースの買い出しを3年生が行い、ジュースを飲みながら映画会を楽しんだ。 7/25日(木) 誕生会 24日(水)が誕生会の予定だったが対象の児童が欠席のため、25日に延期し誕生日をみんなでお祝いした。	入所 3年生 1名 4年生 1名 退所 4年生 1名 ※海外出張のため

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
8月	8月も熱中症指数が高く室内で過ごすことが多かった。ボードゲームや卓球が室内で人気だった。また、ビーズやルームプレスといった工作類も多く使えるようにしたため室内でも充実した生活を送ることができた。日によっては水遊びを外で行い、水をかけあって涼をとった。 8月後半になると熱中症指数が低い時間も出てきたので第2公園に出て遊ぶ日も出てきた。日陰でできるキャッチボールやサッカーボールのパス練習や虫捕りが人気だった。 8月一時入所の子たちが12名ほどいたため、1～3年生は地域で分かれたグループの方に入れ、4年生以上は別のグループとして作ることにした。どのグループになった子も学校で知っている子たちがいるため馴染むのが早かった。	8月21日(水) おみせやさん準備 9月21日(土)に行うおみせやさんの準備を開始した。まずはどんなお店を出店したいか意見を募った。飲食が3店舗、遊び工作で2店舗出すことで決めた。 8月28日(水) お誕生会 8月生まれの子の誕生日を祝った。おやつは夏のフルーツポンチで材料は3年生の有志で買い出しに行った。 8月29日(木) ヨーヨーすくい 夏休みが最後になるので思い出作りとしてヨーヨーすくいを行った。お手伝いの子を募り準備から職員と行った。	夏一時入所 1年生 3名 3年生 1名 4年生 4名 5年生 2名 6年生 2名 計12名 退所 4年生 6名
9月	夏休みが終わり学校が始まると1週間ほど落ち着かず、室内で大声を出す子が数名いた。再開した学校での生活のリズムが揃わずにいた子が多かった印象だった。少しずつ生活リズムを取り戻し落ち着きがでてきた。 気温がそこまで上がらなくなったので外遊びの際に永山小の校庭を利用する日が増えた。主にケイドロや鬼ごっこを大人数で行うことが多く、集団での遊びが充実してきた。中にはルールを守れない子や意見違いでトラブルになることがあったが、子どもたち同士で話し合い解決しようとする様子が見られ、全体での成長を感じられた。 年間でも一番規模の大きい行事『おみせやさん』があるため準備に追われた。3年生が中心となり話し合う様子が見られリーダーシップを発揮していた。	9月21日(土) おみせやさん 子どもたちと話し合い決めた『ラーメン』『ポテナゲ(ポテトとナゲット)』『わたあめ』『アクセサリ』『ストラックアウト』の5店舗を子どもたちが出店。保護者の会がジュース屋を行った。在籍家庭、兄弟、学校の先生を招いて総勢135名の参加だった。 9月21日(土) 3年生保護者会 11家庭が参加。3年生遠足や家庭や地域での今後の過ごし方などを話しあった。保護者懇談では主に、お小遣いの金額や頻度、遊びに行くときの範囲、ゲームについて、4年生以降の学童クラブの利用について話題に上がり、各家庭の状況や上の兄弟がいる家庭から卒クラブ後の様子について話していた。不参加の家庭にも懇談の内容が伝わるように文章にして配布した。	退所 4年生 3名
10月	外遊びは野球やサッカー、鬼ごっこ、ドッチボールなどをしていた。ドッチボール大会があるためか、3年生が一生懸命練習していた。 部屋の中では、レゴやブラレールやカラム、工作、お化け屋敷ごっこダンスなどをして遊んでおり、男女関係なく楽しそうに遊んでいる様子が見られた。 学校の運動会の練習があったためか、疲れて登所し、少し落ち着かない子どもたちの姿が見られたが、運動会が終わってからは落ち着いて集団の場面を過ごす様子が見られた。 月の後半には冬時間降所が始まり、おやつの時間を後ろにずらし生活のリズムが少し変わったが、大きな混乱もなく過ごせていた。	10月9日 お留守番講座 お留守番ノートを配布して家庭で確認し合うポイントを話した。今後留守番や地域に出て遊ぶ際の家庭でのルール作りのきっかけとして行った。 10月30日 3年生会議 3年生遠足に向けて概要の説明や班決めを行った。 10月22日～11月1日(予定) 個人面談 2・3年生全員と希望者を対象に行った。主に進級後の生活や学童クラブの利用について話しを行った。	
11月	10月末より行っている冬時間降所により生活の流れを変更。遊びの時間が長くなったため、外ではサッカーやドッチボール、室内では工作などをじっくり遊び込んでいる様子が見られた。サッカーでは1年生だけで遊ぶ様子も見られ1年生同士がまとまってきたことを感じられた。ドッチボールでは他の学童クラブとの交流を予定していることもあり3年生を中心に勝つための練習を熱心に行っていた。工作に関しては大作を作るが片付けや作り終わった後の作品の扱いに課題があり職員が声をかけるようにした。また、12月のお楽しみ会を意識してタブレットを使ってダンスをする子が増えてきて室内が賑やかな日もあった。 夏前から育てていたさつま芋も収穫し、どんな食べ方をするか子どもと話し合った。さつま芋ご飯として食べることにした。おやつで実際に提供した。	毎週水曜日 3年生会議 3年生遠足の準備を行った。遠足先や電車内での過ごし方や班内でどこを回るかを話し合った。遠足のおやつ買いに行き買い物の練習と兼ねて行った。 25日～29日 誕生日会週間 11月生まれの子が多いため1日2、3名ずつ誕生会を行った。27日(水)にお誕生会のおやつとしてフルーツポンチを食べた。 30日 3年生遠足 新江ノ島水族館に3年生21名で行った。行きの電車内で嘔吐・遠足先で財布の紛失があったが、予定通りのプログラムは行うことができた。帰りのロマンスカーでは買い出しにいったおやつを食べ楽しむことができた。	退所 4年生 1名
12月	永山第2公園では1年生同士でサッカーをする様子が多く見られるようになり、今まで室内で遊んでいた子が外に出るようになった。3年生は中当てやキャッチボールを行う際に周囲を見ている確かなスペースの確保をしている様子が見られ成長を感じた。パドミントンのラリー数の目標を決めて遊びこむ子どももあり、第2公園でも遊び方も定着してきたように感じた。 室内では月末に控えているお楽しみ会の出し物のダンスや歌の練習で賑やかだった。またカラム大会に向けての盛り上がりもありカラムが盛んに行われていた。 月末になるとインフルエンザ等の感染症に罹患する子が数名おり行事に参加できない子がいたが、学童クラブ内での集団感染には至らなかった。また、児童の家族が大病を患うケースが数件あった。家庭との情報共有を丁寧に行い学童クラブでの児童の様子を見守った。	25日(水) お楽しみ会 出し物をやる人と委員として会の運営をする人を募集して準備してきた。出し物は、『歌』『ピアノと新体操』『ダンス』『お笑い』『研究発表』の5種類計10名ほどが参加した。運営には『司会』『飾りつけ』『裏方』『おやつ』の4役を3年生8人で行った。当日は出し物は準備して来たものを出し切ることができ、見せる側も見る側どちらも盛り上がる事ができた。おやつも事前にアンケートで『ロールケーキ』『メロンパン』『どらやき』の3種から選んだものに、クリームやおかしのトッピングを追加して提供し楽しい時間を送ることができた。 26日(木) たまふくカップ(カラム大会) 同法人の『永山小学学童クラブ』『貝取小学学童クラブ』の4学童クラブ合同でカラム大会を行った。大会に向けて元日本チャンピオンの方にボランティアで来てもらい、カラムのコツを教わった。 当日は会場の貝取小学学童クラブに代表5名が行ってきた。順位は2位だった。	

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
1月	度末から懸念していた感染症の集団感染はなく新年を迎えることができた。新年に入ってから進級に向けた気持ち準備のために、今後の予定を意識的に話しをするようにした。始めはあまり意識できていない子が多く感じられたが次第に進級することへの意識が出てきたように感じられた。 遊びに関しては外では2月に予定しているドッチボール交流へ向けて子どもたちで活発に練習を行っていた。1年生がサッカーを積極的に行うが、ルールの理解度が個々で違うためトラブルに発展しそうな様子が何度か見られたため職員が間に入ることがあった。今後どのようにルールを伝え合っていくかが課題になった。 3月に進級お祝い会を予定しており有志の出し物のことで3年生女子間でのトラブルがあった。言い合いになっている様子を見た保護者や心配になった保護者とのやり取りが何度かあった。子ども達で話し合い各々がやりたいことをやることで決まったが、今後も様子を確認していく必要がある。	8日 父母会共催昼食会 父母会と共催で昼食会を行った。メニューはカレーとハンバーグで子どもたちに好評だった。出席率も高く、昼食会はニーズがとて高いように感じられた。 29日 学年会議 各学年で集まり進級お祝い会での学年での出し物やこぐま保育園との交流会について話し合いをした。	
2月	学年が上がることを意識できるように学年での会議や帰りの会で次年度へのイメージができるような話しを積極的に行った。遊びの中で子ども同士で話し合っている様子が多く見られ子ども達の成長を感じることができたが、一部主張が一方的になる子もいたので職員が間に入ることがあった。子どもたちそれぞれの段階に合わせて支援を行うようにした。また、遊びの時間管理なども子どもたちが意識するように声をかけるようにした。 外遊びでは先月から引き続き1年生を中心にサッカーを行っていた。そこに3年生も入るようになった。他学年と一緒にすることで相手に合わせた強さでボールをけるなど手加減をする様子が見られた。 月末に近づく3月に予定している進級お祝い会での出し物の練習に熱心に取り組んでいる様子も見られ、学年で協力している様子が見られた。	5日(水) ドッチボール交流 11月ごろから子どもたちが2年前に行った大会のリベンジがしたいという意見があり練習を重ね準備をしてきた。当日は貝取学童クラブへ行きドッチボール対決をした。延長戦の末負けてしまったが満足そうにやり切った様子が見られた。遊ぶ時間も良い交流となった。 17日(月) こぐま保育園交流会 こぐま保育園年長児が40名ほど学童クラブに遊びに来た。1,2年生全員と3年生の任意の子たちが保育園児と室内で遊んだ。始めはどのように関わって良いか分からない子もいたが、遊びに入ると園児に合わせて遊ぶことができ来年へのイメージができた様だった。 毎週水、金 学年会議 進級お祝い会や来年に向けて目標や手形の作成を行った。話し合いを重ねることで進級する自覚が少しづつ出来てきたように感じた。	
3月	卒クラブ・進級お祝い会を終えて、子供たちも進級を意識しているようだった。新入生歓迎会に向けての準備をするため1年生、2年生の有志を募ると「私たちがやりたい」と積極的に手を挙げ、4月の新入生歓迎会に向けての準備を始めた。 月末にかけて気温の上がり下がり激しく、子どもたちも疲れた様子が見られた。衣服での体温調整も難しく、気温が25度近くまで上がっている中、冬用のダウンを来ている子がいたり、気温が下がった日に半袖着用の子がいたり、時期に合わせた服の選択というのが難しかった。 今年度限りの利用の子が多く「もう少しで学童クラブ来なくなるんだ」と寂しそうにしている子もいた。次年度に向けて職員が入れ替わる中、月末には職員と子どもたちと校庭でドロケイをしたり、職員を鬼にして公園で棒タッチをしたりと職員と子どもとの交流が自然と多くなった。	1日 卒クラブ・進級お祝い会 以前から進級お祝い会に向けて各学年準備をしてきたなか、歌の発表や次年度の目標発表を招待した保護者の前で行った。有志が集まった子供たちからの出し物の発表もあり一年間の子供たちの成長した姿が見られた。 24日 昼食会 子供たちからの提案を受けて「ペペロンチーノパスタ」を昼食会で提案した。残飯も少なく、子供たちからも好評だった。	

2024年度永山学童クラブ 参加研修一覧

参加者	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名
施設長	学童クラブ中級研修	多摩市	各担当	月1回程度	年間を通して基礎研修内容を深める。(3年間行う予定※2年目)
施設長 正職員	学童クラブ全体研修	多摩市	多摩市役所	年6回	防災・応急処置・発達の見立て・子ども家庭センター・人権について・島田療育センター
施設長 正職員	多摩市児童青少年課課内研修	多摩市	オンライン、 ベルブ永山	7月12日、9月13日、10月4日	安全管理、性教育について
正職員	救命救急講習	多摩市	豊ヶ丘児童館	9月5日	AEDの使用等救急時の対応
正職員	たま研	法人4学童クラブ担当	各施設	学期に1回の ペースで開催	各回テーマを決めて行い学びを深める
正職員	保育園・学童クラブ合同	多摩福祉会	各施設	11月9日	保護者対応・各分会テーマ
全職員	島田療育センター巡回 相談	多摩市	永山学童クラブ	12月18日	児童の対応について

貝取小学童クラブ 2024 年度事業報告

1. 児童状況

- (1) 定員：80 名
- (2) 育成年齢：6 歳～10 歳（小学校 1 年生～4 年生）
8 月一時入所は 6 年生まで
特別支援学校、特別支援学級に通う 5、6 年生は入所可、
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2025 年 3 月 31 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
人数	29 名	20 名	23 名	6 名	0 名	2 名	80 名

① 新入所児状況

1 年生 28 名

2 年生 1 名

* 要配慮児：個別加配 3 名、通常加配 1 名

* モアサービス利用：3 名

② 在籍児状況

* 要配慮児：個別加配 15 名、通常加配 3 名

* モアサービス利用：5 名

* 待機児童：13 名

2. 職員状況

(1) 正職員

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1 名	4 名	5 名

※内 1 名は育児時短勤務

* 新規採用者 1 名

* 異動者 1 名（7 月 1 日付 永山小学童クラブへ）

1 名（7 月 1 日付 永山学童クラブより）

(2) 有期契約職員 20 名〈要配慮児対応〉

契約時間	6H×週5日	5.5H×週3日	5H×週5日	5H×週4日	5H×週3日	5H×週2日	4.5H×週5日	4.5H×週4日	4.5H×週2日
人数	1名	1名	1名	1名	1名	2名	1名	4名	2名
契約時間	4H×週4日	4H×週3日	4H×週2日	3.5H×週2日					
人数	1名	2名	1名	2名					

3. 2024 年度重点課題

<全体として>

- ・ グループ会議を定期的に開催し、グループ担当職員間での情報共有がよりスムーズに行われるようになった。また施設全体としての情報共有や方針の一本化に関しては、職員会議などで共有するとともに、それぞれのグループの特性や方針について相互理解が深められるよう会議の時間をもった。
- ・ 親子交流行事「夏の夕涼み会」は台風のため中止となったが、楽しみにしていた子どもたちも多かったため冬休みに小学校の体育館を借りて児童のみ参加の「映画会」を開催した。季節的に天候面での課題が大きいため次年度は時期を変更することを職員間で話し合った。
- ・ 秋の「おみせやさん」は保護者の負担軽減を目的として学校公開日の午後に設定したところ、小学校の先生方にも子どもたちの姿を見に来てもらうことができた。
- ・ 行事の持ち方については複数職員での担当を基本としていたが、職員異動等による担当変更等で複数での企画立案に至らず次年度への課題となった。
- ・ 子どもたちの生活や活動の選択肢を増やし豊かな時間にする一助として、夏休み前に「カロム講習会」を、夏休みには「けん玉講習会」を行った。熱中症指数が高く屋外遊びが出来ない長期休業期間中に室内で体を動かしたり、練習を重ねるゲームに熱中したりできる機会を持つことで、子どもたちの日常生活が単調にならず、遊びの選択肢を増やすことができた。
- ・ 「カロム講習会」・「けん玉講習会」を計画し、子どもたちの放課後が豊かな遊びの時間となるきっかけづくりができた。カロムは学童クラブ内でトーナメント方式の「カロム大会」を、けん玉は「けん玉部」の子どもたちが「技の発表がしたい」と申し出を受け、歓迎会での技を発表した。いずれも子どもたちの意欲を次につなぎ、自分の時間を有意義なものにしていく活動となった。
- ・ おやつ担当の有期職員が年度途中で退職したが、食品管理やおやつ提供のあり方を見直す機会となった。また、おやつを楽しみにする子どもたちのリクエストに

応え、週二回を目標に手作りおやつを提供を行った。

<育成計画>

- ・ 避難訓練については職員体制の問題や下校時刻の変更等で日程変更があっても毎月一度は開催できるよう、日程を毎月上旬に計画するようにした。また、職員会議の日に職員模擬訓練を行い、緊急時の役割分担について、正職員の指示系統を再確認した。
- ・ 職員会議の開催は年間で曜日を固定することで参加しやすいスケジュール設定を試みたが、有期職員の半数が学生であり一度の職員会議に全員が参加することは困難だった。そのため予めシフト作成時に職員会議連絡会の日を設定することにした。担当は職員会議の書記を担当する正職員とし、毎月輪番制で会議内容を伝達する。職員会議に参加出来なかった職員に直接共有事項を伝えるとともに、職員からの質問や意見等を集約する役割も担った。
- ・ 学校の終業時間が年々遅くなる傾向にあり、子どもたちが下校後、のんびり自由に過ごす時間への配慮をしながら行事等の取り組みの時間を検討した。
- ・ 夏休み等の長期休業期間には3年生以上の子どもたちと「放課後子ども教室見学会」を、3学期には卒クラブを控えた3年生を対象とした「児童館見学」を行った。コミュニティセンターとの連携は事前の準備不足もあり叶わなかったが、貝取小学校PTA本部の保護者を通して地域の緑化クラブ主催の「貝取小グリーンデー」への参加を定期的に行う事が出来た。
- ・ 新3年生から「一年生のプレゼントとしてプラ板のキーホルダーを作り『貝取小学童クラブの子』という仲間の目印を持ちたい。」という提案があった。80人分作ることが大変な作業であることを話したが、春休みの間にみんなでがんばって作りたいという子どもたちの気持ちを受け止め「やってみる」ことにした。最初は3年生の発案者8名で作業をしていたが、途中から2年生の希望者の手を借りて作業を進めるなど「みんなで1年生を迎える気持ち」を共有する良い機会となった。
- ・ 季節の工作は職員の交流研修「たま研」での学びを活かした計画をたてた。春は「バスボム作り」を計画し、季節感も大切にしつつ色や香り付けの工夫も加えた。子どもたちは完成品の化学反応を自分の目で見て楽しみ、自宅に持ち帰り家族と一緒に楽しんだ。また夏休みにはスライム作り、冬の工作では毛糸を使った蜘蛛の巣編みなど、職員が季節感を大切にしつつ、子どもたちが楽しめる工作時間を提案することができた。
- ・ 昼食会は例年給食終了翌日の終業式に設定しており、今後も昼食会の開催日程については終業式前の給食終了日翌日で計画を継続していく。

<各グループの育成計画>

- ・ 貝取小学童クラブは3つのグループに分かれて育成している。それぞれのグループの特色を考え、担当職員がグループ別の育成計画を立てていたが、2024年度は年度始めと7月の二回、職員異動によってグループ担当の正職員交代があった。前年度までに有期職員のグループ固定化が定着していたこともあり、子どもたちに大きな混乱や不安はなかったが、グループ担当の正職員にとっては計画の再確認からのリスタートとなり、グループ目標へのアプローチに少なからず時間を要したことは否めない。但し、グループ目標とは学童クラブとしての目標をどのように達成していくかというステップでもあるということが実感できた良い機会でもあった。

<不登校児童への対応>

- ・ 不登校児童の受け入れについては、保護者と児童本人の希望があれば受け入れる体制を整えており、学童クラブで可能な範囲でのサポート体制を整えてきたが、今年度も一定数の利用があった。小学校から「学童クラブだけでも登所できることが、唯一社会との繋がりになっている」と協力要請のあった児童がいた。このような児童にとって、身近にあって気軽に行ける居場所になることも学童クラブの役割の一つである。今後も学童クラブだからこそ「来ることができる居場所」として子どもたちへの扉を開き続けていく。

<不適切保育の問題>

- ・ 不適切保育については日々の打ち合わせやグループ会議・職員会議などで、子どもたちとの関わりを事例として職員間での話し合いを持った。会話や遊びの中で極端に距離が近い子への対応や、けがの際に患部を確認する際の同性介助などに十分配慮しつつ、日々の気づきを互いに確認しあうことから職員同士が互いに見守り合い、気になることを伝え合える環境作りに努めた。

<感染症対策>

- ・ 感染症対策については、手洗いの励行や消毒などの感染対策を継続した。

<アレルギー対応>

- ・ アレルギー児が4月末に転校したが、その後も日々の確認作業は変更せず、食品表示や消費・賞味期限についての確認及び商品納入時の検品・記録は複数名で行った。また、職員会議では年に一度エピペンの使用方法について学習会を行った。

<保護者との関係>

- ・ 保護者会や親子交流行事などで、子どもたちの写真をスライドショーにしたり動画を写したりして、保護者が子どもたちの様子を観られるようにした。ホームページのアルバム機能を活用し、定期的に更新した。
- ・ 子どもたちが毎日楽しんでいるボードゲームなど、使用頻度の高い遊具については時期にこだわらず順次交換した。
- ・ 部屋の装飾は子どもたちの製作物を、有期職員のアイデアを取り入れ飾った。
- ・ 花壇委員会の子どもたちが、玄関周りに季節の花の種を蒔き、水やり当番を担った。猛暑の影響か、なかなか芽が出なかったが、秋から冬にかけて根気よく世話を続け、植物を大切に育てた。子どもたちが自分から手を挙げて役割を担う経験をもとに、家に帰ってから自発的に手伝いができた時の喜びや自己肯定感につながるよう支援していきたい。

<安全計画・業務継続計画（BCP）>

- ・ 安全計画については市の方針に合わせて随時計画の見直しを行っていく。

<関係機関>

- ・ 放課後子ども教室とは共催行事等を通して職員間の連携を深めることが出来た。職員体制上応援が必要な機会も多く、日常的に協力体制を整えられるよう注力した。共通で使用する校庭では子どもたちが一緒に遊ぶ姿が日常的に見られるようになり、広い校庭では何かあったときには近くにいる職員が対応して双方の職員に報告しあうなどの協力は必須である。また、昨年度末開催されたドッジボール大会の第2回開催に向けては、大会前に練習試合を行うなど、子どもたちが切磋琢磨する様子が見られ、互いに良い刺激になっていた。
- ・ 職場体験やボランティアセンターを通して地域及び夏のボランティア受け入れを検討したが、今年度は施設への希望者がなかったため受け入れに至らなかった。

<職場として>

- ・ 職員の健康管理に留意し、健康診断等の声掛けを行ったが、急な体調不良が頻発し職員体制の安定を図ることが難しかった。
- ・ 有給休暇を定期的にとれるよう休暇希望についてはカレンダーを常備し、希望が記入しやすくなるよう配慮した。
- ・ 法人内の学童クラブとは、たま研（法人内職員研修）を通じて職員交流を深めることができた。

<職員研修計画> 別紙参照

2024年度 貝取小学童クラブ 月ごとの様子

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	1日は1年生の出席が23名だった。上級生が1年生に生活の流れやロッカー、下駄箱の場所など優しく教えてくれる姿が見られた。 学校が始まると1年生の出席人数が増え、給食が始まるとさらに出席率が高い日が続いた。雨の日など外遊びができない日は育成室が手狭に感じることがあったため、職員が遊びの種類によって場所を分け、子どもたちを誘導した。 外遊びでは3月のドッジボール大会の影響でドッジボールをする子供が多かった。また、野球も人気があったため、新しくバットとTバティングを購入したところ野球をする子が更に増えた。 室内遊びでは2年生の児童の影響で学年男女問わずけん玉をする子が多く楽しそうに遊んでいる姿が見られた。また友達同士で「けん玉部」を作って技の練習に励み、切磋琢磨する様子がみられた。	10日(水) 避難訓練 各学年ごとに紙芝居を使って地震について話をした。 17日(水) 新入生歓迎会 3年生が学童クラブの行事を紙芝居で紹介したり、上級生がおもちゃを紹介したり、メダル・全員おそろいのプラバンをプレゼントし、1年生はすごく喜んでいる様子だった。また、集団遊びではグループ対抗でドッジボールを行った。それぞれのグループを応援するなど楽しく行うことができた。 24日(水) 誕生会 4月生まれのお友達を各グループでお祝いした。 26日(金) 保護者会 第1回保護者会には33名の保護者が参加した。	退所:1名(6年)
5月	今月は小学校の運動会があり、毎日の練習で子どもたちは疲れている様子があった。口調が強くなって対人関係トラブルが多かった反面、運動会で踊るダンスを学童クラブで踊っている様子が見られた。 室内では、職員がカロムの遊び方を1年生に説明すると遊び方を理解し、子どもたち同士で遊ぶ姿があった。時には2台のカロム台が使われ、多くの子がカロムを楽しんでいた。また、以前から使用していたレゴブロックを新しいものに買い替え、人形も買い足した。普段からレゴブロックで遊んでいた子たちからは「人形やパーツがたくさん増えて、ごっこ遊びができる」と嬉しそうな反応があった。一部の子が切り替えに時間がかかり、片付けが遅くなる姿があるので少し早めに声をかけるなどの対応をしている。	8日(水)引き渡し訓練 地震想定避難訓練を行い、机の下に隠れた。その後地震についてのDVDを観て、それを踏まえた地震に関するクイズを行った。 22日(水)誕生会 5月生まれの子のお祝いを行った。おやつにパフェを提供したが、目の前で生クリームを絞ってもうることが子どもたちから好評だった。	入所:1名(2年)
6月	工作週間でバスボムづくりをした。子どもたちは粉を袋にいれて揉む感覚を楽しんでいる様子だった。また、完成してから家で使用し、「しゅわしゅわしてすごかった」「大成功で楽しかった」などの声が親子共々に寄せられた。 歯科指導では、1年生は積極的に質問をし、2年生以上は「こんなに砂糖が入っているんだ」と飲み物の砂糖含有量に驚きつつも真剣に話を聞いている様子があった。 雨の日は、体育館へ遊びに行きドッジボールをしたり座って風船バレーをしたりして室内でも楽しめる遊びを提案した。風船バレーは夢中になりすぎて隣の子とぶつかることがあったが、体育館では放課後子ども教室の子どもたちと一緒に遊ぶことができたため、子どもたちからもまた行きたいとの話があった。	3日(月)～14日(金) 工作週間 重曹やクエン酸を使ってバスボム工作をした。使用する粉末に番号をつけ、子どもたち自身で取り組めるようにした。 12日(水) 防犯訓練 パワーポイントでクイズや標語を使って、不審者対策の話をした。 19日(水) 歯科指導 健康センターの歯科衛生士の方2名に来ていただき、1年生とそれ以外の学年の2グループに分かれて歯についての話をしていただいた。当日は図書室と育成室の2か所で行ったため、子どもたちは集中して講義に参加することができていた。 26日(水) 誕生会 6月生まれの子たちをお祝いした。	
7月	7月に入り気温が高くなってきたため、水分補給の声掛けや塩分タブレットの配布、帽子をかぶる声掛けを行った。月の後半になってくると熱中症指数が危険を指し、外遊びができないう日もあった。外に出られない時は雨の日おもちゃを出して室内でも楽しく遊べるように工夫した。 夏休みに入ると午前中に水遊びを行った。子どもたちは水鉄砲やホースシャワーの水遊びを楽しんだ。普段はできない遊びのため、みんな楽しそうに遊んでいる姿がみられた。また、暑い日が多いことが予想されたため、室内でも楽しく遊べるように室内用の遊具を増やした。おもちゃ増やしたことで遊びが小集団に分散される効果がみられた。	10日(水)カロム講習会 外部講師を招きカロム講習会を行った。カロムのルールや歴史について話を聞き、その後はみんなでもカロムの実践を行った。子どもたちは、講師であるカロム大使と試合をしたり、ポイントを教わることができた。 19日(金)昼食会 昼食会ではみんなでも「コロッケカレー」を食べた。皆と一緒に食事を楽しみ、たくさんおかわりをしていった。 25日(木)交通安全教室 道路交通安全課の方に来ていただき、ビデオや紙芝居で自転車に乗っている時の注意点や交通ルールについて学んだ。	退所:1名(3年)
8月	お盆の週を除き、在籍児童の半数を超える児童が登所した。熱中症指数が高い日が多く、毎日外遊びを制限していた。そのため、多くの子どもたちが思い通りに身体を動かして遊ぶことができず、些細なことでトラブルになることがあった。自分の気持ちを言葉で伝えられるように、職員が間に入って丁寧に話をした。一方で、ドッジボールやおままごとなど、遊びを通じて友達同士の仲が深まり、仲間意識が芽生えてきた様子もあった。 月初にけん玉の講師を招き、技やコツを子どもたちに指導していただいた。「けん玉部」を創設するほど、競って熱心に取り組んでいる子もいた。 3年生とともに、近隣の店へ書籍の買い出しに出かけた。買い物の経験と、自身で選んだ学童クラブの備品を大切に使うための良い機会となった。 学童クラブの玄関前で水遊びや、スライム工作、おみせやさんの準備となるプラバンづくりなど、夏休みを楽しく過ごすためにいくつか準備を行ったが、子どもたちが1か月を超える長い夏休みをより充実して過ごせるように、次年度はさらに工夫して育成を行いたい。	8月中旬～ スライム工作 子どもたちに好きな色とラメ粉末を選んでもらい、スライム作りをした。蓋つきの容器を1人1つ用意し、容器の中で作って持ち帰るようにした。作った日にスライムで遊ぶことのできるスペースを設置した。	夏一時入所:1名(1年)
9月	9月に入ってもなお酷暑が続き、月の前半は真夏同様に外遊びを制限して行った。中旬から暑さが落ち着く日も増え、鬼ごっこやサッカーなど子どもたちが各々の好きな外遊びを楽しんでいた。毎日のように学年問わず一緒にドッジボールで遊んでいた。徐々に体を動かして遊ぶことができたためか、熱中症のような症状を見せる子もおり、気温の変化に順応できるよう体調管理を呼びかけた。 3年生と2年生の有志でおみせやさんの準備を始めた。各おみせごとにポスター・看板作りや、役割分担などを行った。話し合いを進めるなかで、リーダーシップをとる子や、自分の意見をうまく伝えられない子もいたが、職員がサポートしながら着々と準備を進めている。	11日(水) 避難訓練 放課後子ども教室と共催で地震の防災を想定した訓練を行った。 子どもたちと地震の時の身の守り方や、校庭への避難方法を確認した。職員にとっても、職員同士の声掛けや役割分担を改めて確認する機会となった。 18日(水) 誕生会 9月生まれの誕生日を祝い、各グループで誕生日会を行った。おやつに、フルーツポンチを食べた。	入所:1名(1年) 退所:1名(2年)

10月	10月に入り涼しくなり、制限なしで外遊びができることが増えた。また、けが防止の為、外遊びに出る際には校庭の半分を1周走って体を温めてから遊ぶよう、声掛けを行った。子どもたちの間では鬼ごっこが人気で、学年男女問わず大人数で遊んでいる姿がよく見られた。また、ドッジボールで遊ぶ子どもも多く、放課後子ども教室の子どもたちも一緒に遊ぶことが増えた。低学年の子は中・高学年の子に負けじとボールをキャッチしたり一生懸命当てる姿がみられ、異学年の交流が深まった。 10月後半に11月に予定されている「カロム大会」の予選を行う告知を行うと、外遊びに行く前にカロムを練習する子が増えた。中でも1年生が熱心に練習する様子が多く、みんなメダルを目指して一生懸命頑張っていた。	12日(土) おみせやさん 保護者含め207名の参加があった。担当の子どもたちは「お客さんが楽しそうに回ってくれていて嬉しかった」「とっても楽しかった」と感想を述べた。 16日(水) お留守番教室 事前に「おるすばんノート」を各家庭に配布し、家庭で確認をお願いした。学童クラブでは各学年ごとに分かれて、記入済みの「おるすばんノート」をもとに放課後の過ごし方について、確認をしながら注意点について話をした。 17日(木) 個人面談 22日(火) 冬時間降所開始 23日(水) 誕生会 10月生まれの誕生日を祝い、各グループで誕生日会を行った。おやつ:チョコバナナ生クリーム。 26日(土) 貝取小グリーンデイ 地域の方と一緒に、学校界隈の道でゴミ拾いしたり雑草抜きの清掃活動に参加した。	入所:1名(1年) 退所:2名(1年・2年)
11月	過ごしやすい気温の日が多く外遊びに行く子どもが増え、ブランコやのぼり棒などの遊具、なわとび、サッカー・バスケットボールなどで遊んでいた。また、来年1月に開催予定のドッジボール大会に向けた作戦会議以降、全学年を通してドッジボールの練習に熱心に取り組む様子が見られるようになった。外遊びに出る機会が多くなり、突き指や転倒による擦り傷などの怪我をする子が増えた。 冬季の間、薄暗い玄関先を明るく照らすイルミネーションの点灯式を行った。先月から冬時間降所を開始したため、グループごとの一斉おやつからレストラン形式でおやつを提供する等、冬時間降所に合わせた生活時間に変更した。子どもたちは好きなタイミングで友達とおやつを食べることができ、嬉しそうにしていた。帰りの会の後に学習できる時間を使って、宿題に取り組む子どもも多かった。 月の後半ではインフルエンザが流行し、1年生は27日から29日の三日間、学級閉鎖となった。	20日(水)カロム大会 自施設内でトーナメント参加者を募り38名が参加、上位4名で決勝・準決勝・3位決定戦を行い、当日はみんなで応援した。 27日(水)誕生会 11月生まれの誕生日を祝い、各グループで誕生日会を行った。フレンチトーストにチョコソースやアイスをトッピングしたおやつを食べた。 30日(土)3年生遠足 3年生は遠足で新江ノ島水族館へ行った。準備に週に2回ほど集まり、ロマンスカーの座席や班ごとの道順を話し合った。当日はインフルエンザのため児童1名が欠席となったが、3年生21名が参加した。	入所:2名(1年・4年)
12月	晴れの日が多く、元気に外で体を動かす子どもたちが多かった。同時に寒い日が増え、転んだり滑ったりというケガが増えた。ケガ予防のため、外遊びに出る前に手足をほぐしたり校庭を一周するなど準備体操を念入りに行うようにした。 1月に予定されているのびのびドッジボール大会に向けて、子どもたちのドッジボール熱が高まっていた。中には代表に選ばれず悔しい思いをした子もいたが「今度はもっと上手になって代表に選ばれるんだ!」と前向きに練習を積み重ねる姿に、大会に出場する子たちも一層練習に励む様子がみられた。 子どもたちが楽しみにしていたお楽しみ会は、事前に「発表をしたいこと」を聞いて発表者を募り、発表者は遊びの時間中に練習や準備をした。当日前半は、ピアノの音色に大きな拍手を送り、マジックの発表にはみんなで驚き、ダンスには手拍子で観客の子たちも大いに盛り上がった。後半は外遊びのこおり鬼をみんなで楽しんだ。その後のおやつは三ツ矢サイダーで乾杯し、ロールケーキに各自飾りつけをして楽しい時間を過ごした。	・10日(火)防犯教室 学年別に降所路の危険個所を確認。 ・11日(水)誕生会 各グループで12月生まれの誕生日会を行った。おやつ:プリンアラモード ・18日(水)お楽しみ会 3年生が集団ゲームを企画した。 ・23日(月)映画会 8月に台風の影響で開催できなかった星空映画会を開催した。 ・25日(水)冬の工作開始 枝に毛糸をまきつけドリームキャッチャーを作った。 ・26日(木)たまふくカップ(カロム大会) 各施設の代表が集いクラブ対抗のカロム大会を行った。 ・27日(金)大掃除 自分たちのロッカーやマットを綺麗にすることで新年の準備をした。	退所:1名(2年)
1月	晴れの日が多く、外遊びでサッカーやドッジボールをして体を動かして過ごしている子どもが多かった。乾燥している日には砂埃が起こり、手で顔を覆うように声掛けを行った。 子どもたちが楽しみにしていたドッジボール大会が行われた。午前中は雨で開催できるか直前まで分らなかったが、職員や子どもたちのグラウンド整備で無事開催することが出来た。ドッジボール大会に向けて普段の練習では、放課後子ども教室の子どもたちと練習試合をして速いボールに慣れることができ、本番で上級生のボールをキャッチすることができていた。結果は準優勝だった。決勝で負けて悔し涙を流す子もいたが、気持ちを切り替え表彰式に参加し賞状を受け取った。 貝取小放課後子ども教室との共催行事「子どもたちと芸術家のであう街アウトリーチ東京フィルハーモニー管弦楽団 弦楽四重奏」では、貝取小中学校内の貝取ホールで行われた「室内楽コンサート」に参加した。東京フィルハーモニー交響楽団のヴァイオリン・ピオラ・チェロ奏者による弦楽四重奏は、普段あまり触れることが無い弦楽器を目の前に、子どもたちも真剣に楽器の音色に耳を傾け、本物の音楽を楽しんでいた。	・8日(水)避難訓練 火災を想定して行った。校庭への避難方法を確認した。職員にとっても、職員同士の声掛けや役割分担を改めて確認する機会となった。 ・18日(土)冬時間降所終了 ・21日(火)東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ・22日(水)誕生会 1月生まれの誕生日を祝い、各グループで誕生日会を行った。おやつに、チョコバナナ生クリームを食べた。	退所:1名(1年) 入所:1名(4年)
2月	晴れの日が続き、日中は少しずつ暖かくなってきた。子どもたちは外でドッジボールやサッカー、鬼ごっこなどたくさん体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、乾燥の影響で校庭には砂がよく舞い上がり、風の強い日には砂嵐が起きていた。そのため砂が目に入ったと訴える子どもが多かった。 3年生は卒クラブに向けて児童館見学に行ったり、進級お祝い会に向けて出し物練習をしたりしていた。また、2年生が3年生外出や練習でグループの席にいない日は、日直を担ったり新入生歓迎会の準備を始めたりと進級に向けての意識が高まっている様子だった。	12日(水) 防犯訓練 降所ルートを映像で確認しながら、通行に注意するところや危険個所を子どもたちと確認した。 26日(水) 誕生会 2月生まれの誕生日を祝い、各グループで誕生日会を行った。おやつにフオンダンシヨコラを食べた。 27日(水) 児童館見学 3年生を連れて豊ヶ丘児童館を見学しに行き、館長に館内を案内してもらった。	入所:1名(3年)
3月	晴れの日が多く、外遊びでサッカーやドッジボールをして体を動かして過ごしている子どもが多かった。気温が高い日が続いたので適度に水分補給を摂るように声掛けを行った。 子どもたちが楽しみにしていた昼食会が行われ、カレーライスを食べた。子どもの食べる量が増え、半数以上の子どもたちがおかわりをし、満腹で食休み中に昼寝をする子もいた。 12日に進級お祝い会を行った。出し物をする子どもたちは、お祝い会にむけて練習したマジックやダンス、ピアノの曲などを披露した。また雨のため、企画していた集団遊びをすることはできなかったが、職員の幼少期時代を写真で当てるクイズを行ったところ、クイズに正解し飛び跳ねて喜ぶ子どももおり、大いに盛り上がった。 最後におやつでチョコレートケーキを提供すると、子どもたちからは「美味しかった」という声があがり、思い出に残る行事となった。	1日(土) 貝取小グリーンデー 貝取小中学校のグリーンデーに参加、花壇清掃を行った。 7日(金) 新入所説明会 15家庭の参加があった。 12日(水) 進級お祝い会 14日(金) 避難訓練(地震) 震度7の地震の発災後火災が発生したことを想定し、屋外避難の訓練を行った。 19日(水) 誕生会 24日(月) 昼食会	

2024年度 貝取小学童クラブ 参加研修一覧

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
1	正職員	日本学童保育学会 第12回研究大会	日本学童保育学会	オンライン	6月	学童保育についての研究発表	×	○
2	正職員	ティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター	7月	子どもの見立てと対応について	×	×
3	正職員	学担中級編	多摩市	市内学童クラブ	7月～	学担基礎編について	×	×
4	正職員	中堅層研修	多摩福祉会	法人内施設	6月～	中堅職員育成研修	×	×
5	全職員	保育・学童支援 合同研究集会	多摩福祉会	法人内施設	11月	私たちが学びつづける理由	×	×
6	正職員	学童クラブ 担当者会議	多摩市	貝取小学童 クラブ	10月～2月	防災・子ども家庭支援センター・応急 手当・島田療育センター	×	×
7	正職員	課内研修	多摩市	オンライン	7月・10月	安全管理研修	×	×
8	正職員	たま研	学童クラブ職員	法人内 学童クラブ	6月～12月	職員による自主的な研修	×	×
9	正職員	支援員研修	東京都	品川	7月	放課後児童支援員認定資格研 修	×	×
10	正職員	島田全体研修	多摩市	オンライン	1月	子どもの支援について	×	×
11	正職員	支援員研修	東京都	国立・新宿・王 子	9月～2月	放課後児童支援員資質向上研修	×	×
12	正職員	東京都放課後子 供総合プラン研修	東京都	オンライン	1月	学校との連携による放課後活動 の充実について	×	×
13	正職員	島田全体研修	多摩市	ベルブ永山	2月	応用行動分析について	×	×
14	正職員	救命講習	多摩市	市内児童館	9月	救急救命講習	×	×
15	正職員	1、2年目研修	多摩市	市内学童クラブ	9月・11月	島田療育センター	×	×
16	正職員	基礎学担	多摩市	法人内施設	11月	多摩市学童クラブ育成支援要領 について	×	×
17	正職員	新入職研修	法人	こぐま保育園	3月	入職時研修	×	×
18	正職員	管理職研修	東社協	オンライン	6月	管理職員の役割について	○	×
19	正職員	第59回全国学童クラブ 研究集会	全国学童保育連絡協 議会	岡山	11月	困難を抱える家庭を支える学 童保育	×	○
20								
21								
集計								

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
26	有期契約職員	放課後児童支援員研修	東京都	オンライン	6月～7月	支援員の資格取得	／	×

貝取小放課後子ども教室 2024 年度事業報告

1. 児童状況

- (1) 児童数 222 名 (2024 年 4 月 1 日現在)
- (2) 対象年齢 6 歳～12 歳 (小学 1 年生～6 年生)
- (3) 活動日 2024 年 4 月 10 日開始
①給食のある平日 ②夏休み 冬休み 春休みの長期休業日
- (4) 活動時間 ① 学校下校時～17:00 ② 9:00～16:30
- (5) 登録児童数 (2025 年 3 月 31 日現在)

学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	(内みどり 学級)	合計
人数	26 名	29 名	36 名	33 名	35 名	9 名	20 名	168 名

2. 職員体制

- 正職員 1 名 (運営コーディネーター1 名)
- 有期契約職員 3 名 (リーダー1 名 運営スタッフ 2 名)

- (1) 正職員 (2024 年 4 月 1 日現在)

職種	室長
人数	1 名

- (2) 有期契約職員 (3 名)

契約時間	5H× 週 4 日	3.5H× 週 3 日	3.5H× 週 3 日	計
人数	1 名	1 名	1 名	3 名

- (3) 職員研修

- ・ 学童クラブ職員対象の研修に加え、放課後子ども教室担当職員対象の研修にも併せて参加することができた。
- ・ 職員の自主的な研修の場である「たま研」にも参加した。職員交流を中心に他施設での行事の様子や計画書の意義について議論を行った。

3. 2024 年度に取り組んだこと

<全体について>

- ・ 従来、PTA が運営していた毎月 1 回の事業とは異なり、週 5 日行うという点が大きく変わった。子どもたちからも毎日遊べる場所ができてうれしいという声が上がった。学童クラブに通っていない子どもたちが、放課後に職員の見守りのもとで、学校内で遊べる場所を増やすことができた。
- ・ 子どもたちの求めるニーズに応えられるよう、匿名で意見を投稿できる『おねがいボックス』を設置した。日々たくさんの意見が寄せられ、それらの意見を参考にしながら遊具やルールについて子どもたちと共に決めていくことができた。

<活動について>

- ・ 学童クラブの避難訓練と共に、災害時に備えて避難訓練を行った。
- ・ 日々振り返りと反省の時間を十分に取って、子どもたちの様子や配慮の方法についての意見交換を行った。どの職員が見守りに入ってもわかるように詳細に記録を取り、方向性の相違が出ないように努めた。また学校とも常に連携し、気になった子どもの様子については都度意見交換を行い、子どもたちを包括的に見守ることを心掛けた。
- ・ 東京都の人材育成プログラムを利用し、ブラインドサッカーと和太鼓教室を行った。参加した子どもたちからは、初めての体験に対して好意的な意見が多く寄せられた。
- ・ 工作週間を設け、不要になった T シャツを再利用し、エコバッグ作りを行った。SNS を通じて工作週間の周知を行ったが、保護者に伝わっておらず、持ち物としていた古 T シャツを持ってこない子がたくさんいた。行事の周知については今後も課題である。
- ・ 学童クラブ、児童館と共催でドッジボール大会を行った。参加した子どもたちは大会に向けて日々練習に励み、地域の子との交流を楽しんでいた。

<不登校児童への対応>

- ・ 毎日学校に通うことは難しいが、放課後子ども教室で友だちと過ごすことを楽しみにくるといふ子もいた。そのような子も分け隔てなく受け入れた。
- ・ 学校には行き渋りをしていたが、放課後子ども教室ができてから交友関係が広がり、学校へ行ける日が増えたという子もいた。

<保護者との関係>

- ・ Instagram や X を通じて放課後子ども教室での様子や行事の周知などを行った。

- ・ 保護者が子どもの所在確認や問い合わせ等を学校にすることが多かったため、学校とも相談をし、放課後子ども教室の電話番号を学校の配信システムを通じて全家庭に周知した。周知後は学校に対する問い合わせは減った。
- ・ 怪我や喧嘩について保護者と電話でやりとりを行うことが何度あった。学童クラブの在籍児童の保護者は学童クラブと同様の対応を求めてくることが多かったため、その都度説明を行った。今後は学童クラブの保護者会等を通じて、放課後子ども教室とはどのような場所なのかということを伝えていく。

<環境面>

- ・ 子どもたちがくつろげるようにソファや座布団などを数多く用意した。また、一人で来ても楽しめるように、子どもたちのリクエストを参考に漫画本を充実させた。
- ・ 活動部屋には6人掛けの座卓を7台用意し、受付部屋には4人掛けのローテーブルを2台用意した。子どもたちはその日のメンバーや雰囲気ですぐ部屋を決め、勉強や工作に取り組んでいた。
- ・ 利用時間にバラつきがあり、集まって話す機会が少ないため、掲示物やポスターなどを活用し、1日のスケジュールや行事のお知らせなどを視覚的にわかりやすく伝えることにした。

<関係機関>

- ・ 学童クラブとは日々密に連絡を取り合い、学童クラブ在籍の利用児童についての情報共有を行った。学校とも気になる児童についての情報を随時共有し、多角的に子どもたちの様子を見守るようにした。
- ・ 子ども家庭支援センターと利用児童について情報共有を行った。
- ・ 多摩市青少年問題協議会（青少協）に出席し、地域に向けて放課後子ども教室の活動の周知、報告を行った。
- ・ 多摩市放課後子ども教室安全サポートスタッフリーダー会議に参加し、多摩市内で活動する放課後子ども教室のスタッフと情報共有を行った。

<職場として>

- ・ 日々打ち合わせや振り返りの時間を十分に確保し、職員全員が意見を言い合える環境を作るようにした。立場が違う職員同士も隔たり無く意見を交わし合い、子どもたちのより良い放課後のために議論を重ね、今後の方向性を確認した。
- ・ 事前に相談を受けた上で、有給休暇を取得できるような環境を整えた。